

いし　　ばたけ

石畠遺跡

発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第164集

平成19年

財団法人 山形県埋蔵文化財センター



序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査した石畳遺跡の調査成果をまとめたものです。

石畳遺跡は南陽市北部の金山地区に所在し、吉野川右岸の段丘に立地します。川の両岸には白鷹丘陵が迫り、その地形を利用して中世には砦が築かれました。

この度の調査は、主要地方道山形南陽線改良工事に伴って行ったものです。

遺構としては土坑、溝跡、ピット群、遺物としては、縄文土器、石器を検出しました。出土した土器は、縄文時代中期から晩期にわたるものです。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先の足跡を学び、子孫へとつたえていくことが、私たちの重要な責務と考えます。その意味で、本書が文化財保護活動の啓発・普及・学術研究・教育活動などの一助になれば幸いです。

最後になりましたが、調査においてご協力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

平成19年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

理事長 山口 常夫

本書は、主要地方道山形南陽線改良工事に係る「石畳遺跡」の発掘調査報告書である。
既刊の年報、調査説明資料などの内容に優先し、本書をもって本報告とする。
調査は山形県の委託により、財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。
出土遺物・調査記録は、報告書作成後、山形県教育委員会に移管する。

調査要項

遺跡名	石畳遺跡
遺跡番号	南陽市M-1
所在地	山形県南陽市金山川西字石畳
事業委託者	山形県
調査主体	財団法人山形県埋蔵文化財センター
理事長	山口 常夫
受託期間	平成18年4月1日～平成19年3月31日
現地調査	平成18年5月15日～平成18年8月10日
調査担当	調査研究部長 尾形 輿典 専門調査研究員 伊藤 邦弘 主任調査研究員 渡辺 淳一（調査主任） 主任調査研究員 押切 智紀
調査指導	山形県教育庁教育やまがた振興課文化財保護室
調査協力	山形県置賜総合支庁建設部道路計画課 山形県置賜教育事務所 南陽市教育委員会

凡例

1 本書の執筆分担は、以下のとおりである。

第I章	渡辺 淳一
第II章	渡辺 淳一
第III章	押切 智紀
第IV章	押切 智紀
第V章 第1・2・3～6節	押切 智紀
第V章 第3節	渡辺 淳一
第VI章	渡辺 淳一・押切 智紀

2 高さは海拔高で表す。また、方位は座標北を表す。

3 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記の通りである。

S K…土坑

S X…性格不明遺構

S D…溝

S P…柱穴

R P…登録土器・土製品

R Q…登録石器・石製品

F…覆土

P…土器片

S…石

- 4 遺構・遺物の実測などは各図に示した。
- 5 写真図版は任意の縮尺で採録した。
- 6 基本層序及び遺構覆土の色調記載については1999年版農林水産技術会事務局監修の「新版基準土色帖」に従った。
- 7 発掘調査および本書を作成するにあたり、下記の方々から御協力、御助言を頂いた。(敬称略)
植松芳平、須藤隆、吉野一郎
- 8 委託業務は下記の通りである。

基準点測量業務 株式会社 山栄測量
遺構測量業務(俯瞰撮影・遺構実測) 株式会社 成和技術
遺物実測業務(完形土器・石器・石製品) 株式会社 成和技術

目 次

I 調査の経緯	1
1 調査に至る経過	1
2 調査の経過	1
II 遺跡の立地と環境	3
1 地理的環境	3
2 歴史的環境	5
III 遺跡の概要	6
1 基本層序	6
2 遺構と遺物の分布	7
IV 検出された遺構	10
V 出土した遺物	14
1 調文土器 弥生土器	14
2 土製品	22
3 石器 石製品	23
4 須恵器 土師器	26
5 陶磁器	26
6 錢貨	26
VIまとめ	27
報告書抄録	卷末

表

表1 繩文・弥生土器觀察表	63	表4 頸壺器・土師器・陶磁器觀察表	76
表2 土製品觀察表	74	表5 銭貨計測表	76
表3 石器・石製品觀察表	75		

図 版

第1図 調査区概要図	2	第21図 山上遺物(2)	44
第2図 地形分類図	4	第22図 出土遺物(3)	45
第3図 遺跡位置図	5	第23図 出土遺物(4)	46
第4図 基本層序	7	第24図 出土遺物(5)	47
第5図 遺構配置図	8	第25図 出土遺物(6)	48
第6図 A区(北)遺構配置図	29	第26図 出土遺物(7)	49
第7図 SK8・15	30	第27図 出土遺物(8)	50
第8図 SK17・89・S P257・S X14他	31	第28図 出土遺物(9)	51
第9図 SK262・S X18・99・267他	32	第29図 出土遺物(10)	52
第10図 A区(中央～南)遺構配置図	33	第30図 出土遺物(11)	53
第11図 SX29・S K266・S D31・S K269・S X67他	34	第31図 出土遺物(12)	54
		第32図 出土遺物(13)	55
第12図 SX30・S X115・116他	35	第33図 出土遺物(14)	56
第13図 SX84・S D100	36	第34図 出土遺物(15)	57
第14図 B区遺構配置図	37	第35図 出土遺物(16)	58
第15図 SX166	38	第36図 出土遺物(17)	59
第16図 SD187・S E132	39	第37図 出土遺物(18)	60
第17図 SD173	40	第38図 出土遺物(19)	61
第18図 SD236・241	41	第39図 出土遺物(20)	62
第19図 SD235	42	第40図 出土遺物(21)	63
第20図 出土遺物(1)	43	第41図 出土遺物(22)	64

写真図版

写真図版1	調査区全景	写真図版12	A区北S P249断面他
写真図版2	A区検出状況他	写真図版13	A区北S P94断面他
写真図版3	A区北完掘状況他	写真図版14	A区北S X14断面他
写真図版4	R P38出土状況他	写真図版15	A区中央S X81断面他
写真図版5	大木10式期深鉢形土器	写真図版16	A区中央北東壁層序他
写真図版6	B区完掘全景他	写真図版17	A区中央S K38断面他
写真図版7	縄文晚期前段～中段の上器	写真図版18	A区中央S D100山上上器他
写真図版8	重機稼働状況他	写真図版19	A区中央13～13G出土石器他
写真図版9	A区北完掘状況他	写真図版20	A区中央S X72・S P112・S K111
写真図版10	A区北の遺構検出他		完掘他
写真図版11	A区北S K90断面他	写真図版21	A区中央S X115・S K280他

写真図版22	A中央S X29断面他	写真図版47	出土遺物(17)
写真図版23	A区中央S K265断面他	写真図版48	出土遺物(18)
写真図版24	A区中央東17-11G出土土器他	写真図版49	出土遺物(19)
写真図版25	A区中央S X67断面他	写真図版50	出土遺物(20)
写真図版26	S X68- S K283完掘状況他	写真図版51	出土遺物(21)
写真図版27	B区排水水路掘り下げ状況他	写真図版52	出土遺物(22)
写真図版28	B区S K245掘り下げ他	写真図版53	出土遺物(23)
写真図版29	B区S K245検出と西壁崩落他	写真図版54	出土遺物(24)
写真図版30	B区S X166掘出他	写真図版55	出土遺物(25)
写真図版31	出土遺物(1)	写真図版56	出土遺物(26)
写真図版32	出土遺物(2)	写真図版57	出土遺物(27)
写真図版33	出土遺物(3)	写真図版58	出土遺物(28)
写真図版34	出土遺物(4)	写真図版59	出土遺物(29)
写真図版35	出土遺物(5)	写真図版60	出土遺物(30)
写真図版36	出土遺物(6)	写真図版61	出土遺物(31)
写真図版37	出土遺物(7)	写真図版62	出土遺物(32)
写真図版38	出土遺物(8)	写真図版63	出土遺物(33)
写真図版39	出土遺物(9)	写真図版64	出土遺物(34)
写真図版40	出土遺物(10)	写真図版65	出土遺物(35)
写真図版41	出土遺物(11)	写真図版66	出土遺物(36)
写真図版42	出土遺物(12)	写真図版67	出土遺物(37)
写真図版43	出土遺物(13)	写真図版68	出土遺物(38)
写真図版44	出土遺物(14)	写真図版69	出土遺物(39)
写真図版45	出土遺物(15)	写真図版70	出土遺物(40)
写真図版46	出土遺物(16)	写真図版71	出土遺物(41)

I 調査の経緯

1 調査に至る経過

石畳遺跡は、昭和30年頃に地区在住の上浦善助氏によって発見された。発見時、繩文土器や石器、種器、凹口、石斧などが出土し、出土土器の様相から中期末（大木9・10式）の集落跡とされた。当時から宅地化が進み、遺跡範囲については不明としている（南陽市史編さん委員会1989）。

その後、県道改良工事に伴い、教育庁社会教育課文化財保護室（以下保護室）の遺跡詳細分布調査が行われ、遺跡範囲、検出遺構が明らかになった。同調査は、平成16年12月13日～12月14日まで行われた。隣接する「可能性地1」（現B区）を含めて7本のトレーナーを入れて、遺構の状態が観察された。その結果、同遺跡南側に「可能性地1」を組み入れ、南北160m、東西80mの遺跡範囲とし、遺構の検出状況から「保存協議対象面積」を2,000m²とした。それを受け、保護室と事業主体である県との協議の結果、県の委託を受けて財團法人山形県埋蔵文化財センターが調査を行うこととなった。現地調査は、平成18年5月15日から8月10日までの約3ヶ月間行われた。同県道改良工事に伴う緊急発掘調査は、今回が2回目で、1998年10月に山形県教育委員会が向須C遺跡の調査を行っている（山形県1990）。

調査原因

2 調査の経過

平成18年

第1週

5月15日：器材搬入と事務所環境整備、14時より鋸入式、作業員オリエンテーション、帆杭設定。16日：調査区を北地区のA地区と南地区のB地区に分ける。17日：重機1台を導入し、A地区より開始。半数は表土除去後ジョレンによる掘り下げ、残りの作業員は手掘りでB地区的試掘作業。18日：同作業続行。19日：A区の南半分を面整理。柱穴・土坑・溝跡検出、繩文土器等中箱に1箱分出土。

第2週

5月22日：A区南から中央に移動して面整理。23日も同作業続行。24日：重機パックホーを1台追加、計2台でB区表土除去作業。同時にB区牛舎の基礎コンクリートをブレーカーで切断し破砕する作業開始。A区全景の検出写真撮影。A区S X81の遺構精査。基準点測量開始。25日：A区北部の面整理とA区南部の遺構精査。グリット杭とBM杭設定。26日：A区の基準点測量業務終了し、B区の基準点測量を開始。B区にある牛舎汚泥槽の異臭問題で県と協議し埋め戻す。出土遺物総数9箱。

第3週

5月29日：A区南と中央の遺構精査しS X115・S X68・S X84平面図と断面図作成。30

日：検出遺構の写真撮影。31日：B区北の面整理、B区中央を表土除去作業。S X115平面図・断面図の記録と出土状況の写真撮影。6月1日：B区北から中央にかけて面整理、B区南は重機による表土除去作業。2日：同作業継続。A区S X115よりR P17・R P18番号の土器片出土。土坑・柱穴など105基、出土遺物総数20箱。

第4週

6月5日：重機によるB区の深掘り。6日：B区面整理とB区全景写真撮影。7日：大雨のため発掘作業を中止し、排水作業・調査区西壁を矢板で補強。休憩プレハブで遺物洗浄。8日：B区北面整理とB区S X・S Dの遺構精査、B区北の遺構検出写真撮影。9日：雨のため発掘作業中止。調査員のみ図面整理と帳簿書類の点検と整理。出土遺物総数26箱。

第5週

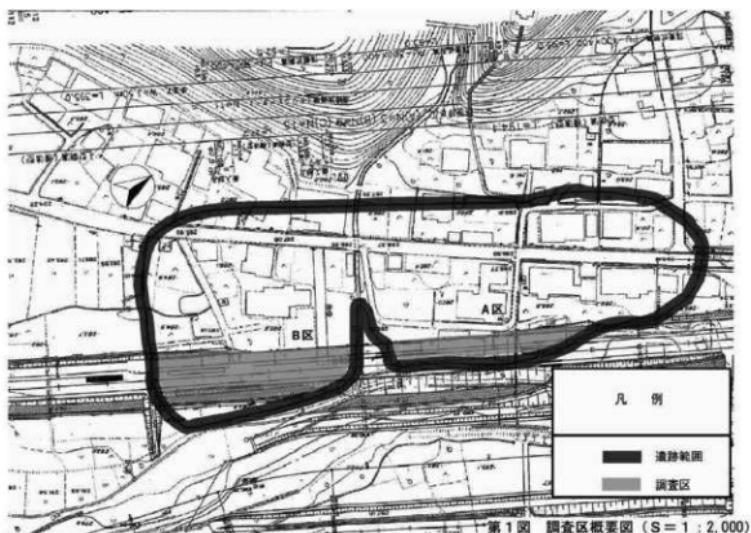
6月12日：B区北S X117・S E132の遺構精査とB区南東トレンチ断面等の写真撮影。13日から16日もB区の遺構精査。検出遺構総数165基。

第6週

6月19日：B区S E132の完掘状況の写真撮影。18日・19日：B区S D187R P29出土遺物レベル等の計測。21日・22日・23日：B区S X117に近接する西側の民地の一部を地権者の立ち会いのもと調査し、S X166検出。出土遺物総数32箱。

第7週

6月26日：S X166出土遺物写真撮影。B区基本層序確認と下層より溝跡検出。27日から30日：B区内の遺構精査を継続。地山の砂利層より貝の化石を数点採取。



第8週

7月3日：B区S D235・S D241精査。4日から7日までB区南の面整理。遺構総数246基、出土遺物総数35箱。

第9週

7月10日：雨のため室内で遺物洗浄。11日：B区南東の面整理。12日：A区北（A区の最北端地区）の面整理開始。13日：雨のため発掘作業中止、調査員のみ発掘調査現地説明会の準備作業。遺構総数247基、出土遺物総数36箱。

第10週

7月18日：A区北の遺構精査、雨避けテントを設営し作業。19日から21日までA区北の精査を続行。R P38注口土器、石棒検出。遺構総数270基、出土遺物総数44箱。

第11週

7月24日から27日まで、A区北の精査と完掘。A区中央付近のS X115東側を扯張。B区S X166の精査。28日：雨のため室内にて遺物洗浄作業。遺構総数285基、出土遺物総数50箱。

第12週

7月31日から8月3日まで、A区中央からA区南の遺構精査と完掘。8月4日：発掘調査現地説明会準備と現地説明会の実施。遺構総数286基、出土遺物総数60箱。

第13週

8月7日から9日まで、B区S X166、S D187遺構精査と出土遺物写真撮影。遺構測量委託業務。10日A区扯張部分とB区S X117遺構精査と写真撮影、遺構測量業務。器材整理と搬出作業。遺構総数286基、出土遺物総数60箱。

引用文献

- 南陽市史編さん委員会 1989 『南陽市史 考古資料編』
山形県教育委員会 1990 『向原C遺跡発掘調査報告書』(山形県埋蔵文化財調査報告書第156集)

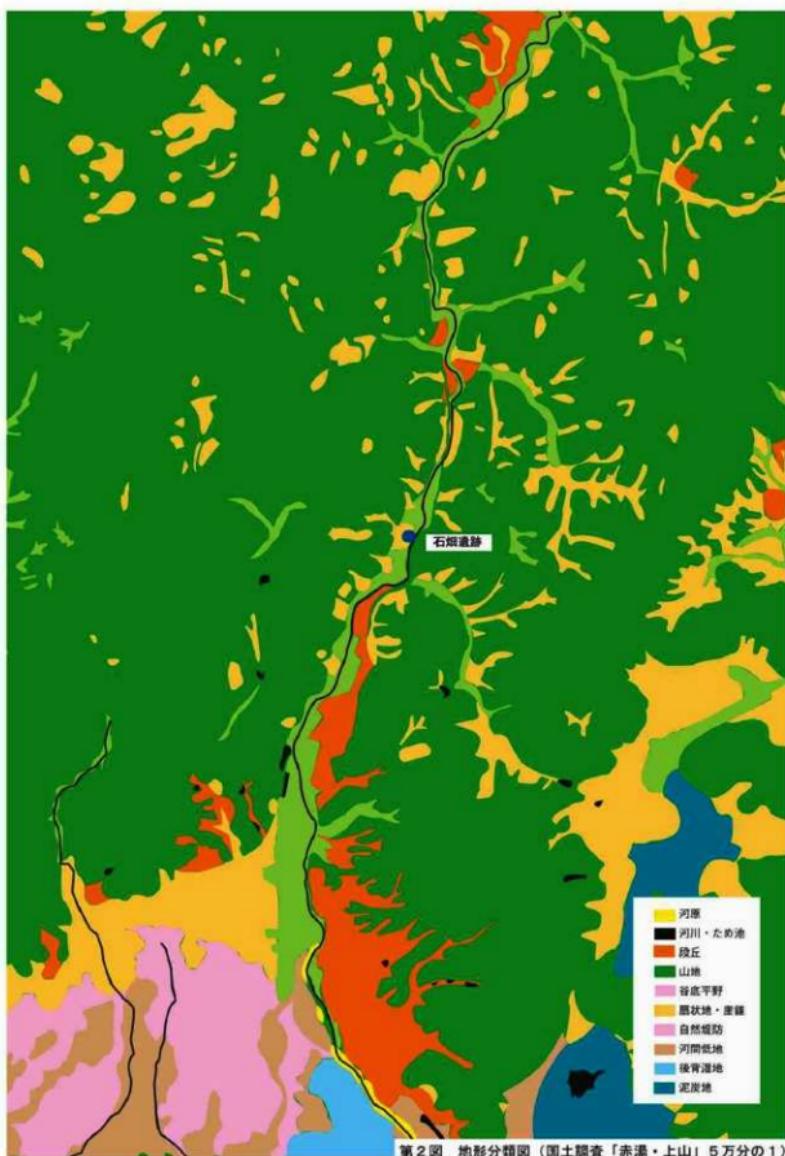
II 遺跡の立地と環境

1 地理的環境

南陽市は山形県南部に位置し、米沢盆地の北辺にあたる。同市には、最上川の支流として吉野川・上無川・織機川が南北に蛇行しながら流れる。その河川により扇状地が形成されていった（第2図地形分類図参照）。宮内扇状地は、吉野川と織機川が上流地帯の山地を侵食して運搬し、堆積した扇状地全体を指している。北側に鷹戸屋山地・大平山地がある。東側に大谷地低湿地、南東側に屋代川、南西側に最上川がある。本遺跡の標高は290mを測る。

本遺跡は、山形県南陽市金山川西字石畠に位置し、南北に椿円形状に広がっている。遺跡面積は10,000m²を超えるが、今次の調査区はその内の東端、2,000m²を対象とした。

遺跡は吉野川右岸の河岸段丘上にあり、絶えず河川の増水による影響を多分に受けている。 吉野川段丘



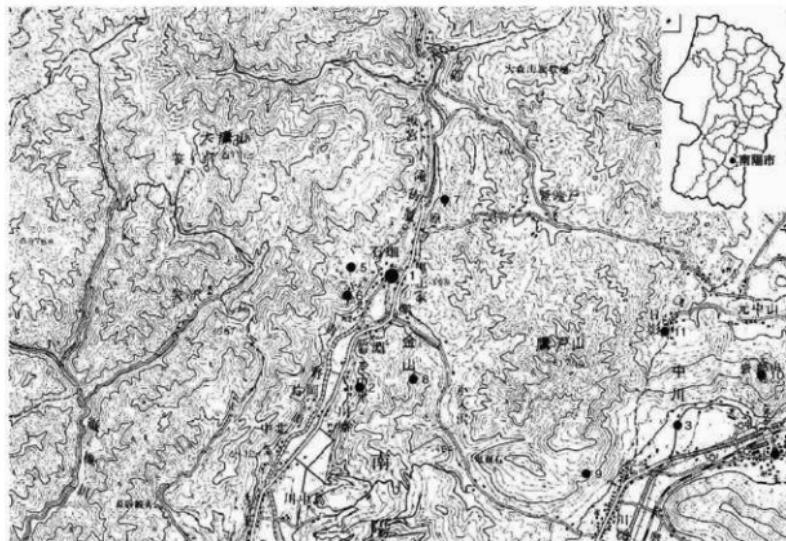
本遺跡東側を南北に貫流している同河川は、白鷹町と南陽市の境にある大塙山を源として、木林地区を通り北側に大きく蛇行しながら南へ流れている(吉野文化史研究会1996)。そして、市内平野部を西に屈曲しながら流れ、小河川を集めながら最上川と合流している。源流である吉野地区には、縄文時代の遺跡が点在している。

2 歴史的環境

南陽市内の遺跡の発見・確認は、昭和50年代の南陽市史編纂事業や県文化財課の試掘作業によるところが大きい。現在その数は200箇所を越えている。また、近年の国道や県道工事に伴う市内遺跡数発掘調査によって、平野部の遺跡数が増加している。

次に周辺の遺跡の概略を述べることとする(第3図遺跡位置図参照)。図中に見るように、縄文時代の集落や中世の館跡が点在していることがわかる。本遺跡の西に近接する山には、金の採掘地であったことに由来する金座館跡がある。砦的な施設があったともいわれている。この金座館跡より1.5キロ北西には大鷹山があり、その西眼下に織機川が流れている。この織機川の段丘上に、笹小平遺跡がある。表採だが、頁岩製の両尖匕首が出土している。更に、西の漆山を登

金座館跡
織機川跡
笹小平遺跡
西尖匕首



番号	遺跡名	時代	種別	番号	遺跡名	時代	種別
1.	石畠遺跡	縄文	集落跡	7.	御獄山物見	中近世	船跡
2.	三入山遺跡	縄文	集落跡	8.	堆積岩物見	中近世	船跡
3.	岩谷堂遺跡	縄文	集落跡	9.	虚空蔵山船	中近世	船跡
4.	小羽沢遺跡	縄文	集落跡	10.	岩部山船	中近世	船跡
5.	金座館	中近世	館跡	11.	日影船	中近世	船跡
6.	天狗山館	中近世	館跡				

第3図 遺跡位置図(国土地理院発行5万分の1「赤湯」を使用)

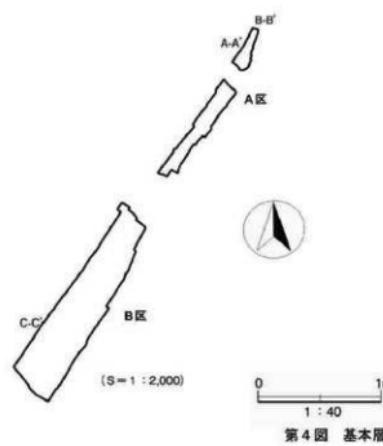
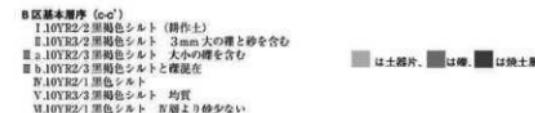
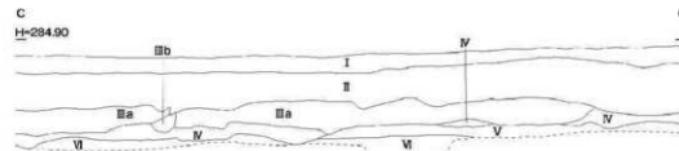
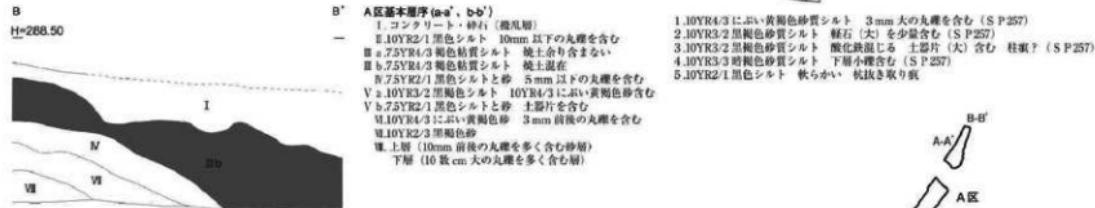
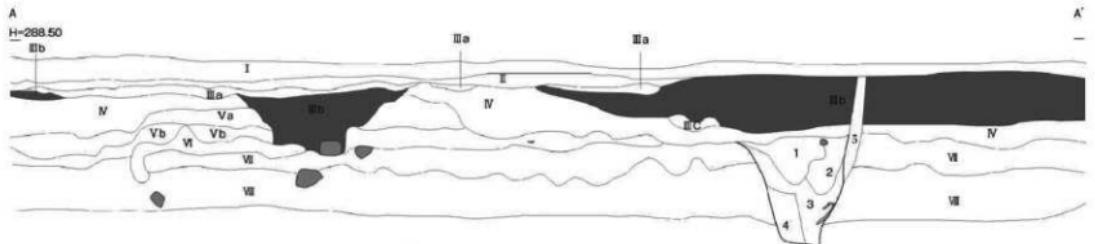
り降りると須刈田に出る。この須刈田には、縄文時代早期から中期初めまで生活が営まれた大野平遺跡がある。出土した土器には、「縦や横方向に平行して数条の沈線文が施される尖底深鉢」もある。宮内扇状地の扇頂部にあたる熊野大社周辺には、縄文時代中期後葉の久保遺跡がある。吉野川流域より織機川周辺に人々の生活が営まれた理由の一つには、織機川の勾配が吉野川のそれより緩いこと、吉野川上流には白鷹山丘陵群の主峰白鷹山があり、周囲に降った雨は一気に谷の吉野川に集中し、水らく吉野川流域部が安定しなかったことが考えられる。吉野川流域にしだいに遺跡が増加し始めるのは、縄文時代中期以降、河川沖積作用の進行と安定の結果であろう。本遺跡の他に吉野川流域で確認されている縄文時代の遺跡には、後期から晩期にかけて営まれた南陽市立小滝小学校周辺の河岸段丘上にある向畑C遺跡と支流沿いにある熊野山遺跡、赤山地区の古野川支流2キロ上流にある晩期の赤山大醒ヶ井遺跡、赤湯三間通の自然堤防上に三脚石器が出土した中期後葉の諏訪前遺跡がある。古野川を挟んで対岸には三入山遺跡がある。当遺跡は、昭和55年の果樹園造成工事時に、高橋義博氏が遺物を発見したことによる。遺物は、縄文土器や搔器などである。縄文土器は小破片であるが、縄文時代前期に位置付けられるものである。特に平安時代の須恵器・土師器が出土しており、本遺跡より北の遺跡と趣を異にしている。本遺跡から東側の丘陵地を越えると、岩谷堂遺跡や小瀧澤遺跡などがある。南陽市東北部には、岩谷堂遺跡などの縄文時代晩期の集落が点在している。弥生時代については、段丘地内からの出土例がなく、市内南側の平野部からの事例がほとんどであった。金山地区に隣接する中川地区では、1988~89年まで月ノ木B遺跡の発掘調査があり、縄文時代前期の土器の他に弥生時代中期末~後期半ばごろの一群が出土している。少量ではあるが本遺跡に後続する時期のものであり、注目されよう(山形県教育委員会1989)。

館跡 中近世では、館跡が挙げられる。金座館の主郭は標高362mを測り、縄張りは径170mの不整形を呈する(山形県教育委員会1995年)。他に天狗山館、御嶽山物見などが小滝街道沿いの小高い山々に立地している。各館跡主郭部分からは、周辺の館跡や集落、街道が一望できる。

金山みかけ 本遺跡の北東1.5kmにある釜渡戸は、旧山形県庁舎にも用いられた金山みかけ(花崗閃緑岩)の産する地区である。また、北6km上流には、現在は閉山したが県内屈指の黒鉱鉱床(黄鉄銅・黄銅鉱・石英・石膏などの鉱脈)を持った吉野鉱山がある。昔、この鉱山周辺から採掘した金を室町幕府に献上したとも言われている。

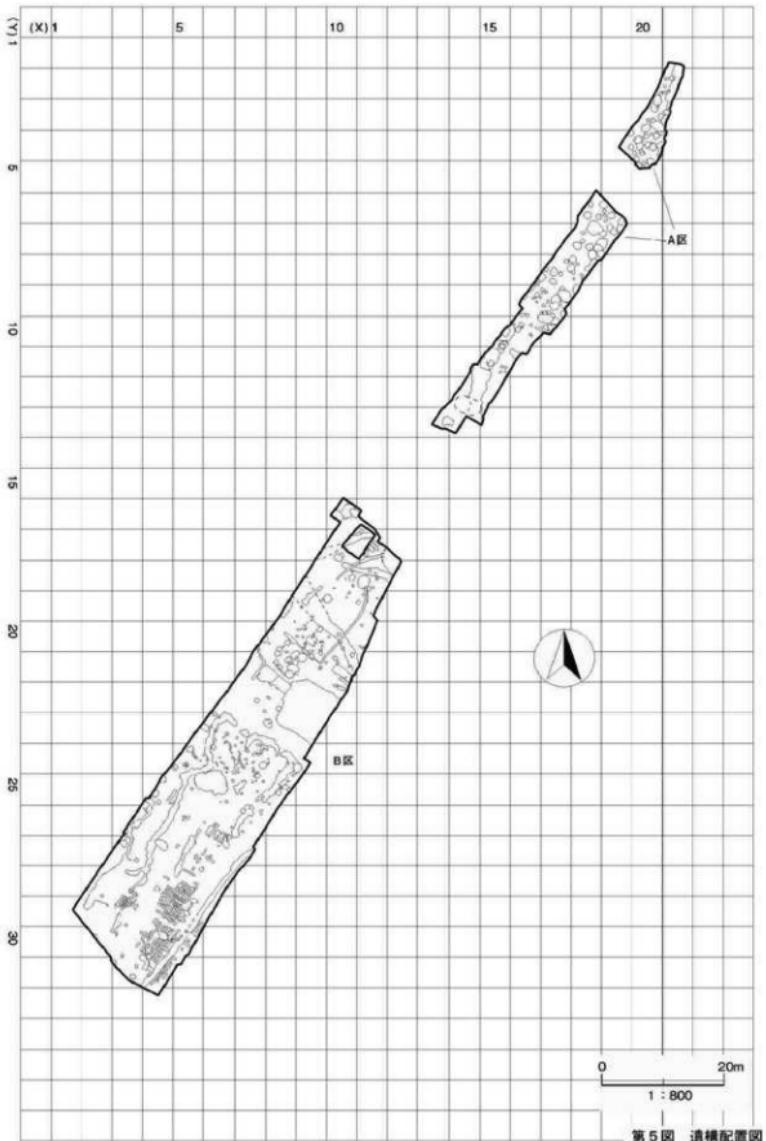
引用文献

- 吉野文化史研究会 1996 「吉野川の源流をさくる」『吉野文化史資料(16)』
 山形県教育委員会 1989 『月ノ木B遺跡発掘調査報告書』(山形県埋蔵文化財調査報告書第135集)
 山形県教育委員会 1995 『山形県中世城館遺跡調査報告書』(第1集)



第4図 基本層序

III 造跡の概要



第5図 遺構配置図

III 遺跡の概要

1 基本層序

A 区の基本層序(a - a' b - b')

- I 層 コンクリート・砂石(修築した家屋の基礎部分)
- II 層 10YR2/1黒褐色シルトに10mm以下の大きさを含む家屋敷地層
- III a 層 7.5YR4/3褐色粘質シルトに余り鐵土を含まない層
- III b 層 7.5YR4/3褐色粘質シルトに軟土・泥炭土の混合層
- IV 層 7.5YR2/1黒褐色シルトに砂、5mm以下の礫、遺物を含む層
- V a 層 10YR3/2黒褐色シルトに10YR1/3の黄褐色を含む層
- V b 層 7.5YR2/1黒褐色シルトに砂、土器片を含む層
- VI 層 10YR4/3褐色地帯に3mm前後の丸鐵を含む層
(V・VI層とも不安定堆積で場所によっては織網されない)
- VII 層 10YR2/3黒褐色地帯に大小の礫を多く含む地山層
- VIII 層 上層：砂層で10mm前後の丸鐵を含む地山層
下層：10mm大の丸鐵を含む地山層

B 区の基本層序(c - c')

- I 層 10YR2/2黒褐色シルトの耕作土
- II 層 10YR3/2黒褐色シルトに3mm以上の礫と砂を含む旧表土層
- III a 層 10YR2/3黒褐色シルトに大小鐵を含む層
(硬くしまる遺構接続面)
- III b 层 10YR2/3黒褐色シルトに風化鐵の混在層
- IV 層 10YR2/1黒褐色シルト(一時的に保地化した層)
- V 層 10YR3/3黒褐色シルトの間層(遺構接続面)
- VI 層 10YR2/1黒褐色シルトでⅣ層より砂の少ない層
(一時的に保地化した層)

2 遺構と遺物の分布

今回の調査において検出された遺構は、286基を数える。その内訳は、土坑72基、柱穴152基、性格不明遺構39基、溝跡21条、河川跡1条、井戸跡1基である。性格不明遺構の中にはS X166のように竪穴住居跡の可能性があるものもある。現時点での判断が困難なものを全て性格不明遺構とした。遺構検出面は、A区においては、VII層、B区においては、IIIもしくはV層である。しかし、一時的に観察される層や場所によっては様相の違う層もあり一概に言えない部分もある。

A区北側には、土坑や柱穴、性格不明遺構が検出され、特に明確な柱痕を持つ柱穴が点在しているのが特徴である。恐らく、掘立柱建物や竪穴住居の存在を窺わせる遺構である。残念ながら調査区の幅が狭いため、予測の城を出ない。A区中央～南には、土坑や溝、沢の他、性格不明遺構も検出されている。土坑間の切り合いから新旧関係が明確な遺構が見られる。遺構の変遷を含めて後述しているので、参照されたい(「IV 検出された遺構」)。

A区の遺構

B区北側には、土坑や性格不明遺構、溝(沢とすべきか)などが、南側には溝などが検出されている。北側の溝(沢)は山側の西側から現河川側の東側に急激に傾斜している様子が窺える。また、北側には間層を挟んで2層の文化層が検出されている。中近世の遺構として井戸も存在していた。南側には、南北に流れている溝が蛇行している様子が見られる。

B区の遺構

今回、遺物点数を数えたところ4,456点であった(胎土などから同一個体と思われるものや判別が困難な1～2cm以下の小破片は省いた)。遺構外のもの除去と、3,792点を数える。大まかな時代毎の集計では、縄文中期(240点)、縄文後期(803点)、縄文晩期(396点)、弥生(42点)である。ただし、時代不詳の粗製土器の破片が3,000点余りあり、実数は各時代増えると思われる。また、遺物量の多い遺構は、S X276(248点)、SK280(225点)、SK17(116点)の順で多い。割合的に粗製土器や精製土器の部品の破片が7割以上を占める。ほとんどの遺構で中期の遺物のみの出土は無く、後期以降の遺物が必ず出土している。遺構の廃絶時期もそう理解できよう。

遺物点数

IV 検出された遺構

今回、検出された遺構は、286基を数える。ここでは、廃絶時期の推定でき、形状も明確な遺構について述べることとする。なお、便宜上、A区北からB区の順で記載している。

S K 8 (第7図)

20-2・3グリッド(以下G)内で検出された。平面プランは不整楕円形で、長径170cm、短径130cm、確認面からの深さは40cmを測る。断面形は、逆台形状で、土層は3層確認された。覆土1・3層から土器片が出土している。南側にある土抗の一部を壊している。遺構は、縄文時代後期後葉～晩期中葉以降の所属と考えられる。

S K 15 (第7図)

19・20-3・4Gで検出された。遺構の西端は調査区外にのびる。平面プランは、ほぼ円形と思われ、径は100cm、確認面からの深さは70cmを測る。断面中位に段を持つ。土層は1層であったが、西側の土層が不明であるため、柱穴の可能性もある。遺構は、出土遺物から縄文時代後期以降の所属と考えられる。

S K 17、S P 249・255、S X 247 (第8図)

S K 17は、21-2 Gで検出された。遺構の東側は調査区外にのびる。平面プランは、東西に長い楕円形である。長径の残存長は120cm、確認面からの深さは60cmを測る。S P 255は、S K 17から南側を壊されている。中心部分に柱痕があるのがわかる。柱を固定するために根固石を添えていた。S X 247もS K 17から北側を壊されている。S P 249は、21-2 Gで検出された。平面プランはほぼ円形で、径は90cm、確認面からの深さは70cmを測る。覆土は3層で、2層目としたのは柱痕、3層は掘り方と思われる。遺構東側でS X 247を壊している。S X 247は、21-2・3 Gで検出された。遺構の東側は調査区外にのびる。西側でS P 249に壊されている。南北径は150cm、確認面からの深さは34cmを測る。遺構はそれぞれ切り合い関係があるものの、概ね出土遺物から縄文時代晩期以降の所属と考えられる。

S K 89・274 (第8図)

S K 89は20-4 Gで検出された。平面プランは、不整楕円形である。長径は130cm、短径は110cmで、確認面からの深さは65cmを測る。西側でS K 274を壊している。最下層で、大洞C 1式に属する注口土器が出土している。遺構の所属時期もこの頃に求められよう。

S P 257 (第8図)

S P 257はA区北側の北西端にあたる21-2 Gで検出された。遺構の西側は調査区外にのびている。径は90cm、確認面からの深さ88cmを測る。柱底から大きめの土器片が出土した。器厚が薄く、晩期のものと推測する。

S K 266、S X 14 (第8図)

S K 266は21-3 Gで検出された。平面プランは、方形に近い。1辺は70cm、確認面からの深さは30cmを測る。S X 14の西端を壊す。S X 14は、21・22-3 Gで検出され、平面プランは、楕円形を呈す。長径は265cm、短径は150cmで、確認面からの深さは85cmを測る。覆土内に多量

の砂礫が混じる。両遺構は切り合い関係があるが、概ね縄文時代晚期以降の廃絶と思われる。

S K262、S X18（第9図）

S K262・S X18は20-4 Gで検出された。両者の平面プランは、梢円形を呈する。断面は中位に段を持つ。前者の長径は100cm、短径は70cm、確認面からの深さは60cmを測る。後者の長径は130cm、短径は125cm、確認面からの深さは53cmを測る。遺構は、出土遺物から縄文時代晚期～弥生時代に所属すると考えたい。

S X99（第9図）

S X99は、20-4 Gで検出された。平面プランは不整梢円形を呈する。長径は95cm、短径は75cm、確認面からの深さは25cmを測る。遺構は、縄文時代晚期に所属すると考えたい。

S X267（第9図）

S X267は、20-4・5 Gで検出された。南側の調査区外にのびる。長径の残存値は、110cmで、確認面からの深さは65cmを測る。遺構は縄文時代晚期に所属すると考えたい。

S X16、SK95（第9図）

S X16は20-4 Gで検出された。平面プランは梢円形を呈する。長径は140cm、短径は130cm、確認面からの深さは30cmを測る。南側でSK95を壊している。また、掘り込みの浅い柱穴により東西端を壊されている。覆土は、2層で、拳大の礫と砂が混じる。SK95は、やや長方形を呈しているが、北側をS X16から壊されているため、平面プランが明確ではない。深さは15cmと、浅い掘り込みである。SK95の出土遺物は、時代不明の粗製土器片のみであるが、S X16の主体的な遺物が縄文時代後期にあたるため、それ以前を所属と考えたい。

S P28・S X29（第11図）

S P28は、19-6 Gで検出された。平面プランは、不整梢円形を呈する。長径は130cm、短径は120cmで、確認面からの深さは60cmを測る。断面形は先細りになっている。S X29を壊している。S X29は、19-6・7 Gで検出された。東側の調査区外にのびる。径は、200cm、確認面からの深さは70cmを測る。最下層から大洞C 1式の浅鉢が出土した。両遺構とも、縄文時代晚期に所属すると考えたい。

S K265・271（第11図）

S K265は、19-7 Gで検出された。平面プランは不整梢円形を呈する。長径は125cm、短径は97cm、確認面からの深さは70cmを測る。断面形は台形状で、覆土中に小礫が混じっている。また、東側でSK271を壊している。遺物は、上層から縄文時代後期前葉の土器片が出土しているが、主体的な遺物は晚期半ばの様相を示す。底面から石棒が出土している。SK271の平面プランは西側の様子が不明確であるが、梢円形を呈していると思われる。長径の残存値は110cm、確認面からの深さは50cmである。また、遺物は、縄文時代後期前葉の様相を示す。SK265から出土している同時期の土器片は、この遺構から流れ込んだものと思われる。

底面から石棒

S K270・286、SD31（第11図）

S K270は、18・19-7・8 Gで検出された。平面プランは長方形に近い。長辺は105cm、短辺は100cm、確認面からの深さは20cmと浅い。断面形はレンズ状である。北側でSK286を壊している。SK286は、18-7 Gで検出された。平面プランは梢円形と思われる。長径は150cm、短径は130cm、確認面からの深さは130cmを測る。SD31は蛇行しながら、A区中央部を東西に

流れていたと思われる。残存する部分の深さが浅く、残存状態が悪い。遺物は、縄文時代晩期の土器片のほか、弥生土器も出土しており、所属時期は縄文時代晩期～弥生時代と考えられる。この遺構を壊している2つの遺構は、それ以降ということになろう。

S K269（第11図）

S K269は、18-7・8Gで検出された。平面プランは円形を呈する。径は150cmで、確認面からの深さは35cmを測る。断面形は台形状であるが、底面に凹凸がある。遺物は、縄文時代晩期前葉のものがあるため、所属時期もその頃と考えられる。

S X67（第11図）

S X67は、18-9Gで検出された。西側の調査区外にのびる。平面プランは不整梢円形と思われる。長径の残存値は165cm、確認面からの深さは45cmを測る。最下層に大きな礫が混じる。また、上層から縄文時代晩期の土器片が出土しているが、主体的な土器相は後期前葉のものである。所属時期もその頃に求められる。

S X30、S K260（第12図）

S X30は、18-6・7Gで検出された。平面プランは、台形を呈する。長辺は250cm、短辺は215cm、確認面からの深さは60cmを測る。断面形は、U字状である。また、西側でS K260を壊している。遺物は、縄文時代晩期中葉ごろのものが多く、廃絶時期も同じころに求められる。S K260は、18-7Gで検出された。平面プランは方形を呈していたと思われる。一辺100cmで、確認面からの深さは25cmを測る。縄文時代後期の土器片が多く、所属時期もそのころに求められる。

S X115、S P284、S K280（第12図）

S X115は16-17-9・10Gで検出された。北側で大小の土坑・柱穴を壊している。平面プランは不整梢円形を呈する。長径は250cm、短径は155cm、確認面からの深さは、40cmを測る。遺物は、1層目から大木10式湖占段階の土器片が出土しているが、覆土内から主に出土したのは縄文時代後期・晩期のものである。S P284は17-9Gで検出された。南側でS X115、S K280の両遺構を壊している。径は60cmほどで、確認面からの深さは65cmを測る。遺物は縄文時代晩期のものが主体的である。S K280は17-10Gで検出された。S X115により遺構の半分ほどが壊されている。長径は100cm以上あると思われ、短径80cm、確認面からの深さは35cmを測る。断面中位に段を持つ。遺物は縄文時代晩期前葉のものが主体であることから、所属時期もそのころにあたる。壊している2つの遺構はそれ以降の所産と考えられる。

S K68・283（第12図）

S K283は17-9Gで検出された。平面プランは不整梢円形を呈していると思われる。長径の残存値は120cm、短径は160cm、確認面からの深さは30cmを測る。また、北側3分の1はS K68により壊されている。S K68は17-9Gで検出された。平面プランは梢円形を呈する。長径は150cm、短径は130cm、確認面からの深さは35cmを測る。断面形は箱形で、最下層に砂礫が混じる。両遺構とも遺物の主体は縄文時代後期のものであり、所属時期もそのころにあたる。

S K276、S X116（第12図）

S X116は17-9Gで検出された。平面プランは不整梢円形を呈する。底面に凹凸がある。長径は250cm、短径は175cm、確認面からの深さは80cmを測る。また南側でS K276を壊している。遺物は、縄文時代後期から晩期のものが主体である。S K276は17-9Gで検出された。南東側

の調査区外にのびる。平面プランは不整梢円形を呈している。長径の残存値は135cm、短径は130cm、確認面からの深さは60cmを測る。遺物は、S X116と同じ土器様相である。両遺跡の時期差はあまり無いものと思われる。

S K114・S X84（第13図）

S K114は、15-11Gで検出された。平面プランは、梢円形を呈する。長径は100cm、短径は90cm、確認面からの深さは30cmを測る。覆土内に大小の丸穂が混じっている。また、S X84の南側を一部壊している。S X84は15-11Gで検出された。平面プランは長方形を呈する。底面は凹凸があり、硬化面もない。住居跡とは考えにくい。長辺は365cm、短辺は225cm、確認面からの深さは15cmと浅い。また、この遺構はS G287の上層を壊しており、縄文時代後期の遺物も流れ込んでいる。所属時期は、縄文時代晚期以降と考える。

S D100（第13図）

S D100は15-10Gで検出された。東側の調査区外にのびる。円形に巡る形状を思わせる。南北に高低差があり、住居跡とは考えにくい。幅は65~95cm、確認面からの深さは25cmを測る。断面形はU字状を呈する。遺物は、時代不詳の粗製土器のみであり、確定な所属時期は掴めなかつた。

S X117・166（第15図）

S X166は10-16Gで検出された。西側の調査区外にのびる。遺構東側に溝状の張り出しを持つ。遺構の両側が削平されており、東側の一辺のみが明確である。底面が平坦で、一部整地した痕跡もあることから、住居跡の可能性がある。東端の底面直上で、縄文時代後期の土器片と逆位に置かれた石皿が確認された。また、覆土下層に間層を挟んでS X117が検出された。南北側の一辺のみの検出であるため、平面プランは不明である。残存する覆土の堆積も浅く、遺存状態も悪い。遺物も粗製土器の細片が出土するのみである。S X166の所属時期は縄文時代後期、S X117はそれ以前と考えられる。

住居の可能性

S D187（第16図）

S D187は、11-12-7Gで検出された。B区北端の排水樹の撤去時に発見されたものである。B区北東側の土層内にも覆土が観察でき、底面の高低差は5mほどの距離で1.5m下降していることになる。性格としては、「沢跡」とするべきだろう。排水樹西側の上層観察では、2つの文化層を確認でき、上層にも溝跡の存在が明確になった。西側の山際から流れていた沢が時代毎に流路を変えたと思われる。幅は90~150cm、確認面からの深さは25cmを測る。遺物は、縄文時代晩期末のものが主体であり、所属時期もそのころにあたる。

沢跡

S E132（第16図）

S E132は12-9Gで検出された。平面プランは梢円形を呈する。掘り方の長径は220cm、短径は180cm、確認面からの高さは240cmを測る。構造は川原石を積んで造った石組みの井戸である。覆土最下層に炭化した廃材が多量に埋められていた。近隣の古者の話では、幼少の頃には埋められていたようで、使用していなかったということである。掘り方から近世後半の陶磁器が出土していることから、造られた時期もそのころにあたると言える。

S D173（第17図）

S D173は10~12-18~21Gで検出された。B区北側で東西に貫流している。底面は東側が若

千低い。小さい土坑や柱穴、溝によって一部壊されている。幅は160~320cm、確認面からの深さは45cmを測る。遺物は縄文時代晩期のものが少量出土しており、廃絶時期もそのころにあたりう。

S D236 (第18図)

S D236は8・9-23・24Gで検出された。隣接するS D241につながる遺構かもしれない。形状はL字状で、全体的に遺存状態が悪い。幅は70~130cm、確認面からの深さは10cmに満たない。遺物は上記S D173と同様である。

S D241 (第18図)

S D241は9・10-24・25Gで検出された。北東側をSK240から壊されている。形状はL字状で、全体的に遺存状態が悪い。幅は50~100cmで、確認面からの深さは10cmに満たない。遺物はS D173と同様である。

S D235 (第19図)

S D235は4~7-23~28Gで検出された。北側でL字に屈曲し、南側で二股に分かれる。B区南側で、蛇行しながら南北に貫流する。幅は65~130cm、確認面からの深さは23cmを測る。遺物はS D173と同様である。

V 出土した遺物

1 縄文土器・弥生土器

今次の調査により出土した当該期の遺物は1,500点を超える。時代不詳の粗製土器（文様帶のない体部破片もカウントしている）の破片の点数を足すと、4,000点ほどにまでなる。その中で遺構内からの出土は、1,200点ほどである。遺物は、縄文時代中期後葉～弥生時代中期前葉までのものが出土している。ほとんどの弥生土器は遺構外から出土したものが多い。以下簡潔に土器相を分類し、その代表的なものについて述べたい。

I群 1類…体部の文様帶に縱方向の隆沈線と連結して渦巻き文が展開する。大木8b式に属する。

II群 2類…無文地に沈線と磨り消しによる渦巻き文や楕円形を主たる構成要素としているもの。大木9式に属する。

III群 3類…隆沈文と幅広の無文帶による楕円形、S字状、S字を連結したような「波譲」状

の文様展開をするもの。口縁部が強く外反するものが多い。大木10式に属する。

IV群 1類…口縁部に山形や環状突起が付くものが多く、穿孔ないし盲孔がなされる。地文の

上から多条沈線による文様を展開するものも多い。また、器面の一部ないし全面に連続刺突を施すものもある。また、口縁部に大波状や大突起が付くものが多く帯状の刻目や縄文を巡らす。体部に羽状縄文を施すこともある。口縁部装飾突起

を持ち、円形刺突などを体部施すものもある。ここでは、後期前葉～中葉までを扱う。

II群2類…いわゆる後期後葉の「瘤付土器」の段階にあたる。平口縁あるいは波状口縁に瘤のある突起を持つものがある。帯状の刻目や縄文に瘤を貼る。瘤に刺突や刻目を付けるものもある。

III群1類…縄文時代後期末～晩期初頭の大洞B式に併行すると考えられるもの。台形状の突起が付いたり、体部文様に入組文が施されることが多い。また、口縁部が緩やかな波状になるものが多く。三叉文や玉抱き状の文様が帯状に巡る。

III群2類…縄文時代前葉の大洞B C式に併行すると考えられるもの。口唇部にB突起の付くものが多い。それと類がるように羊齒状文を巡らす。

III群3類…縄文時代中葉の大洞C式に併行すると考えられるもの。口唇部にA突起を付けたり、刻目を施したりするものが多い。平行沈線や沈線間に刻目を入れるものもある。体部に雲形文を施す（C字状・S字状も含めた）ものもある。

III群4類…縄文時代後葉の大洞A式に併行すると考えられるもの。口縁部は平口縁のものが多く、希に突起のあるものもある。平行沈線が施され、匝字文を主たる構成要素とする。匝字文の変遷により、弥生時代に近い大洞A'式も内包する。

IV群…弥生時代前期～中期前葉にあたる。器形として鉢類のほか、筒形のものや蓋といったものが加わる。この時期、盛用される変形匝字文のほか、磨消縄文による三角文や波状文、锯齒文を施すものもある。

V群…その他、主に地文のみのもので各時期にわたるものの一括した。

(1) I群1類

大木8b式

該期の資料は小破片が少量出土している。246は、口縁部が内弯し、隆起線による溝巻き文と沈線による楕円文が巡る。638は小さめの溝巻き文のみの資料であるが、口縁部に巡るものと思われる。611は地文が2段R Lで、その上に縦位の沈線と溝巻き文が施されている。体部の資料である。

(2) I群2類

大木9式

該期の資料は口縁部の資料が少量出土している。349・669・702・759・847は、口縁部の資料で、溝巻き文である。大木9式でも古い段階にあたる。700も口縁部の資料で横位の楕円文の両脇に縦位のS字状文様帶が巡る。438・701は縦位に溝巻き文が展開する。体部の資料である。

(3) I群3類

大木10式

該期の資料は、本遺跡縄文時代中期の遺物の中で最も多い。表1の中で「大木10」としたもののは殆どは、幅広の無文帶を持つものである。小破片が多く、文様の全容が掴める資料が少ないが、完形に近い資料も1点のみある。口縁部の様子から2つに分類できる。また、破片が小さいため、文様による分類はしていない。なお、小分類は文章中で扱うのみである。

A類…口縁部が内弯するもの (91・108・435・436・437)

B類…口縁部が直立または外反するもの (70・95・99・107・182・183・184・186・229・

329・351・352・559・560・682・761)

次に主な資料について説明したい。

682は体部中位から緩やかに外反している器形である。地文は2段のR Lで、口縁部～体部上半に幅広の無文帯を巡らし、波渦状の文様を呈する。文様の一部は玉抱き状になる。底部は無文である。95は外反する口縁部を持ち、玉抱き状またはS字状の連続文になると思われる。玉抱き状区画内と刺突で充填するものもある(132)。329は2段のR L繩文を施し、沈線によって方形に区画しているものである。436はS X 115上層から出土したもので、隆帯状のものがT字に貼られている。口縁部に向って内寄する器形である。上記のものよりやや古相である。なお99・107・329・375・762などの深鉢の文様で隆帯による方形区画文が僅かに出土しているが、後期初頭に位置づける見解がある(山形県埋蔵文化財センター2005)。

縄文後期前葉 ～中葉

(4) II群1類

本遺跡で最も多く出土している段階の遺物である。小破片が多く、全容を把握できる資料が少ない。そこで、口縁部、突起の器形や口縁部～体部など文様でのみ分類した。小分類は文章中で扱うのみである。

口縁部・突起器形

A類…平口縁 (8・21・42・43・76・189・227・268・314・315・337・361・446・495・504・545・547・562・565・566・831・833)

B類…山形突起を持つもの(65・94・96・187・188・195・196・266・267・368・369・370・371・390・401・405・407・443・457・458・503・505・520・534・571・598・641・642・714・716・727・818)

C類…環状突起を持つもの (158・254・256・404・717)

D類…橋状把手を持つもの (67・93・855)

E類…波状口縁を持つもので、波頂部に装飾突起を持つものもある (26・39・65・197・259・307・376・462・723・724)

F類…平口縁で内面に丸い突起をもつもの (730・785)

文様

a類…沈線で文様を描くもの

a 1類…多条沈線(117・125・126・192・198・232・233・250・254・269・311・330・363・379・409・410・445・482・490・562・778～780・786・849～851)

a 2類…多重円文・蕨状文(119・122・123・190・193・194・235・411・412・563・602・825)

a 3類…菱形文 (314・545)

b類…隆帯または沈線を巡らすもの

b 1類…方形・楕円形の沈線または隆帯(34・76・120・256・268・286・309・361・377・481・503・534・536・571・598・643・728・819・820)

b 2類…底部直上に隆帯が巡る (310・558・561・821)

c類…連続刺突を施すもの。(74・75・98・135・136・237・238・240・241・332・366・446・447・495・507・564・572・599・600・829～833)

d類…隆帶上に刺突を施すもの、あるいは沈線と刺突が連続するもの

d 1類…8の字文などの口縁部文様 (10・33・118・133・137・239・267・358・391・427・

444・458・480・520・616・715・773・774)

d 2類…頸部の隆帯上に列点状刺突 (188・189・364・645)

e 類…平行沈線（隆帯）や方形沈線間に刺突を施すもの (42・131・134・152・158・206・854)

f 類…沈線、帶状の縄文帯や無文帯で帶状文や入組文など施すもの

f 1類…帶状文で入組文・連弧文を描く (202・376・573・607・789)

f 2類…帶状文に刺突、S字状沈線を施す (43・259・449・565・566・729・846)

f 3類…帶状文のみ (26・197・315・429・462・491・547)

f 4類…クランク状の入組文 (16・271・504・730・781・785)

g 類…梢円・入組状の区画文を巡らすもの (657・791・838)

h 類…円形刺突を巡らすもので、中には不整円形のものもある (56・522・723・724・834・835)

i 類…細かい羽状縄文を施すもの (367・861)

以上のように分類したが、破片資料が多いため、複合的な要素を持つものも含まれていると思われる。

次に口縁部の器形から様相を述べたい。

A類には、口唇部に加飾をするものや、肥厚し丸みを帯びたものなどがある。前者には831や833のような深鉢の口唇部に棒状工具で斜状に刻目を入れたり、495のように縱状に刻目を入れるものもある。体部施文はc類が多い。後者は、42や152のような浅鉢に多く、口縁部界に沈線間に横長の刺突が入る。体部文様はe類が多い。また、43・565のよう平口縁直下に刺突を巡らすものもある。これらは、後期中葉に属する。平口縁でも、口縁部界に注口が付くものがある。227は注口浅鉢で、体部に縱・横にスリット状の沈線が施される。長井市空沢遺跡出土のものとは、口縁部や体部の形狀に差違がある（山形県埋蔵文化財センター2005）。同遺跡出土品の器形が壺形で、胴部珠状であるに対し、本遺跡出土品は体部から口縁部にかけ屈曲する器形である。227は宮城県二星敷遺跡の「注口土器B類」に似る（宮城県1984）。

注 口 土 器

B類は、山形突起あるいは小波状になる一類である。該期口縁部資料の中で最も多い器形である。また、突起には円孔や盲孔を施すものと隆帯や沈線を描くもの、無文のみの3つのタイプに分かれる。457・458は口縁部のみの資料であるが、深鉢であろう。458は、突起中央に円孔がなされ、それと繋がるように隆帯が縱・横に配される。457は外面に縱方向にのびる2条の不明曲線と横位の沈線が施されている。同様の資料は六反田遺跡でも出土している。内面には、隆帯と刺突を組み合わせた、8の字状輪形隆文が見られる。196は、浅鉢と思われる器形のもので、突起の内外面とも無文である。188は、口縁部が無文で、小波状気味の突起になると思われる。口縁部直下には隆帯の上に縱位の刻目を付ける。同じ器形であるが、突起頭頂部から垂下する隆帯を持ち、口縁部直下に188のように横位の隆帯を巡らすものもある。

C類は、環状の突起が付くものである。404は深鉢で、口縁部に環状突起が連続して配されている。直下に2条の沈線（磨り消しを伴う）を施す。同様の形状は254にも見られる。158は突起部で環状に巡った隆帯が垂下している。口縁部には沈線で囲まれた刺突文が充填される。前葉でも古手にあたろう。隆帯が垂下するものは他に256などもある。

D類は、橋状把手を持つものである。67は内外面に円孔、そして周囲に溝巻き文を施している。93もこれに含まれると思われる。リング状の隆帯の交差する部分に刺突を施す。

E類は、波状口縁を持つものである。197は大振りな波状口縁に帶状文（刻目）が2条巡っている。259・462は鋭角に張り出した口縁部を持つ。39や307、723のように波頂部を擒み出すように作るものや724のように肥厚した波頂部に珠状の突起を付けるものもある。

次に文様について概観する。本来は文様帶ごとに述べるべきだが、小破片のため残片から類推することしかできないため、破片ごとの文様の列挙に止める。

a類は沈線を巡らすもので、出土品の中で最も多い。126や311のように多条の沈線を縦位に展開しているものがある。区画内を無文にする117のようなものも見られる。192や412のように体部にジグザク状の沈線を施すものもある。多条になるものより、若干古手と思われる。その他、粗い沈線で菱形文を施すものもある（545など）。

b類は口縁部～体部上半に曲線的に隆帯を貼り付けたり、沈線で文様を描くものと、深鉢で底部直上に横位の隆帯を巡らすものである。前者では534・728など、後者では558などが挙げられる。

c類は、体部の施文で比較的多い方法である。刺突する場合の施文具は細い棒状工具（446・495・599・833など）であったり、指頭（332・830など）であったりと多様である。446のように平口縁の頸頂部から刺突がなされるタイプと495のように頸部まで無文のタイプとに分かれるようである。

d類では、8の字状輪形隆帯（133・458など）、I字状孔沈隆起線文・沈線文（444・520など）、C字状（逆C字）孔沈隆起線文（267・616など）が挙げられる（語句は六反田遺跡の名称を使用）。簡潔に言えば、隆帯（隆起線）上に刺突を縦位にする方法で、8の字状輪形隆帯（8の字文）は堀ノ内式の指標となっている。これらは口縁部界に施されることが多く、体部の多条沈線文やジグザク状文と連絡することが多い。また、188や189のように頸部の隆帯上に棒状工具で刺突されているものも含んだ。

e類は、沈線間に刺突を充填するものを挙げる。152のように口縁部界に平行する沈線を巡らし、沈線間に横長の刺突を施すものがある。その他に、131や158のように長方形に沈線で区画した中に刺突を施すものや隆帯で区画された横長のスペースに列点状に施文するものなどがある。

f類は、堀ノ内2式以降に見られる。浅鉢では、376のように口縁部直下に潤文帯が横位の入組状に巡らせるものがある。口縁部の状態は違うが、戸沢村津谷遺跡でも同様の文様を呈する浅鉢が出土している（山形県埋蔵文化財センター1997）。また、781は深鉢で、体部上半にクランク状の入組文が施されている。789は連弧状に潤文帯が連続する。43は、口縁部内面に刺突を巡らし、体部内面上半～中位に細い入組状の沈線が入っている。

g類は、磨消繩文で梢円形や入組状に区画されるものである。破片のみのため全容は不確実だが、体部中位に曲線状の文様のあるものを入れた。

h類は、円形の沈線に沿って刺突を巡らすもので、加曾利B2式に併行する。56・723・834・835などがそれにあたる。724は突起直下に半円形の刺突をして、さらに口縁に沿っても刺突を行っている。

i 類は、地文のみのものだが、該期の特徴である細かい「羽状縄文」を施しているものを取り上げる。367は、体部中位の資料で、体部外面に羽状縄文を施している。また、861のように底部直上の資料もある。

(5) II群2類

縄文後期後葉

ここでは、「瘤付土器」の段階について述べる。今次の調査では、晩期の遺構に流れ込んでいたりと、主体となる遺構は少ないと思われる。そのため、破片資料が多く、判別が付きにくいものばかりであった。ここでは、口縁部～体部文様と突起、貼瘤の形状により分類した。ただし、後期末の瘤付第IV様式から大洞B 1に入るものは、論議のあるところなので、次のIII群の文頭で述べることとする。

口縁部～体部文様（口縁部器形は平口縁である）

A類…縄文・刻目帯の中央に横位の1条沈線（1・19・40・207・208・298・313・452
・621・737・784・794・801）

B類…2条縄文帯間に無文帯（17・465・738・860）

C類…1条の縄文帯（18・799）

D類…その他、彫描状の条線が入る（20・60・82）か無文のもの（472）

突起

a 類…針先状または小台形の突起のあるもの（1・208・451・467・575・576・605・
735・739・794・796・840・841・860）

b 類…貼瘤状の突起のあるもの（40・46・47・77・453・743）

貼瘤

i 類…棒状の粘土塊を口縁部または体部に貼り付ける（312・313・450・452・737）

ii 類…円形の粘土塊を口縁部または体部に貼り付ける（19・40・209・228・279・284・
298・316・318・421・451・524・525・568・605・606・619・620・621・734・735
・739・740・741・742・744・799・800・801・802・840・843・860）

iii 類…棒状工具で刻みや刺突をしているもの（1・46・47・77・294・359・576）

その他体部文様では、帯状文（317・434・466・646・732・733）、入組文（128・421・524・
525・567・606・734・802・843）、連弧状（165・260・284・842）、菱形文（201）、格子文（276・
291・365）、条線文（210・518・574・596・597）などが見られる。壺の頸部または体部で1～
3条の細い起線上に貼瘤がなされるものもある（318・568・800など）が、胎土などを見ると、
同一個体のものもあるかもしれない。その他、帯状文の中でも縄文帯のほか刻目状のもの（161）
もある。特に注目されるのは、底部に多数の穿孔されている小型の無文鉢も見つかっている（472）。

(6) III群1類

縄文後期～
晩期初頭

縄文後期末～晩期初頭大洞B式に併行する段階のものを扱う。

ここでは、口縁部・突起の器形、口縁部～体部文様にしぼって述べる。

口縁部・突起器形

A類…波状口縁（78・100・103・147・220・252・397・431・895・896・899）

B類…台形状あるいは三角状突起が付く（140～143・146・170・174・211・212・

218・529・608)

C類…珊瑚状突起が付く (41・243)

D類…平口縁 (901)

文様

a類…菱形・連弧状 (78・394)

b類…三叉文あるいは玉抱三叉文 (100・147・174・218・384・570・578・608・609

・805・898・900)

c類…入組文 (103・170・216・214・219・252・277・304・397・420・530・543・746・

803・897・899)

なお、c類の中には縫付第IV様式（安孫子編年）の文様のものもある（304など）。

大洞B C式 (7) III群2類

縄文時代晚期前葉大洞B C式に併行する段階のものを扱う。

ここでは、突起・口縁部の器形、口縁部～体部文様にしぼって述べる

口縁部・突起

A類…平口縁 (274・387・400・476・477・510・907・909)

B類…B突起が付くもの (57・90・262・280・281・419・302・383・386・538・749・864

・906・908)

文様

a類…口縁部に羊歯状文または珠状文を施すもの (57・61・90・274・280・281・282・302・

383・419・477・509・510・537・538・615・649・749・863・864・906・907・909・

910)

b類…口縁部に入組文を施すもの (615・864・909)

a類とb類が共に施されている615がある。その他、多くの資料の体部下半は縄文が施されているが、509のように無文のものもある。また、浮き彫り状の文様が体部下半に施されているものもある（90）。403のような無文の口縁部直下に沈線間に入組文が巡るものや、64のような無文の壺（注口？）もこの段階に含まれるかもしない。386は口唇部にB突起付き、体部との間に横状の把手を持つ。387や400は同じ器形だが平口縁である。

大洞C式 (8) III群3類

縄文時代中葉の大洞C式に併行すると考えられるものを扱う。縄文時代晚期の遺物の中でも最も数の多いものである。ここでは、口縁部・突起の器形、口縁部～体部文様にしぼって述べる。

口縁部・突起

A類…平口縁 (54・87・324・508・630・654)

B類…口唇部に密な刻目を施すもの (13・81・300・323・346・492・496・539・540・629
・867・875・877)

C類…B突起が付くもの (51・104・273・653・751・753・845・866)

D類…小波状口縁で丁寧な作り (752)

E類…A突起が付くもの (63・86・422・684・913)

F類…退化した波状口縁が付くもの (883・912)

文様

a類…平行沈線間に刻目を施すもの (13・51・54・81・87・273・321・323・324・334・

422・433・489・496・526・528・653・752・753・867・875・877)

b類…平行沈線を持つ (63・86・104・301・344・346・527・540・541・581・627・629・

630・650・654・662・684・751・845・866・883)

c類…雲形文や入組文などを施すもの (51・104・255・300・395・508・513・912)

この段階の資料は豊富である。掲載資料以外にも小破片が主に遺構外から出土している。

C1段階では完形の浅鉢 (346) や注口土器 (51) が特筆される。346は口唇部に丁寧な刻目を施し、細い平行沈線を巡らす。外面には炭化物が多く付着している。底部は無文である。

51は平口縁の所にB突起を持ち、頭部は無文である。口縁部の内傾する浅鉢で丁寧な意匠のものがある (528・752など)。体部上半には平行沈線間+刻目、その下に雲形文が施される。底部近くは無文である。器面全体に赤彩を施す。104のように大型の皿もある。体部は直線的に立ち上がる。C2段階では913のように口縁部にA突起が巡るものも多い。小波状の口縁部にA突起が付くものもある (86)。また、退化した波状口縁を持つものもある (912など)。丸みのある波状口縁に幅広の沈線、体部に雲形文を施す。912には補修孔も見られた。

(9) III群4類

大洞A式～

縄文時代後期後葉を扱う。中には、弥生時代前葉の様相を持つと思われるものも若干見られる。また、数こそ前代の資料には及ばないが、遺構に伴うものが多い。特にA区の大型の土坑やB区の溝跡では主体的である。ここでは口縁部・突起の器形や文様にしぼって述べたい。

口縁部・突起

A類…平口縁 (398・516・552・554)

B類…突起が付くもの (29・871～873・917)

文様

a類…四字文を施すもの (29・345・494・516・553・554・636・756・871・872・916・

918)

b類…斜状沈線により文様展開するもの (295)

c類…連弧文が巡る (398)

d類…鋸齒文が巡る (915)

d類…無文のもの (658・680)

特に注目されるのは、文様帶の内容が多種多様であることである。四字文を例に見たい。形状は上下対向のもの (553)、上下交互の四字文 (29)、下向きのもの (756・871・872・916・918)、上向きのもの (494・516・917) が挙げられる。中でも29はほぼ完形で出土しており、全容のわかる唯一のものである。口唇部にB突起を巡らし、口縁部～体部上半に2段の四字文を施す。底部に短脚が4つ付く。また補助単位文を思わせる文様を展開しているものもある (554)。破片のため判然とはしないが、「大洞A式」より新相も含んでいる可能性がある。915は高壠もくろしへ鉢にあたる。外面に丁寧な意匠の鋸齒文を巡らす。大洞A'段階のもので、砂沢に近い(須藤隆氏教示)。無文の浅鉢 (658) は「底部で一旦張り出し、その後屈曲しながら外傾」する器

形である（山形県埋蔵文化財センター2003）。断面形は逆台形になろう。天童市砂子田遺跡にて出土した「浅鉢D類」にあたる。また、同様の器形で底部に穿孔のある小型のものも出土している（680）。

弥生時代前期～中期前葉

(10) IV群

弥生時代前期～中期前葉にあたるものと扱う。資料のほとんどが遺構外からの出土であり小破片がほとんどであるが、中には665のように2分の1個体を有するものもある。

ここでは、口縁部～体部の文様にしぼって述べる。

A類…変形四字文を持つもの（544・624・665・814・862・892）

B類…波状文もしくは連弧文（631・659・808・809・810・812・815・816・893）

C類…区画文（30・478・660・661・755・817）

代表的なものを述べる。665は2分の1個体が残存している。体部上半が無文で口縁部は外反するものと思われる。体部中位には平行沈線間に刻目を施し、体部下半には三角形状区画文と変形四字文が巡る。812・815・816は口縁部が内湾する鉢である。口縁部周辺に連弧文を巡らす。また、蓋などの器種も出土している（893）。鋸歯に近い波状文を呈する。同一個体と思われる資料の口唇部には炭化物が多く検出された。30は、口縁部から体部上半のものである。上記812などと同じ器形と思われる。「口縁内湾有文鉢」と思われる（石川2005）。2条の沈線で菱形状の区画を作り出している。これらの中の一部が福島県糸魚川遺跡との共通性が指摘されている（須藤隆氏教示）。

(11) V群

主に地文のみのものを扱う。この分類にあたる後期・晩期の地文のみのものは2,000点を数えるが、小破片のため、同一個体の可能性もある。

ここでは紙数の関係から大まかな分類のみ述べることとする。また、主に残りが良く、器形が推定できるものにしぼった。なお、上記II群1類の羽状縞文が施されたもの（II 1 i）や、II群2類の櫛描状の条線が施されているものや無文のもの（II 2 A 4）は除いている。

（深鉢・鉢）

A類…器面上に縞文が施されるもの

A 1類…平口縁、器厚があり、直線的あるいは多少内湾しながら立ち上がる（85・258・557・670）

A 2類…平口縁で、器厚が薄く、口縁部が無文になるもの（677・679）

A 3類…平口縁で、器厚が薄く、内湾しながら立ち上がる（23・169・257・297・306・402・678）

A 4類…平口縁で、器厚が薄く、直線的に立ち上がる（4・24・59・83・289・666・758）

A 5類…平口縁で器厚が薄く、口縁部が屈曲し、外反するもの（14・423・656・888・889）

A 6類…大きめの波状口縁で、外傾する（263）

A 7類…波状口縁で、直線的に立ち上がる（50・102・548）

A 8類…波状口縁で、口縁部が屈曲し、外反する（15・55・493・549・683）

B類…全面が無文のもの

B 1類…器厚のある無文のもので、内湾（173・487・664）直線的なもの（58）

B 2類…器厚のある無文のもので、台付（171）がある

C類…ハケ目状の調整が入り、直線的に立ち上がるるもの（546・582）

（壺）

D類…器面に縞文が施されるもの

D 1類…平口縁（84・226）

D 2類…波状口縁（22）

E類…全面が無文のもの（64）

（皿）

F類…ミニチュア（172）

（底部資料）

G類…底径が大きく、断面形が逆台形状になるもの（264・663・671・673）

H類…底部が肥厚し、直線的に立ち上がるるもの（101・308・424・672・675・676）

I類…台付のもので、底部が肥厚するもの（53）、ハの字に開くもの（224）がある

J類…底径が比較的小さく、断面形が丸みを帯び、上げ底風にあるもの（399・532）

K類…底径が比較的小さく、断面形が逆台形状になるもの（674）

※第V章1の掲載土器の図版番号や写真図版番号は、資料が複数の頁にわたっているため、文章中では遺物番号のみを記すこととした。図版番号等は「表1」を参照されたい。

2 土製品

土製品としては、円板状土製品が出土している（第23図 写真図版40・45）。全てが土器片の周囲を稍円形または、円形に加工したもので、元々の土器の器面をそのまま利用している。表面に輪物圧痕のあるもの（919）、地文の縞文が残るもの（920～922）、地文に沈線を付加しているもの（923・924）である。特に穿孔したりなど装飾性はない。

3 石器・石製品

出土した石器は、土坑などの遺構及びその周辺からのものがほとんどである。

石礫（第22・28・29・32・33・34・37図 写真図版67）

鐵 石 英
玉 線

出土数は16点で石材は頁岩（8点）、鉄石英（5点）、玉髓（2点）、石英（1点）である。

A類…中央の後縫部分に厚みがあり、先端部から基部側縁にかけて丸くなり、抉入をもたら

す、先端は括るように作出している大形のもの（第34図970）

B類…中央の後がなく扁平なもの

B 1類 …中央から基部側縁にかけて丸くなり、抉入をもつもの（第28図947）

B 2類

I 中央から基部側縁にかけて丸くなり茎に至るもの（第22図929）

II 基部の返しが外側に強く張り出し茎に至るもの（第28図946）

III 基部の返しが外側にわずかに張り出し茎にいたるもの（第29図955 R Q10）

C類…基部の返しがわずかに張り出し茎にいたるもの（第33図967 R Q 9・29図949）

D類…二等辺三角形の形状をなすもので茎の有無で分けた。

D 1 類…先端から基部にかけて直線的で、返しは小さいが鋭角的に丁寧に作出し茎にいたるもの（第29図954R Q 4）

D 2 類…先端から基部にかけて直線的で、抉りがやや深いもの（第37図976）

E 類…基部の抉りが深いもの

E 1 類…先端から基部まで直線的に作出しているもの（第32図962）

E 2 類…基部側縁が丸みを帯びているもの（第29図953R Q 12）

F 類 未製品と基部欠損のもの（第29図956R Q 11・950 第37図977～979）

石鑿（第21・26・28・33・34図 写真図版67）

頁 岩 相対する2つのノッチが作り出されたつまみを持つものとした。石材は全て頁岩である。つまみを上方に置いたときには左右対称となる（第34図971）以外は、左右非対称となる。（第21図925R Q 40・28図942）は、つまみを上方に置いたとき石器下端の縁辺が刃部となる横型で刃部に両面加工を施す。特に（第21図925）は、つまみ上部が破断しているが、誰に転用している可能性もある。残り（第28図943・33図968R Q 13）は縦型で側縁が刃部となり、（第26図940）には側縁刃部にも両面加工を行っている。

石鑿（第39図 写真図版67・70）

玉飾の石材で作出された（1000）は、両面加工で、残りのものは頁岩を片面加工している。（1000）と（1001）は、それぞれ上部と下部が欠損するため形は判然としないが、環形（1002）と形が判然としない（1000）の刃部は両刃状となる。短冊形の（999）は刃部が片刃状である。

搔器（第23・25・33・39・40図 写真図版68）

急角度の調整加工によって刃部を作出した石器を搔器とした。全て縦長の剥片が素材として用いられている。石材は（第40図1006）は鉄石英、（第40図1008）は凝灰岩、残りのもの（第23図935・25図938・33図969R Q 15・39図1003・40図1004・1005・1007・1009）は頁岩である。円形あるいは橢円形の外形をもつて側縁全体が刃部となる（第40図1006・23 図935・25図938・40図1007・1009）があり、特に（第40図1009）は両面に多数の石ハネがある。残りは縦長の両側縁を刃部とする

削器（第28・29・34・38図 写真図版67）

剥片の縁辺に連続調整加工を行って刃部を形成するものを削器とした。石材は、（第28図944）が玉髓で、残りのもの（第28図945・29図957・34図972・37図982・38図981・983～985）は頁岩である。（第38図986・987）は、横形剥片を素材としているが、他は縦形である。

石槍（第40図1010 写真図版68）

上浦氏所蔵のもので石材は頁岩である。基部は欠損しているが、両側縁には丁寧な交互剥離調整を施し、小形ながら厚みがある。（上浦氏が以前石槍遺跡周辺で表探したもの）

石鑿（第24・37図 写真図版67）

素材となった剥片の縁辺に調整加工を施し、その一端に尖った先端部を作出したもので、（第37図980）はつまみ部を扁平に調整加工し、尖頭部断面は歪な三角形状となる。（第24図937）はつまみ部を調整するにとどめ、尖頭部断面は四角形となる。

加工痕のある剥片（第23・25・38・39 写真図版70）

剥片に二次加工を施しながらも、刃部を形成するような連続加工まで至らなかつたもの（第

23図933・934・25図941・38図988～991・39図992～996)

石製装飾品（第40図1012 写真図版68）

石材は堆積岩の一種と考えられる。片端は欠損しているが、両端を円錐状に尖らせて全体形としては三日月状のものである。

石棒（第22・33・34・34図 写真図版68）

全て破損品のため、詳細は不明だが、（第34図973）は、先端下部を全周にわたって細く仕上げ、基部にかけて太くなる。先端に敲き痕のような浅い凹みがあるほか、基部の側面に平滑な面が一ヵ所ある。完形であれば相当の長さを有したものである。SK265出土の（第22図930）・SX2007出土の（第33図964）は、断面が楕円形を呈し、表面が丁寧に磨かれている。（第34図974）は、側面一部の出土のため断面形はわからないが、一条の沈線が一部残存する。磨きは丁寧である。（第40図1011）は、磨きが荒い。

石刀（第21図927 写真図版68）

刀身の一部のみの出土のため、全体形は不明であるが、刀身の様は鉢の方からわずかに内反りし基部に向かう。断面形は、向かい合う二つの辺が弯曲した二等辺三角形状を呈する。底辺はほぼ平らな面となり、中央に一条の沈線が縱走する。

磨製石斧（第29・32・41図 写真図版68・69）

2点のみの出土である。SK267出土の（第32図961）は、基部上部が欠損するとともに、刃部と側縁の一部以外、右斧表面の研磨調整部の大半が剥落している。刃部先端に敲打痕が3ヶ所見られるほか、両側縁は扁平に面取りされている。（第29図951）は、大半が欠損するが、側縁が扁平に面取り加工してある定角式。（第41図1020）は、堀掘調査区西側に近接する上浦氏所蔵の完形品である。刃部底辺から中ほどで膨らみ、基部に向かって絞まっていく長脚二等辺三角形の平面形態である。扁平に面取りされた両側縁以外は、丁寧な研磨調整がなされている。

打製石斧（第21・41図 写真図版68・69）

1点のみの出土である。SK36出土の（第21図926）は、両側縁から刃部に大きく連続調整を施し、特に側縁片側に左右から抉りを入れる。（第41図1021）は、上浦氏所蔵のものである。右側縁には基部から刃部まで連続打撃を加えるが、左側縁は刃部まで打撃をせず、ほぼ石器の中で連続調整を終えている。加工は石器腹面全体に集中する楔形の石器であり、刃部も腹面の

機 形

凹石（第22・24・29・32・34・40・41図 写真図版69）

SK283出土の（第32図963）は、川原石の表裏に1つずつ孔を持ち、側縁に1つ敲打痕があるが、磨痕はない。13-13G出土の（第40図1013）は、片面に孔が1つ、反対面に2つの凹みが交わる孔がある。側縁下部には、かなり使用されたと考えられる敲打痕の凹みが2個以上見られる。SK276出土の（第24図936）安山岩凹石は、両面に1つずつ孔があり、側縁に敲打痕がある。SG287出土の（第34図975）は、堆積岩（礫岩）の凹石で、両面に凹みが少しずつ重複して穿たれている。両側縁に2～3ヵ所敲打痕がある。出土不定の（第40図1014）は、片面にのみ孔が1つあり、反対面は平滑な磨痕を持つ。凝灰岩質の（第41図1015）は、半分の残存であり、1つの孔を持つ。シルト質泥岩のSX115出土の（第29図958）は半面のみの残存で孔は1つ。SX81出土の（第29図952）は、扁平な堆積岩の両面に孔がある。出土不定の凝灰岩質（第

41図1016)は両面に3ないし4つの孔をもつが、半分の残存である。その他(第22図932・40図998・41図997)

敲石 (第28・30図 写真図版69)

敲 打 石 砂岩質の(第30図959)は側縁下部に1つの敲打痕をもち、全体がつるつるとしている。S X 安 山 岩 68の(第28図948)は、自然石の安山岩を利用したもので、一方の先端にのみ敲打痕が集中している。

石皿 (第31図960 写真図版70)

安山岩製の扁平で大形の石皿で、凹面は平滑でかなり使い込まれている。片方には縁がなく磨ったものを簡単に別の器に移し変えることもできそうである。

磨石 (第26・41図 写真図版69)

S P249出土の安山岩製磨石(第26図928)は、全面にきめ細かな磨痕があり、下部の割れ口もつるつるしている。他の磨石(第41図1017~1019)は、全て欠損品であるが、全面に磨痕がある。

砥石 (第22・25・33図 写真図版69)

B区S P239(第25図939)は流紋岩製のもので、全面に数条の溝が斜行する。特に上面は使い古されたためか、彎曲の度合いが激しい。S X2007(第33図965)は、石が磨りきられるまで使用されている。他は(第22図931・33図966)を参照のこと。

4 須恵器・土師器

本遺跡からは、須恵器1点、土師器2点が出土している(写真図版70)。掲載遺物について述べる。須恵器は甕の体部の破片(1022)である。外面タキ、内面アテ痕が観察できる。胎土中、石英や雲母などが混入する。土師器はSK233から出土した。この土坑からは後述する錢貨も出土しているので、造構は近世以降の廃絶と言える。土師器は鉢の口縁部~体部の破片(1023)で、内外面ロクロ成形されている。胎土は緻密で焼成は良好である。口縁部外面に突帯状のものが巡る。

5 陶磁器

本遺跡からは、陶器・磁器ともに27点ずつの出土があった。近世の井戸跡であるSE132からは掘り方にて磁器3点、陶器1点が確認されている。以下掲載した遺物について述べる。

古 戸 戸 陶器(写真図版70・71)では、中近世のものが見られる。1024は古瀬戸の皿である。口縁部内面に突帯状のものが巡る。口縁部~体部上半に灰釉を施している。古瀬戸でも後期の所産である。1025は唐津産の皿である。口縁部に向かって折縁状になる。内外面に灰釉が施される。近世初頭の所産である。1028は播鉢の口縁部~体部の資料である。内外鉄釉が掛けられ、鉄目の条は疊らである。口縁部は会津本郷産と似ているが、鉄目の意匠に相違点がある。在地産のもので近世初頭のものであろう。1029は会津産の播鉢と思われる。内外に鉄釉が掛けられ、口縁部に胎釉を特に掛ける。鉄目の条も細かい。胎土も白くざらついている。1030も同じく播鉢である。底部の資料で、底部に「テロ…」と墨書きされている。

磁器(写真図版70・71)では、近世のものが見られる。肥前産あるいは肥前系の窯場のもの

と思われる。底部が砂底である1034・1035は17世紀にあたり、他のものより古手である。井戸跡から出土した1032は、口縁部～体部上半に「矢羽文」、体部下半に「水裂文」を巡らす。18世紀の所産である。他に1033のように「くらわんか手」のものも見られる。

6 錢貨

近世の錢貨は3枚であった（写真図版71）。内訳は2枚が寛永通宝、1枚が文久永宝である。前者は、1668年以降流通した「新寛永」である。後者は、1863年が初鋳年にある。

引用文献

仙台市教育委員会	1981	六反田遺跡発掘調査報告書（仙台市文化財調査報告書第34集）
宮城県教育委員会	1984	東北自動車道遺跡調査報告書IX（宮城県文化財調査報告書第99集）
山形県埋蔵文化財センター	1997	『津谷遺跡発掘調査報告書』（山形県埋蔵文化財センター調査報告書第46集）
山形県埋蔵文化財センター	2003	『砂子田遺跡第2・3次発掘調査報告書』（山形県埋蔵文化財センター調査報告書第113集）
山形県埋蔵文化財センター	2005	『高瀬山遺跡（HO地区）発掘調査報告書』（山形県埋蔵文化財センター第145集）
山形県埋蔵文化財センター	2005	空沢遺跡発掘調査報告書（山形県埋蔵文化財センター調査報告書第144集）
石川日出志ほか	2005	『関東・東北弥生土器と北海道続縄文土器の広域編年』明治大学文学部考古学研究室

VI まとめ

石畳遺跡の発掘調査は、主要地方道山形南陽線改良工事に伴い、平成18年度に実施された。山形県南陽市金山川西字石畳に所在する。吉野川右岸の河岸段丘上に立地し、現在は「石畳」の聚落となっている。遺跡面積は12,800m²で、今回の調査は2,000m²を対象とした。

その結果、検出された遺構は、286基を数える。その内訳は、土坑72基、柱穴152基、性格不明遺構39基、溝跡21条、河川跡1条、井戸跡1基である。A区では、縄文時代後晩期を中心とした、土坑、柱穴が検出された。特に長径2mを超える土坑が多く、深さも50cm以上のものもある。B区では、縄文時代晩期の溝跡などが検出された。特に検出面の高低差があるため「沢跡」とした遺構もあった。その他、近世の井戸跡も見つかっている。また、地山内を掘削中に「二枚貝の化石」も採取された。昔から金山地区は化石採取場所として有名で、遠方からも採取に来訪するという。

A区で検出された土坑は、1m強のものが殆どだが、中にはS X14やS X30のように長径が250cmを超える楕円形のものもある。深さも60cm以上と、比較的深い。また、周辺に柱穴や大小の土坑があり、堅穴住居跡の掘り方を想起させる。今回、堆積の状況から自然堆積を伴う土坑と判断したものが多いため、性格不明遺構にしたの中には多様な可能性を含んでいると思われる（佐藤正一氏はS X14を含めた土坑・柱穴群から堅穴住居跡の存在を指摘された）。また小さな土坑や90cmほどの径の柱穴がA区北側で比較的密集していることから掘立柱建物跡の可能性がある。しかし、調査区の幅の問題で、未検出の部分が多く、確証は未だ持てない。遺構の多くは縄文時代後・晩期に廃絶したものと思われる。遺構外から弥生土器が僅かに出土することから、弥生時代に廃絶した遺構は、擾乱により削平を余儀なくされたと思われる。

今回発掘調査した場所によっては、人が住めなかつたことが考えられるB区がある。調査区の南「B区」では、現地表面より2mほど下に砂岩と礫岩の互層と、その層を横して幾筋かの

沢跡が検出された。擾乱や用水路の土手で壊されているものが大半だが、遺存のよい一つの沢跡は、吉野川に向かってに急激に落ち込んでいく。調査区の北「A区」に近接する「B区」の層序は砂礫層と泥層の互層となり「A区」とはかなり様相が異なること、この「B区」の比較的浅い砂礫層上層から貝の化石（二枚貝）が数点見つかっていること、B区では縄文時代の遺構がないことなどを考えあわせると、当時は吉野川が流れしており当時の「B区」下位段丘には人が住むことができなかつたのではないか。しかし、「B区」拡張部（調査区外）に一部検出した性格不明遺構 S X166（図版15）は、遺構外縁に壁のような立ち上がり部があることや遺構底面に土器片が集中していることなどから、堅穴住居跡の可能性も考えられる。当時人たちは、調査区外で検出した S X166より西の山手に近い段丘上か、山の周辺に暮らしたことが考えられる。

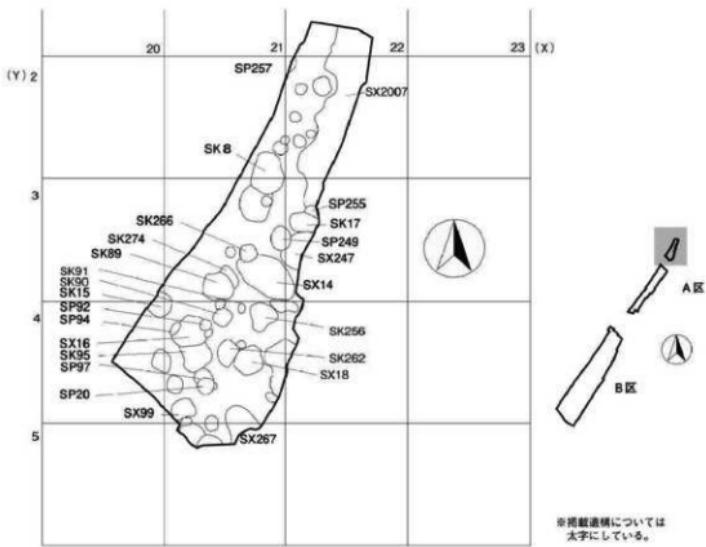
土器は、縄文時代中期後半～弥生時代中葉に比定できるものが出土している。編年では、縄文時代中期は後半の大木8 b～大木10新相、縄文時代後期は初頭から中葉、所謂「瘤付土器」などの後葉、縄文時代晚期は初頭の大洞B～末期の大洞A（大洞A2・A’を内包）。弥生時代は、前葉のものを若干含みながら、主体は中期前葉に求めることができる。恐らく、孫六橋遺跡などと併行関係にあることから、石川編年の原式段階前後といえる（石川2005年）。

石器・石製品については、石鎚、石皿、凹石、磨石、石斧、敲石、砥石などの実用品の他に、祭祀的な石棒、石刀が出土した。石棒、石刀には粘板岩が、石皿、凹石、磨石、石斧、敲石、砥石などには花崗閃緑岩・安山岩・石英安山岩・流紋岩・砂岩・凝灰岩などの石材が、また、石鎚、石砲、搔器、削器、石錐などには、頁岩・石英が使われていた。特に石英は、赤い鉄石英、鉄分の少ない黄色味の強い石英、玉髓などが使われていた。植松芳平氏の教示では、安山岩と鉄石英は密接な関わりがあり、鉄石英は安山岩の空隙に形成される性質を持つとのこと。出土した様々の石器・石製品は、古生代から中生代、新生代に生成された岩石と鉱物を利用し巧みに加工したものであろう。第29図（図版67）953の石鎚（石英「鉄石英」）は、石材表面の色の濃淡で硬度が違うことを知った上で石器を作成している。つまり、色が濃い強度の強い部分を先端に、薄い部分を基部にし石鎚の威力を高めている。同様の意図で製作したと思われるものは、第34図（図版67）971の石匙である。つまみ部としているは、先端より明らかに強度の弱い色の薄い方である。その他、第37図（図版67）976の石鎚の場合は、右側縁の間際に成長しかかっている微細水晶を作成途上で確認したのか、この部分を先端に用いてはいない。色の濃淡や結晶の度合いなど、様々の視点から製作を進めている当時の縄文人たちの知恵を垣間見ることができる。

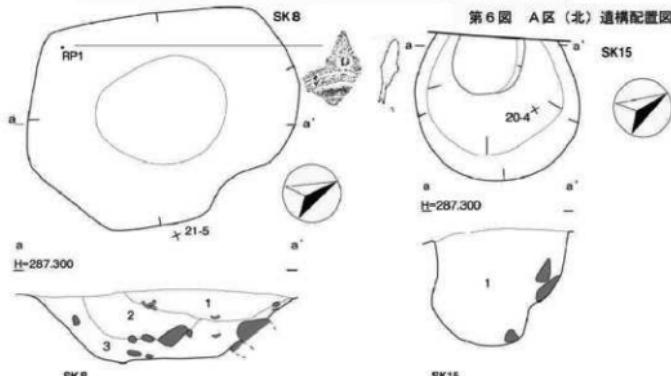
古代以降では、僅かだが須恵器・土師器が出土している。その他、陶磁器も54点出土している。中には中世まで遡るものもある。遺跡周辺は、交通の要所であり、要塞の地でもあったので、遺跡と隣接する館跡も多い。

引用文献・参考文献

- | | | |
|------------|------|---------------------------------------|
| 吉田三郎ほか | 1984 | 『日曜の地学（15） 山形の地質をめぐって』策地書院 |
| 木下角城ほか | 1987 | 『標準原色図鑑岩6 岩石鉱物』保育社 |
| 南陽市史編さん委員会 | 1990 | 『南陽市史 上巻』 |
| 山形応用地質研究会 | 1990 | 『山形の大地』 |
| 石川日出志ほか | 2005 | 『関東・東北弥生土器と北海道縄文土器の広域編年』明治大学文学部考古学研究室 |



*掲載遺構については
太字にしている。

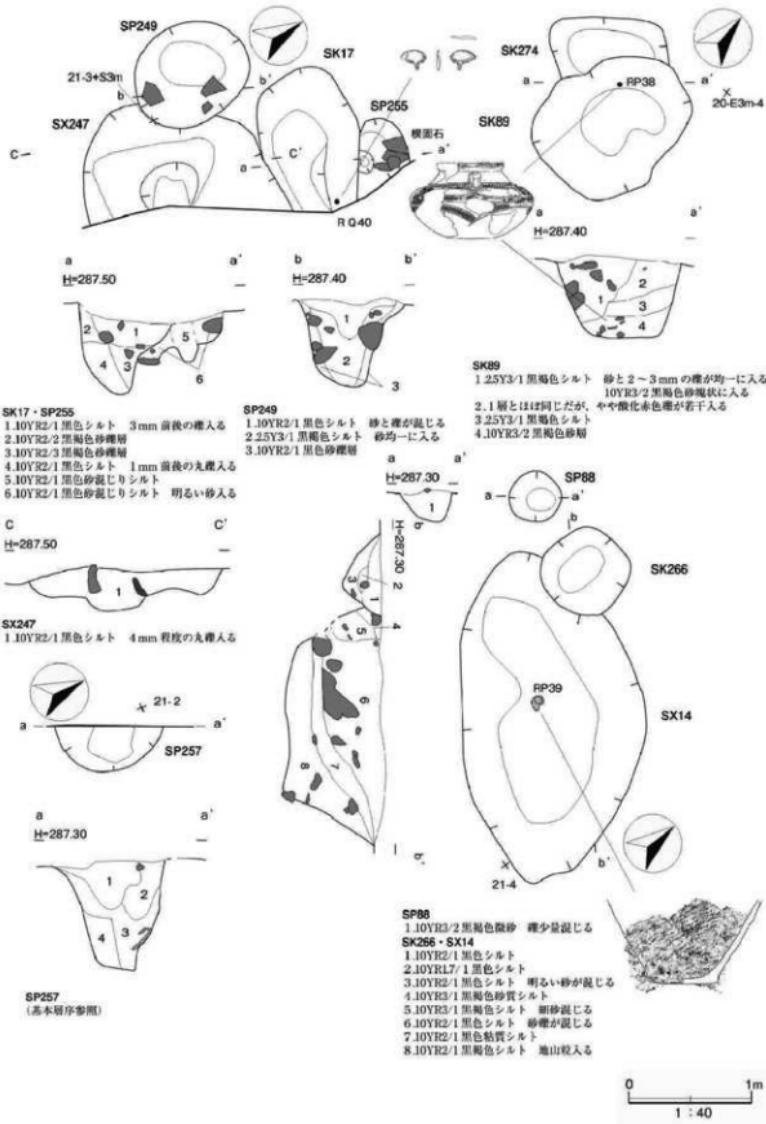
第6図 A区(北) 遺構配置図 ($S = 1 : 200$)

SK15
1.10YR3/2 黒褐色シルト質微砂 未分解有機物混じる

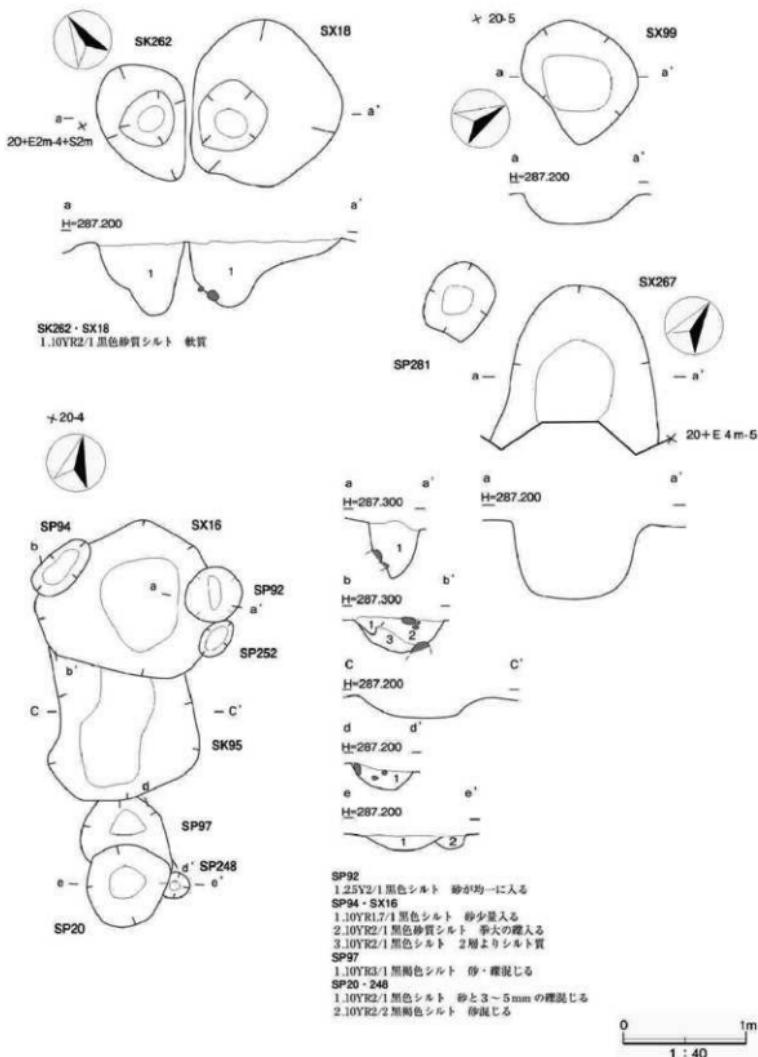
0 50cm
1:30

■は塊、■は土器

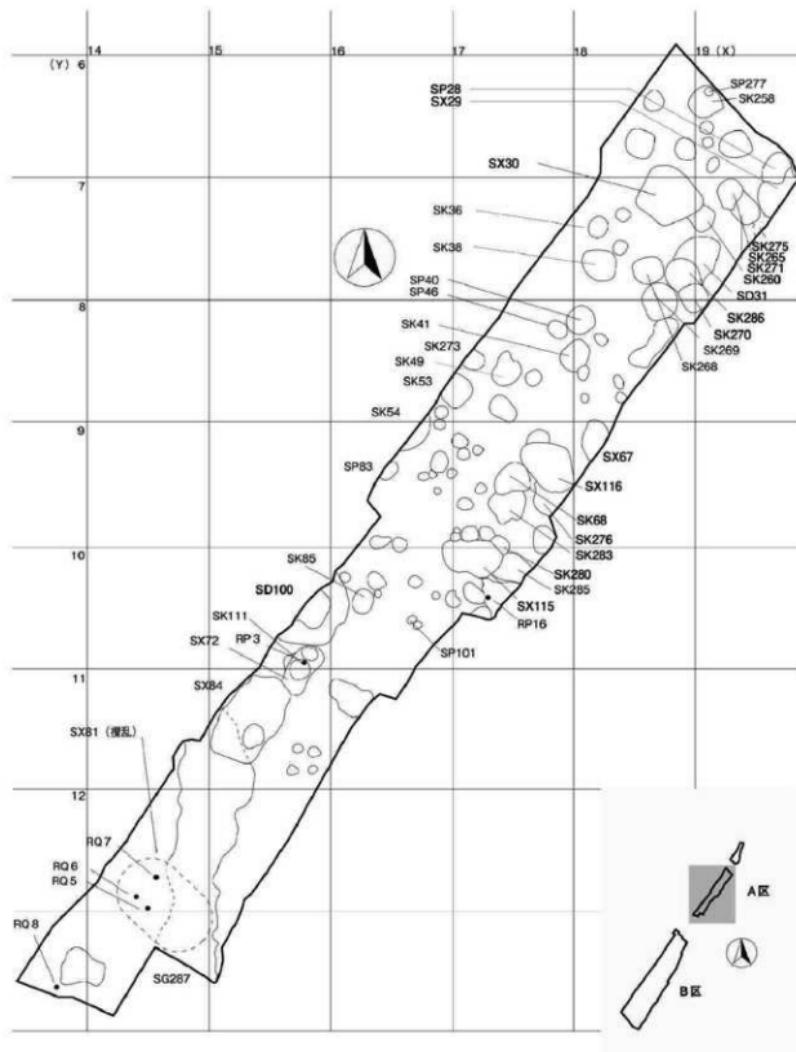
第7図 SK8・15



第8図 SK17・89・SP257・SX14他

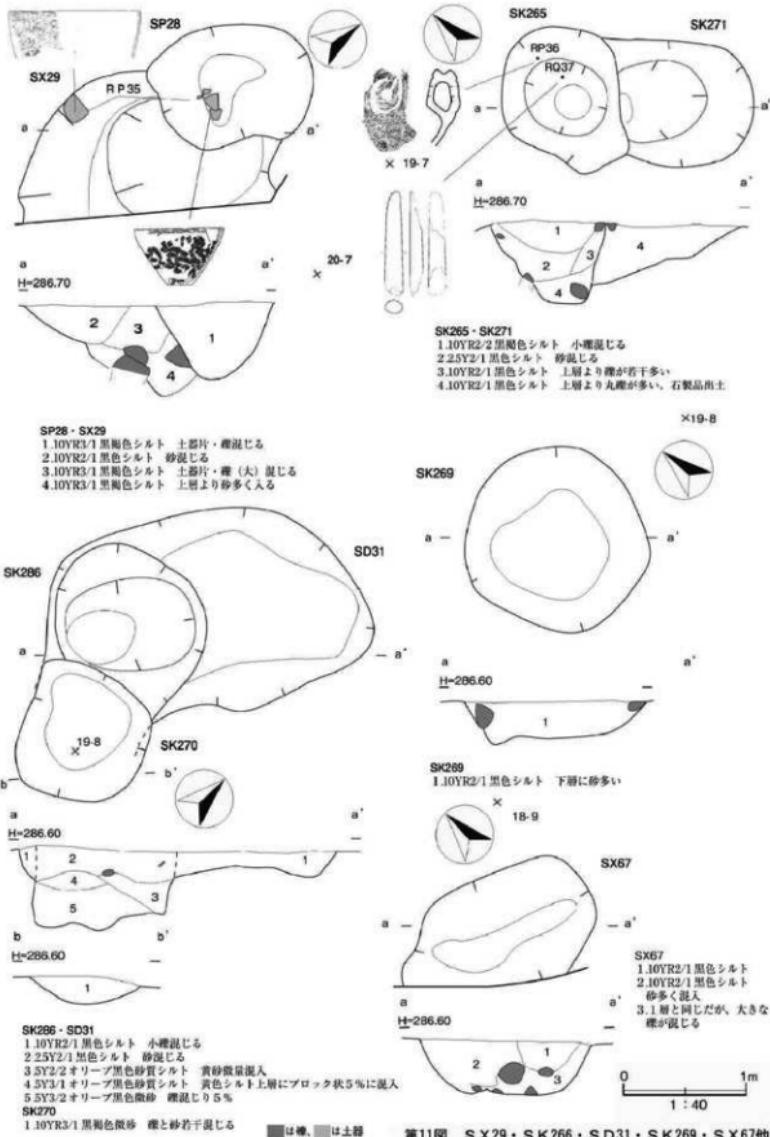


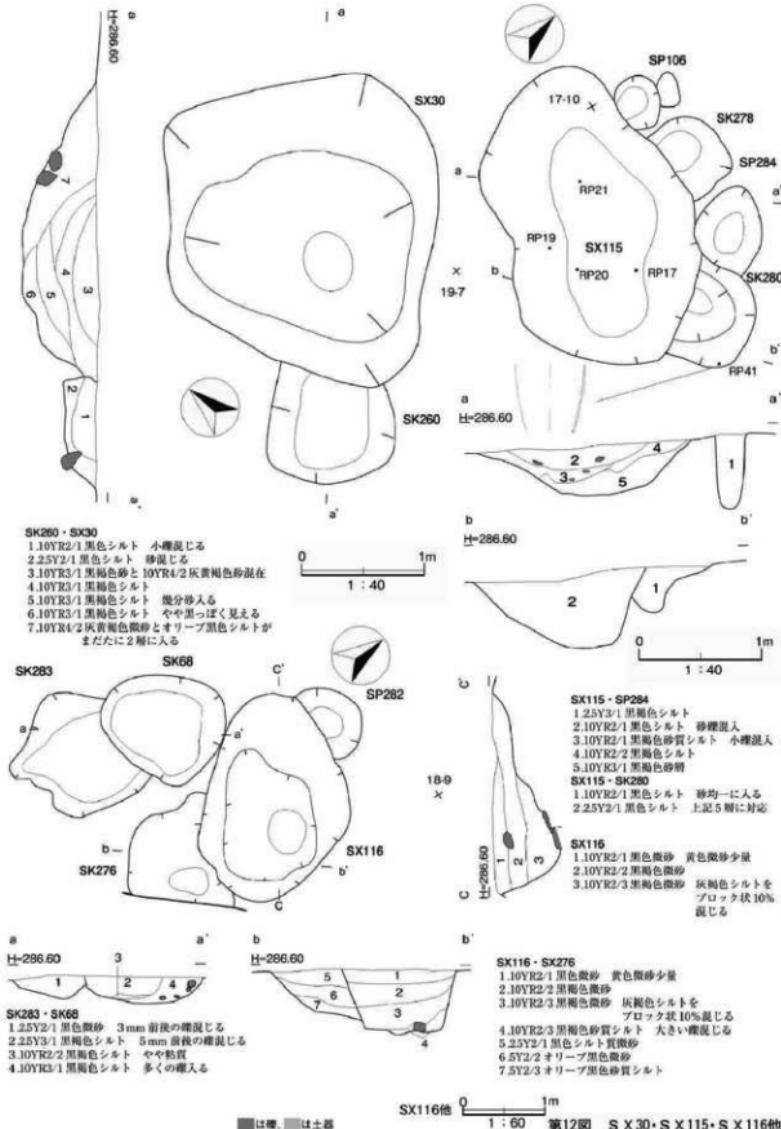
第9図 SK262・SX18・99・267他

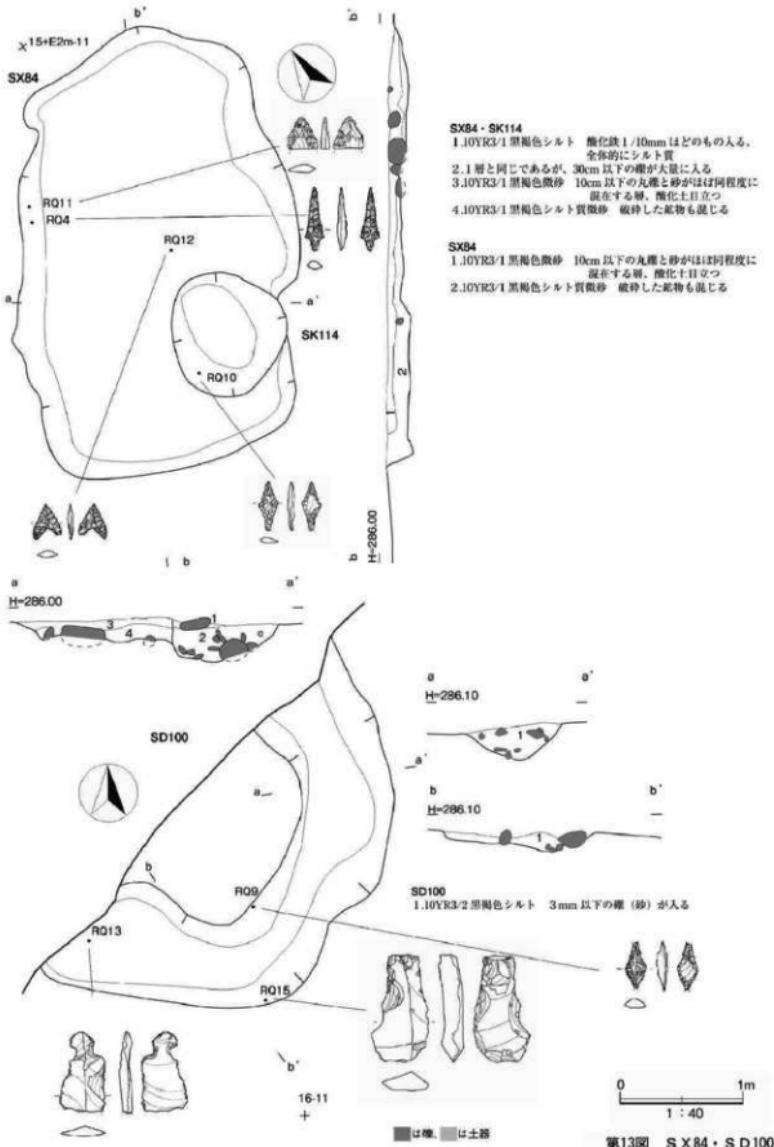


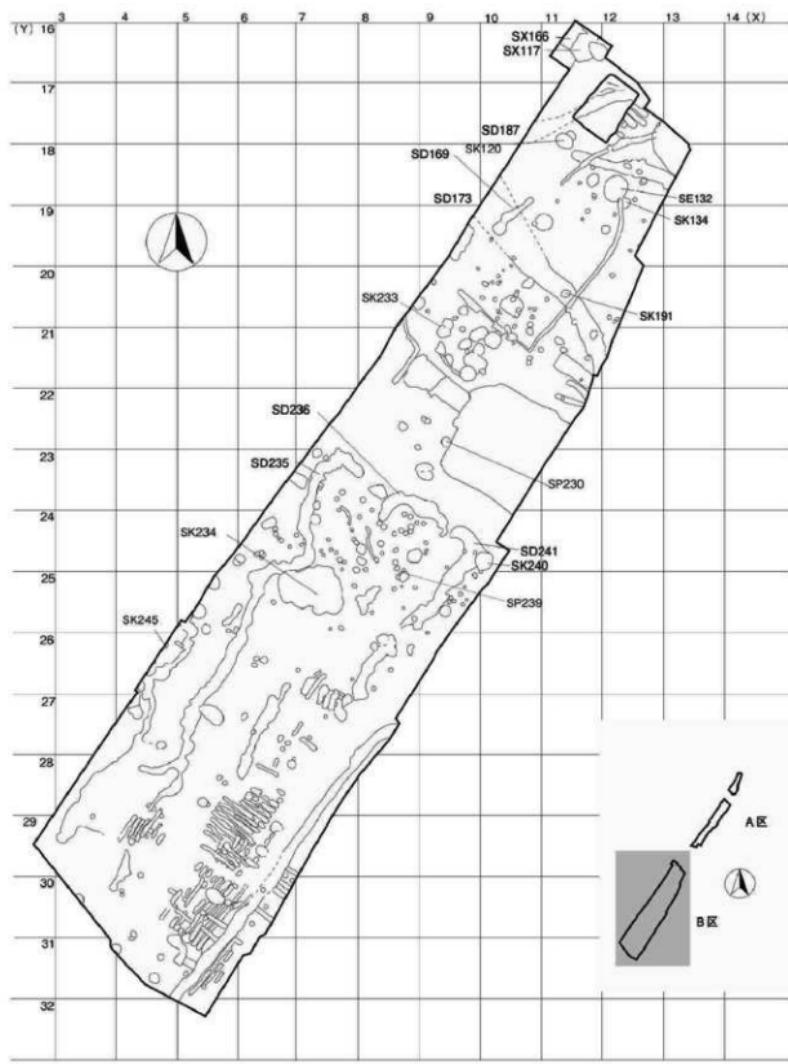
*掲載遺構については
太字にしている。

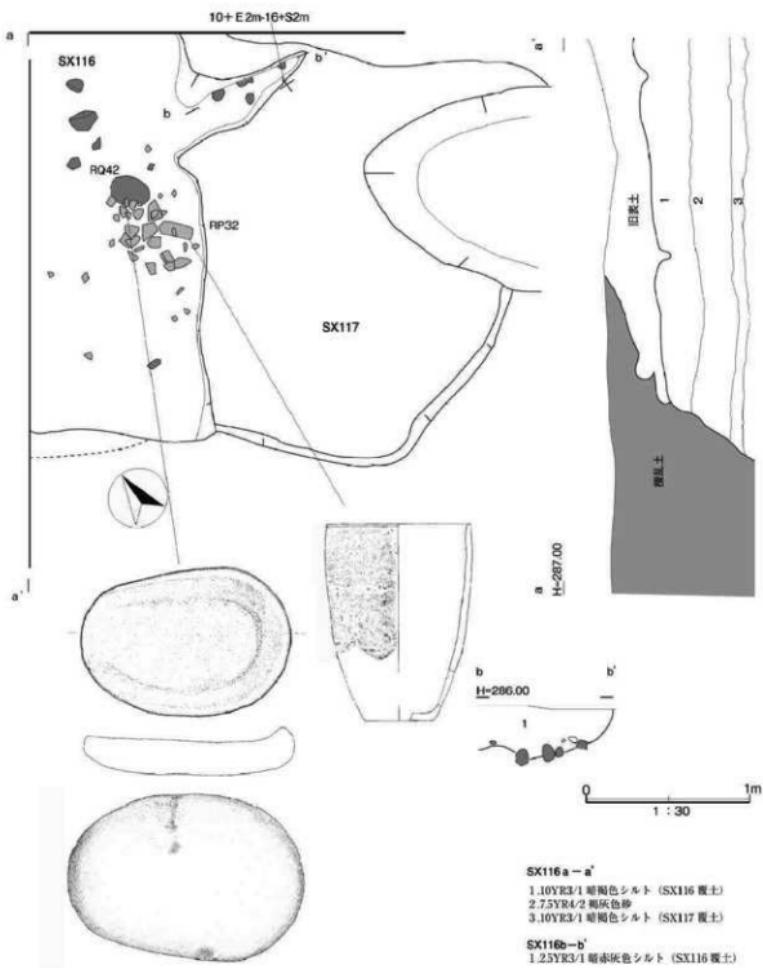
第10図 A区（中央～南）遺構配置図（S = 1 : 200）



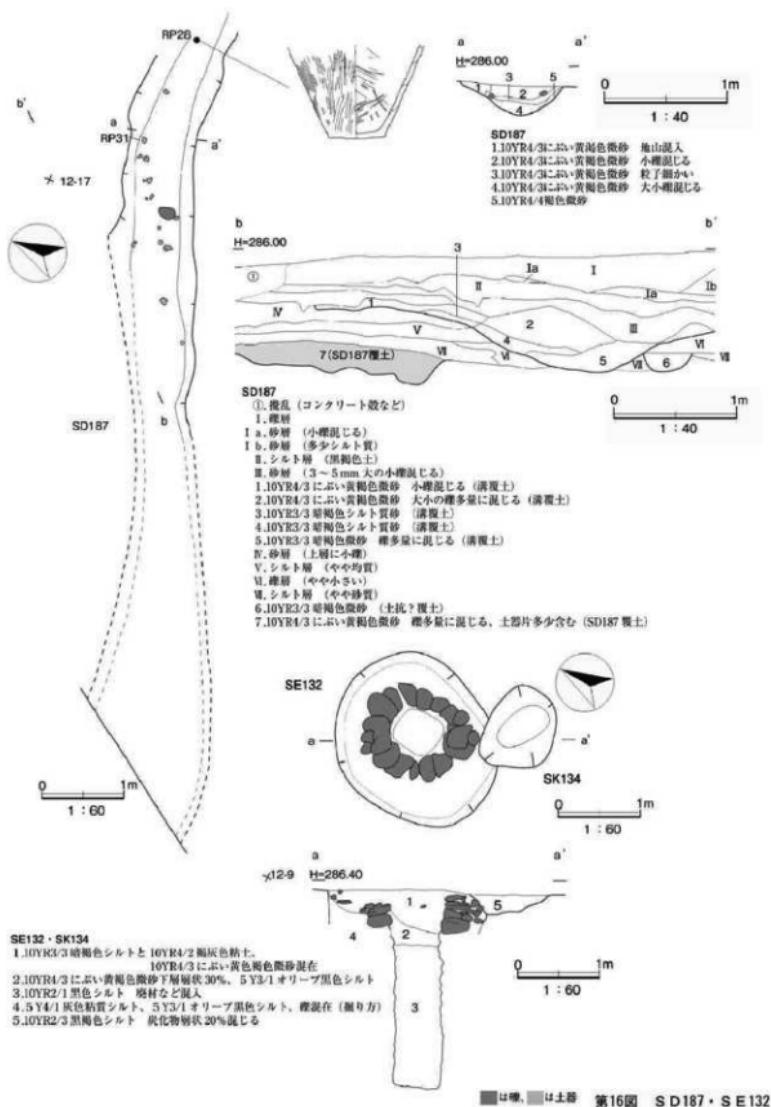


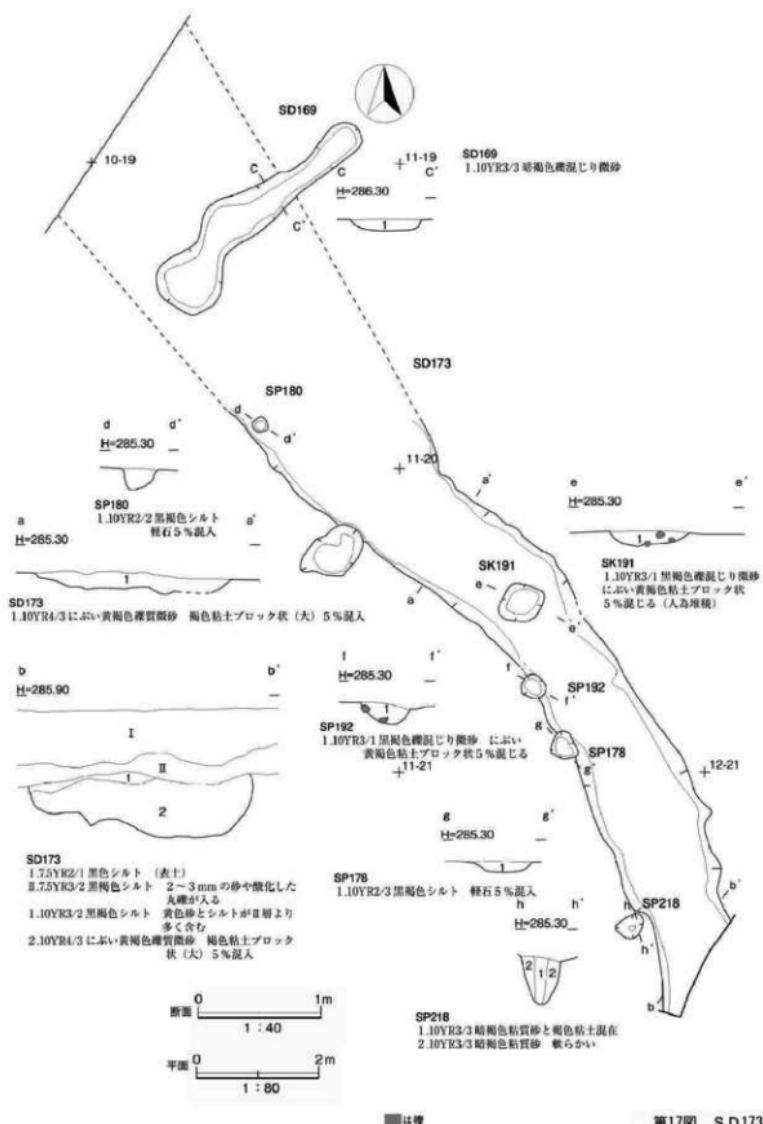


第14図 B区造構配置図 ($S = 1 : 400$)

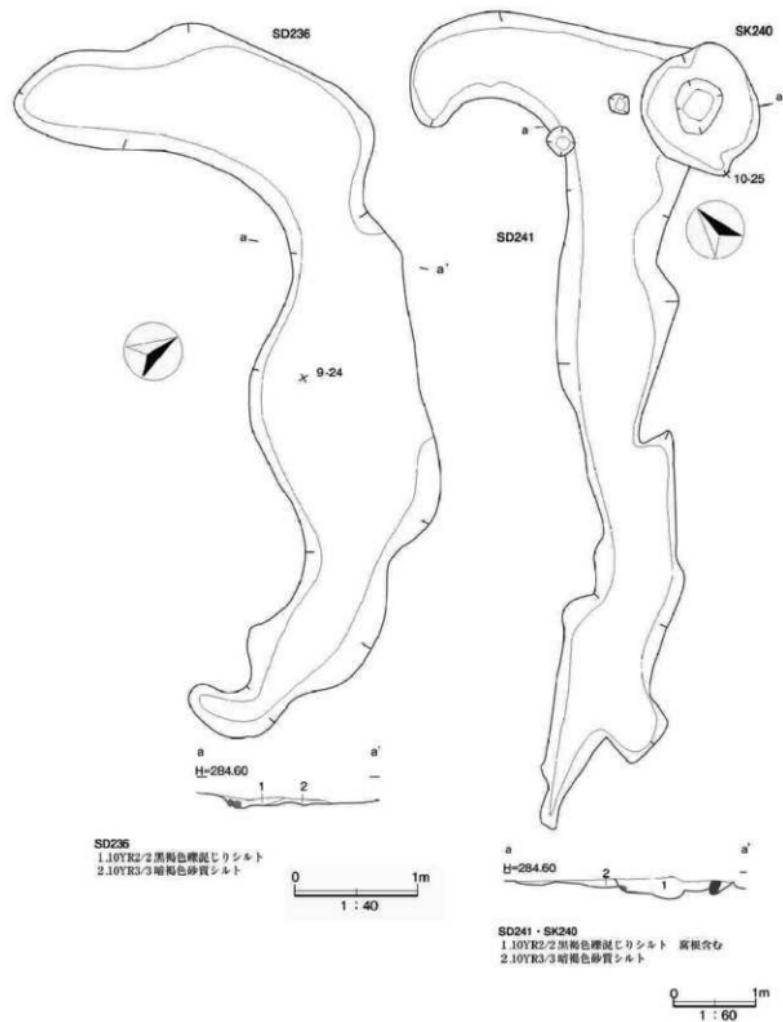


第15図 SX116



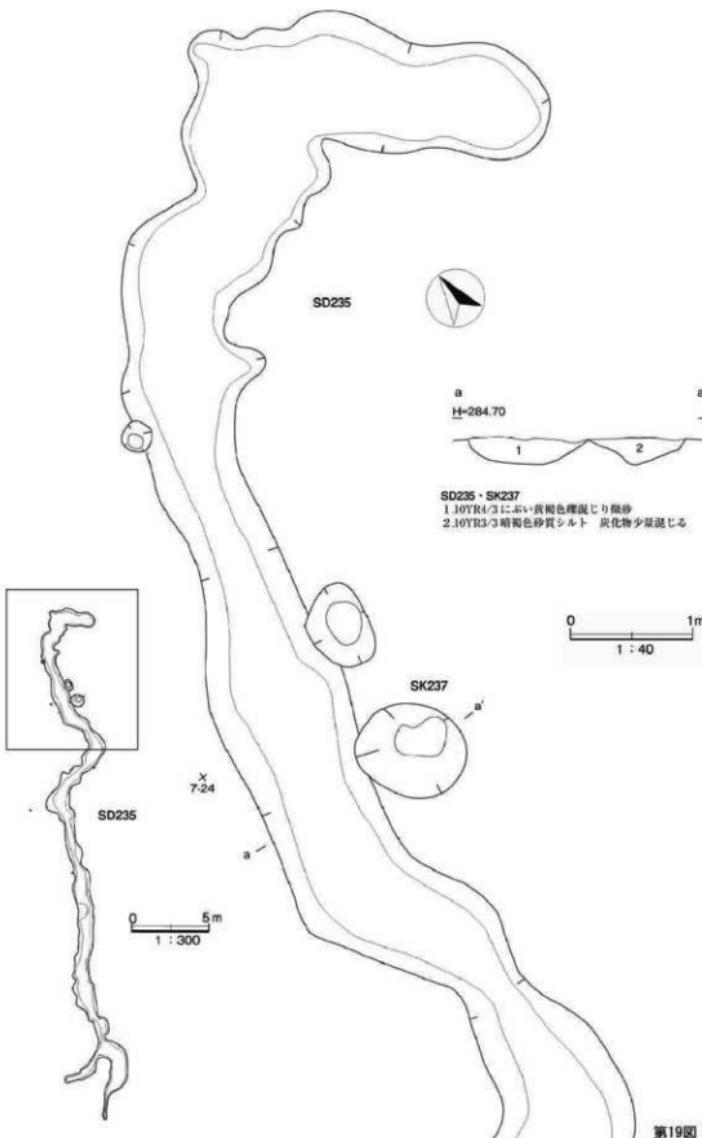


第17図 SD173

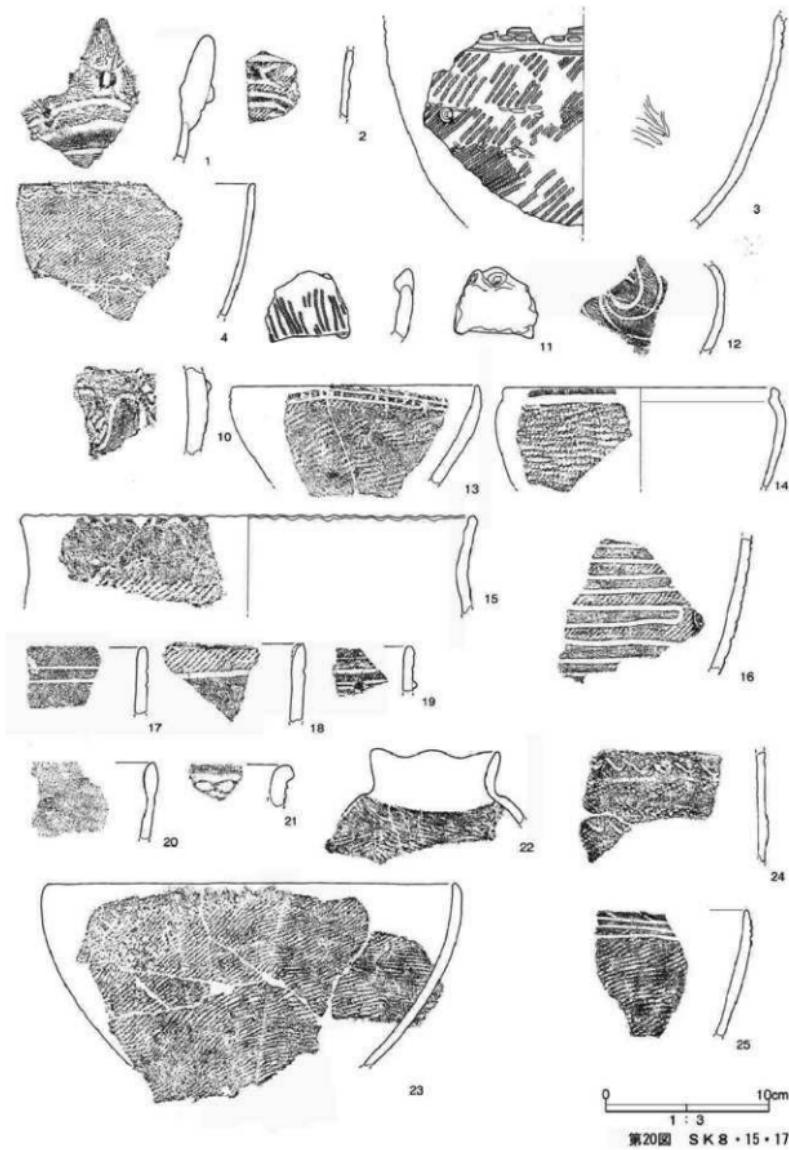


■は線、■は木

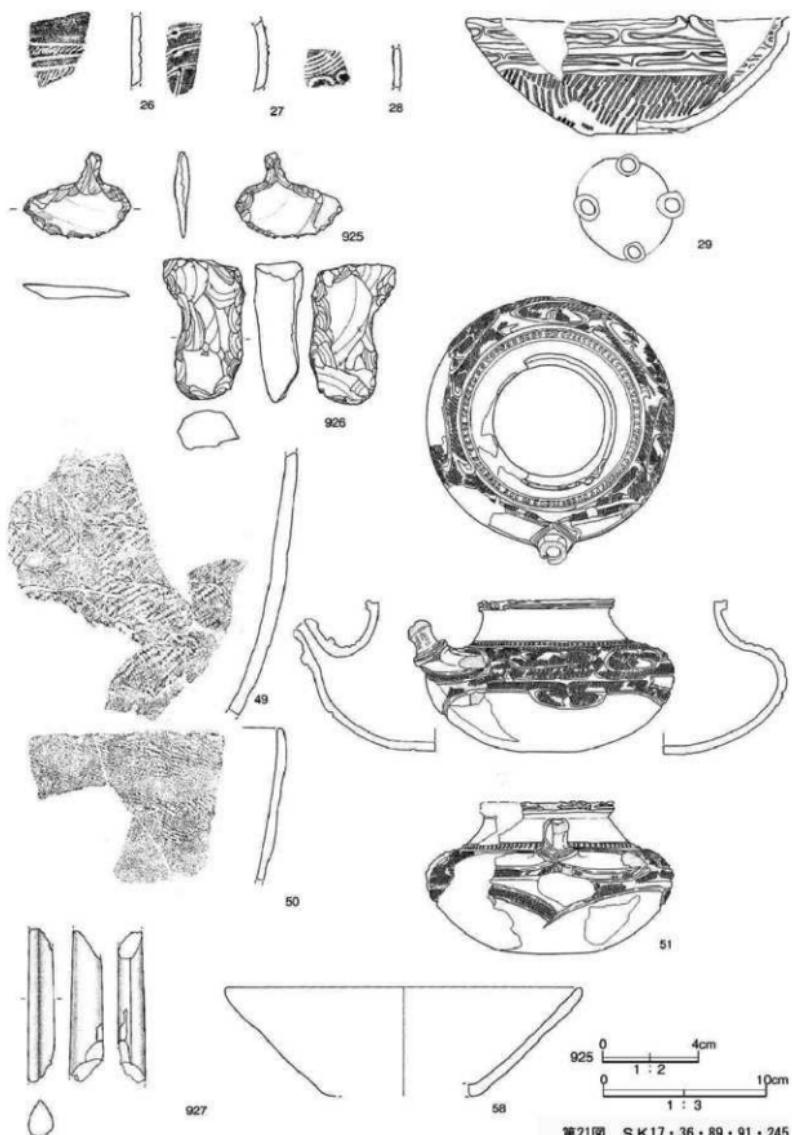
第18図 S D236・241



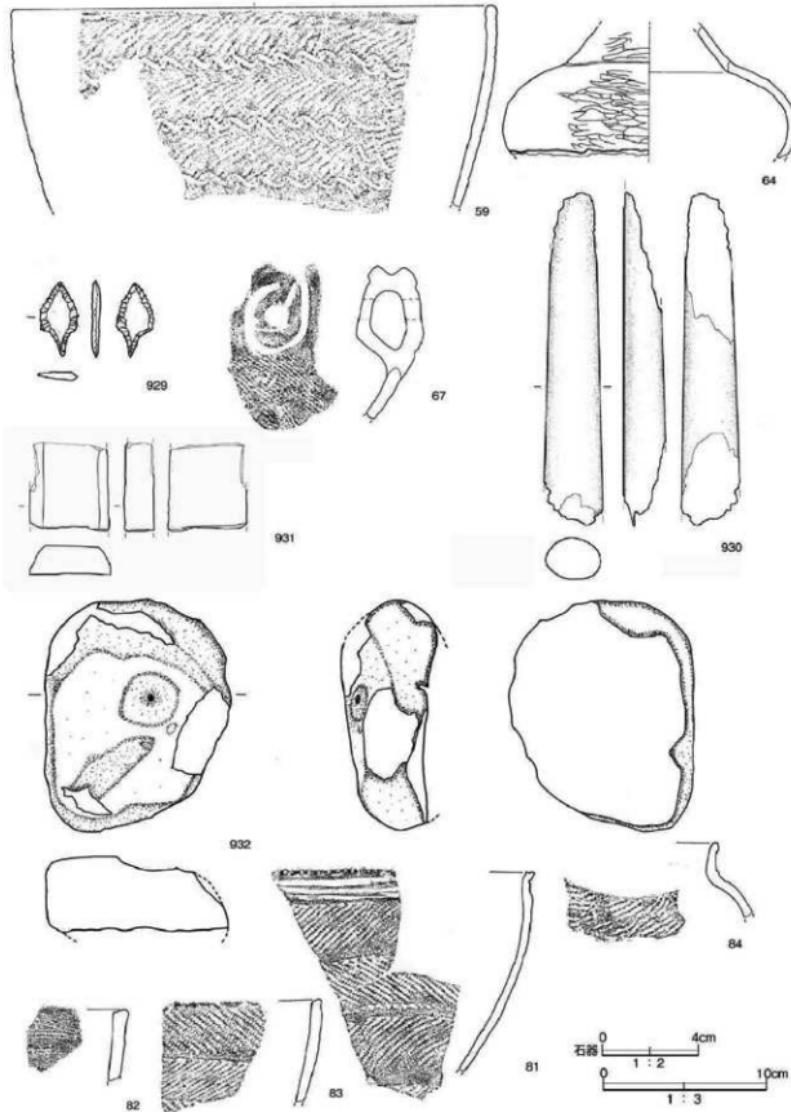
第19図 SD235



第20図 SK 8・15・17



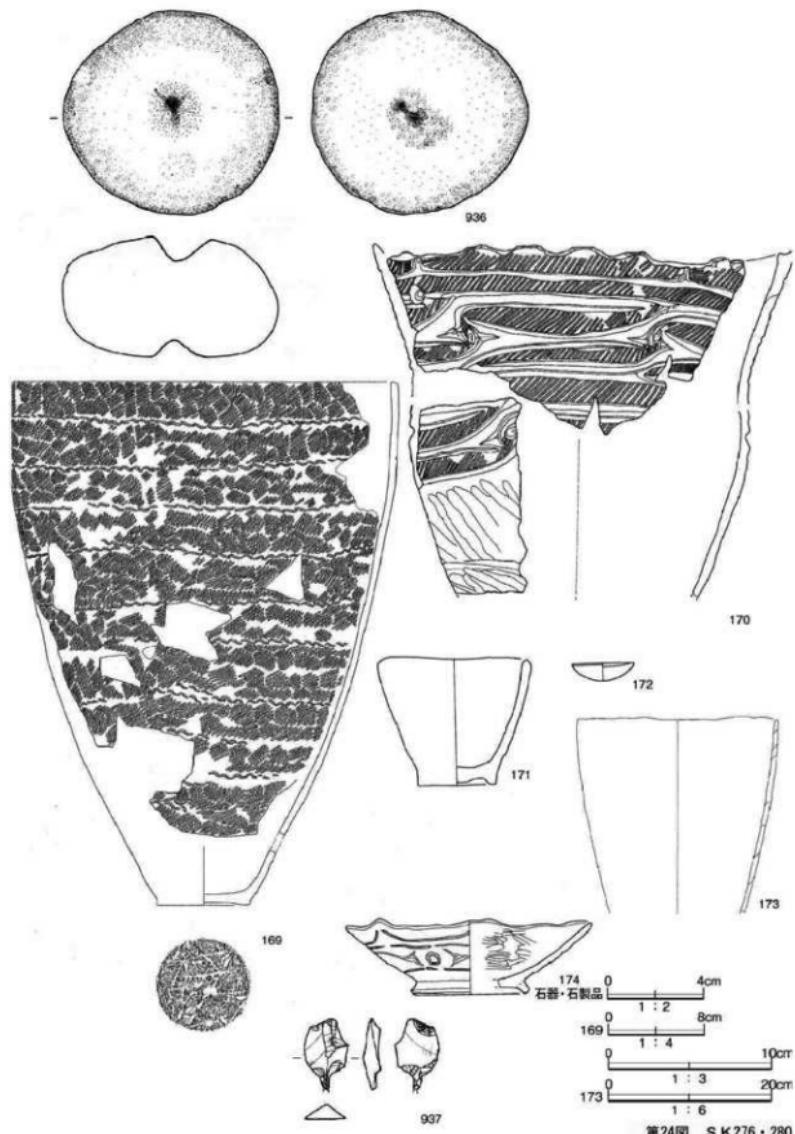
第21図 SK17・36・89・91・245



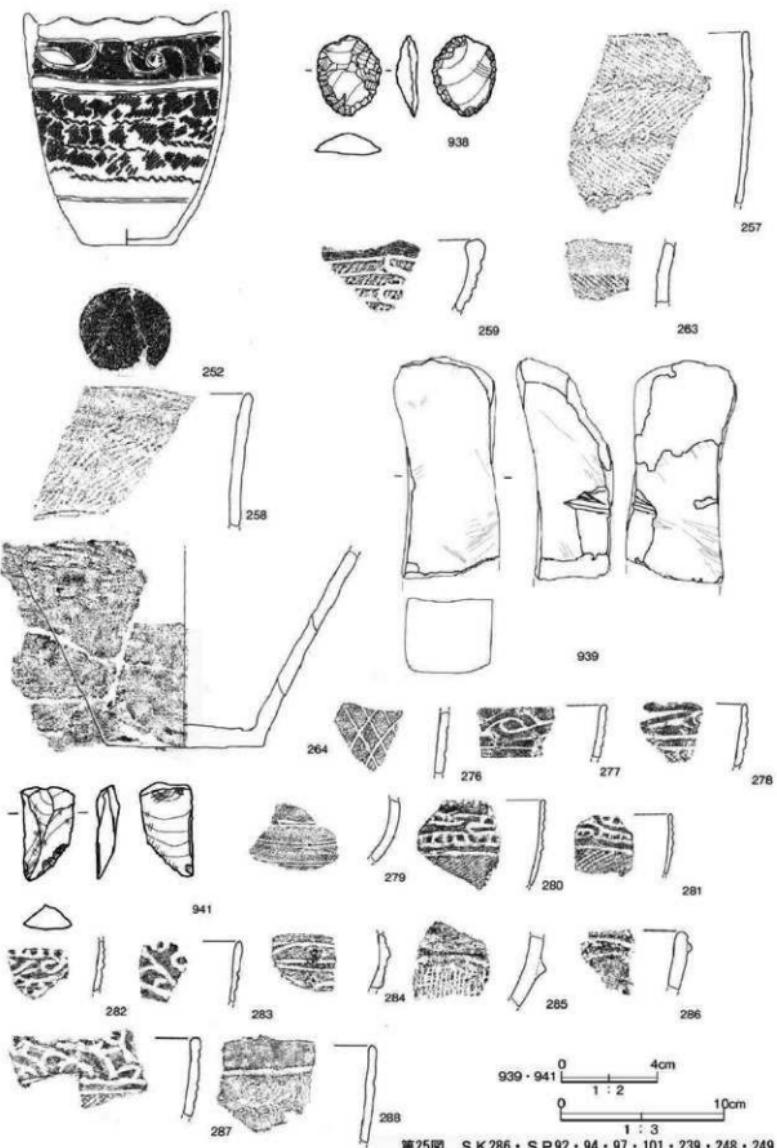
第22図 SK260・265・266

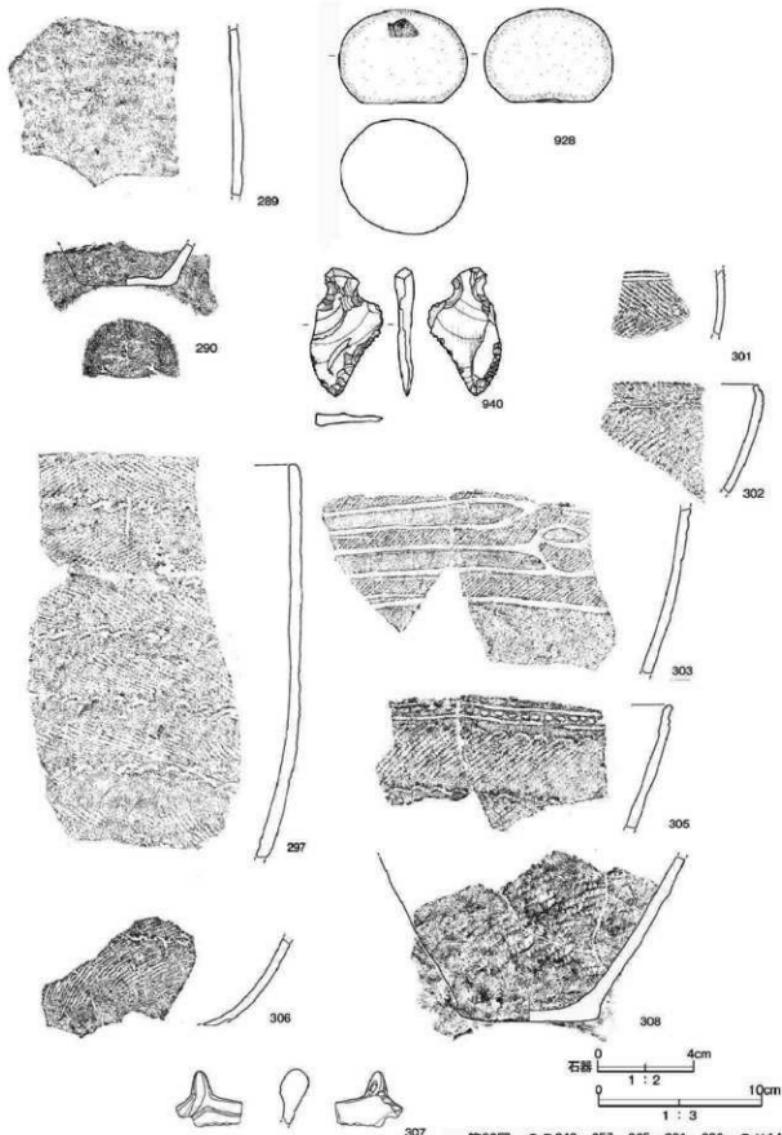


第23図 SK266・269・270・271・274・275

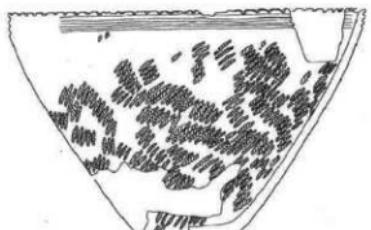


第24図 S K276・280





第26図 S P 249・257・265・281・286・S X14



346



327



328



347



348



348

添付箇



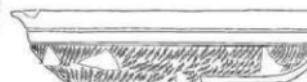
383



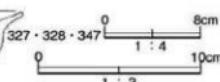
386



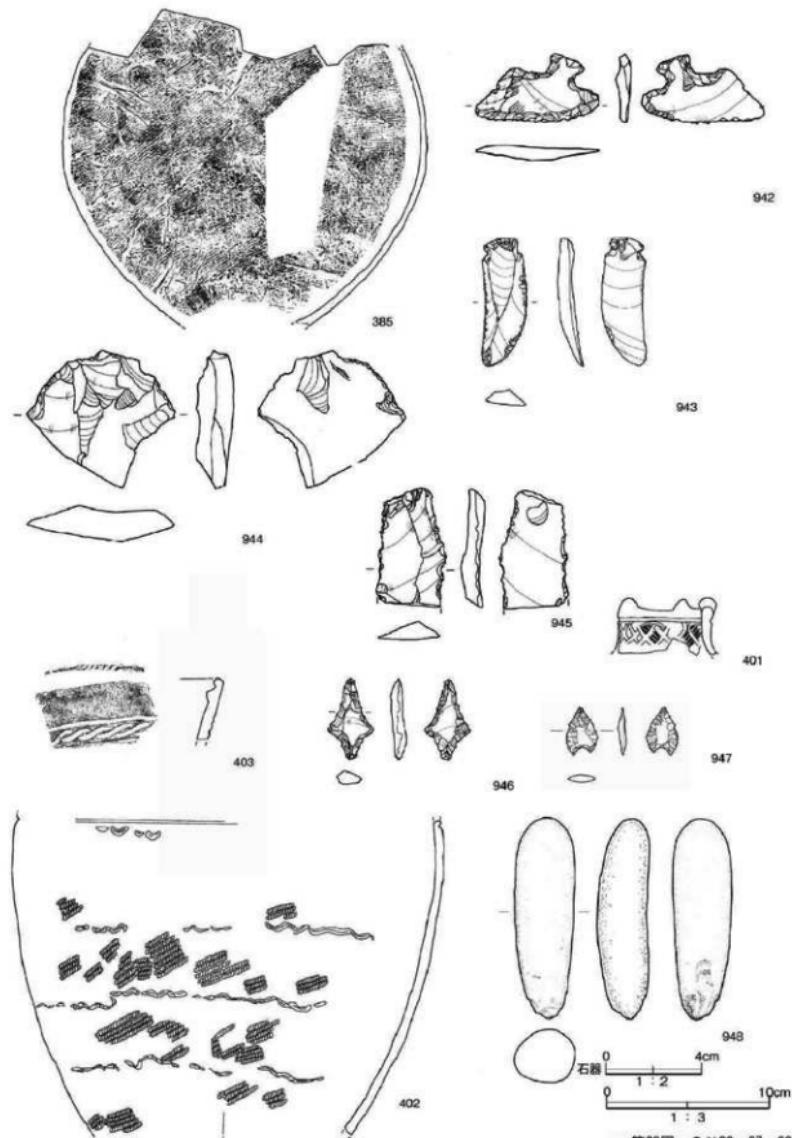
384



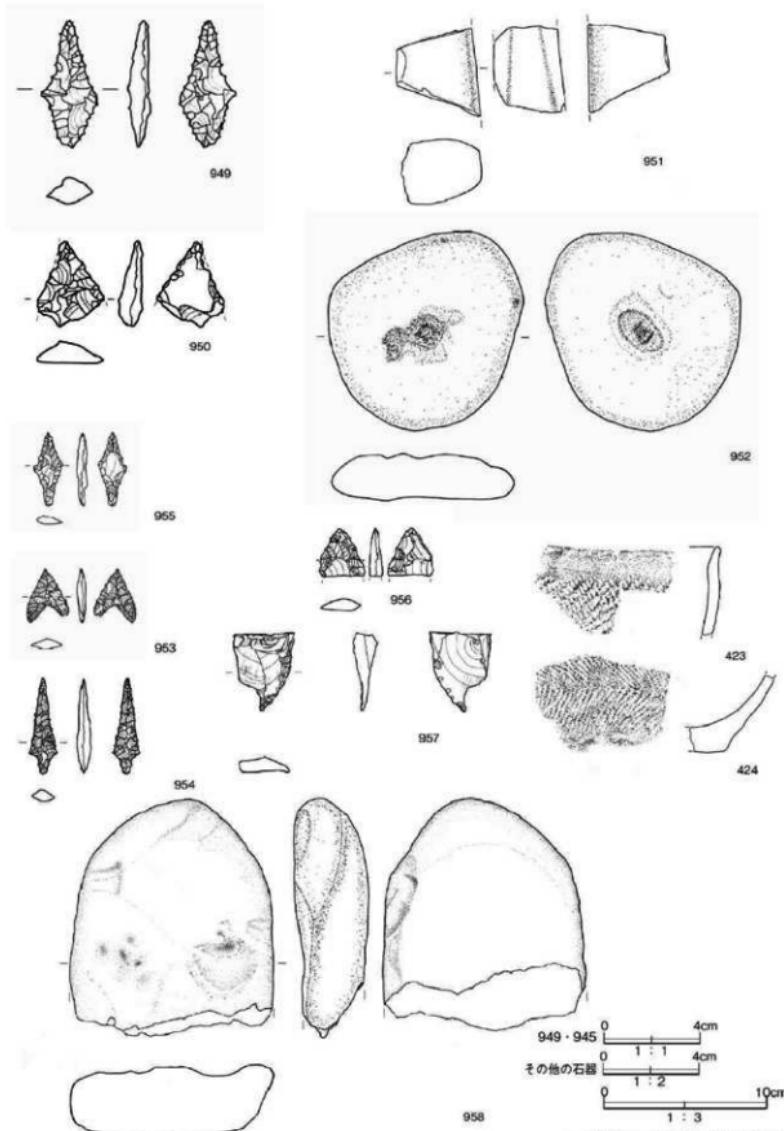
387



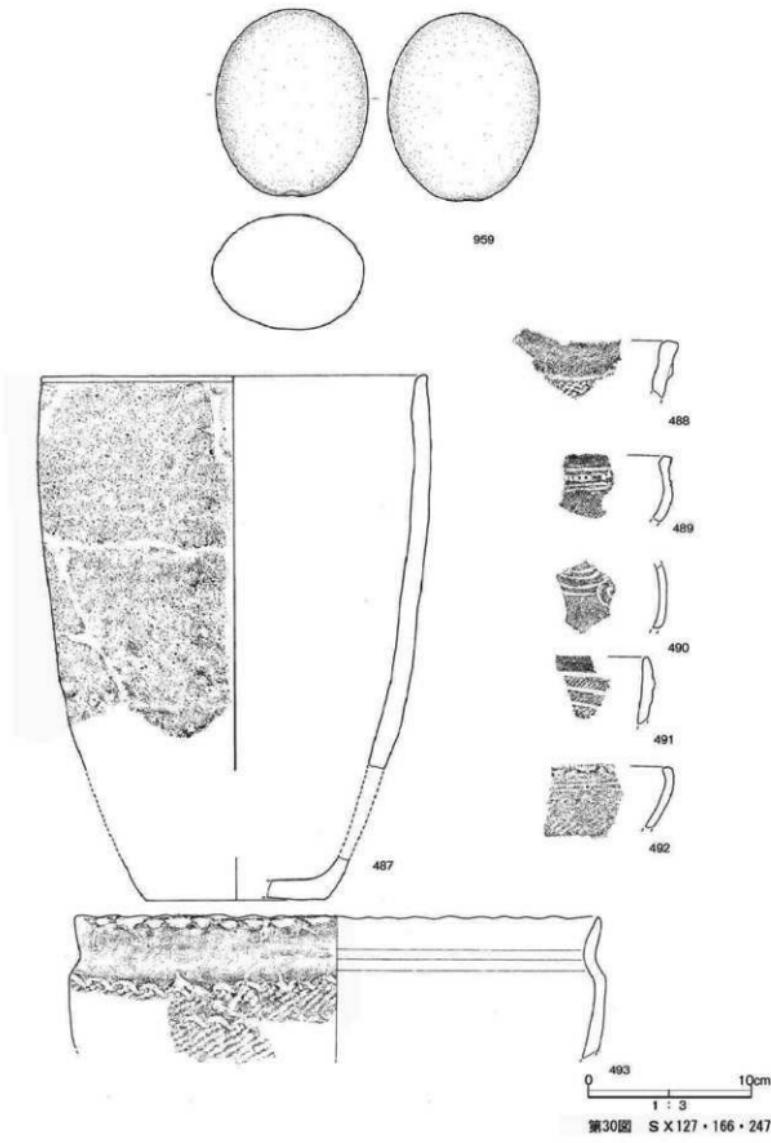
第27図 S X16・29・30



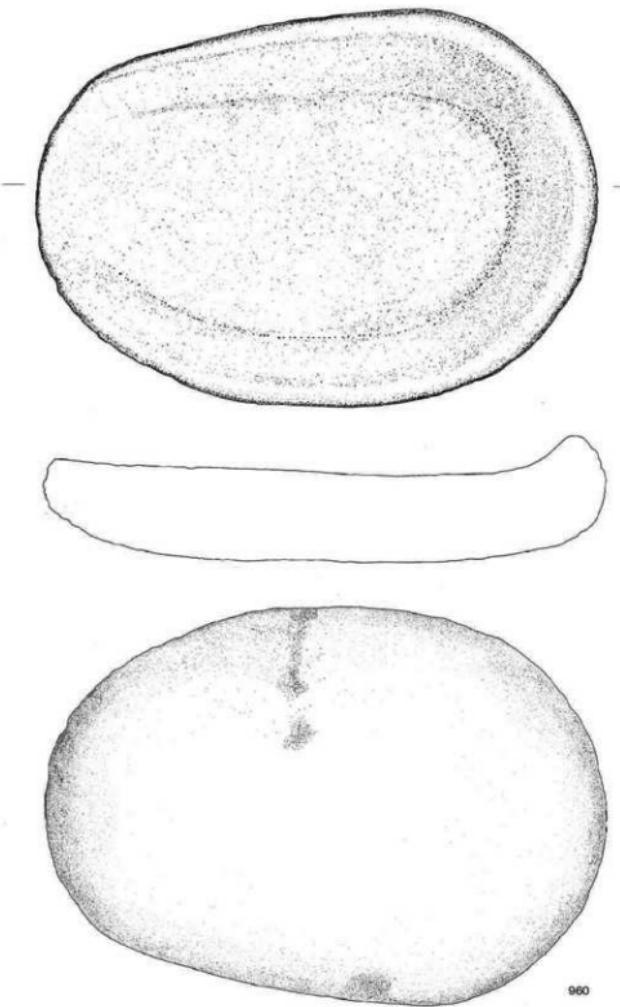
第28図 S X30・67・68



第29図 S X 81・84・99・115



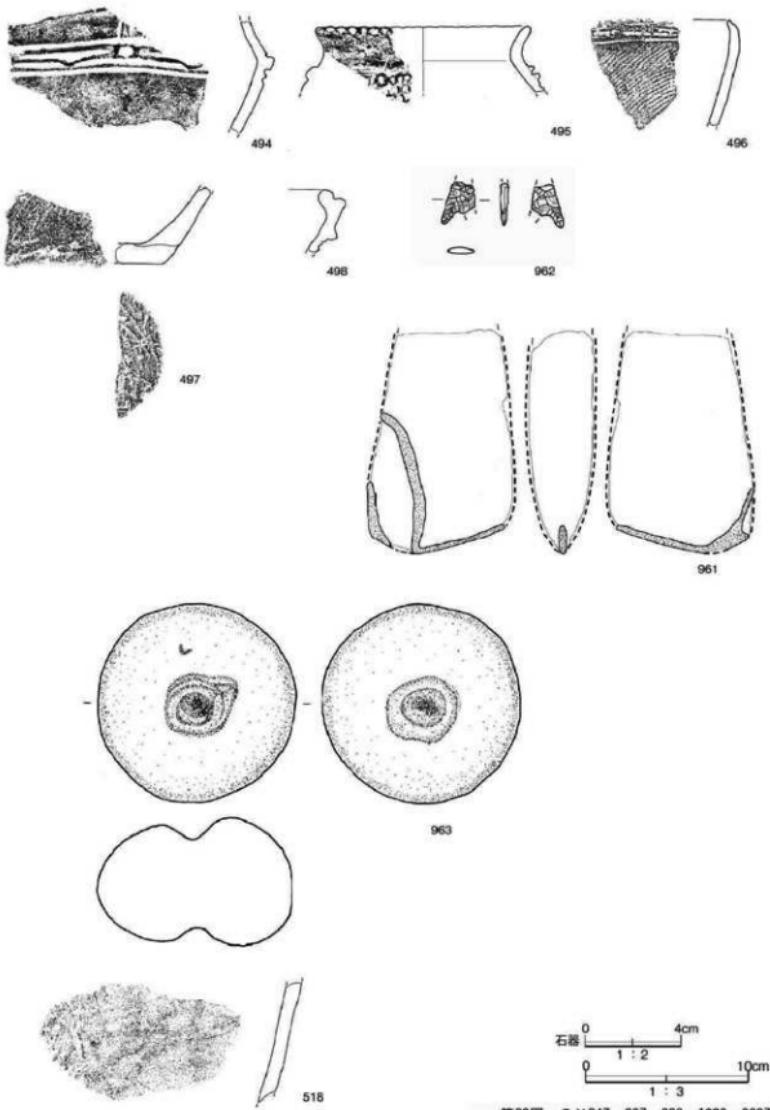
第30圖 S X127・166・247



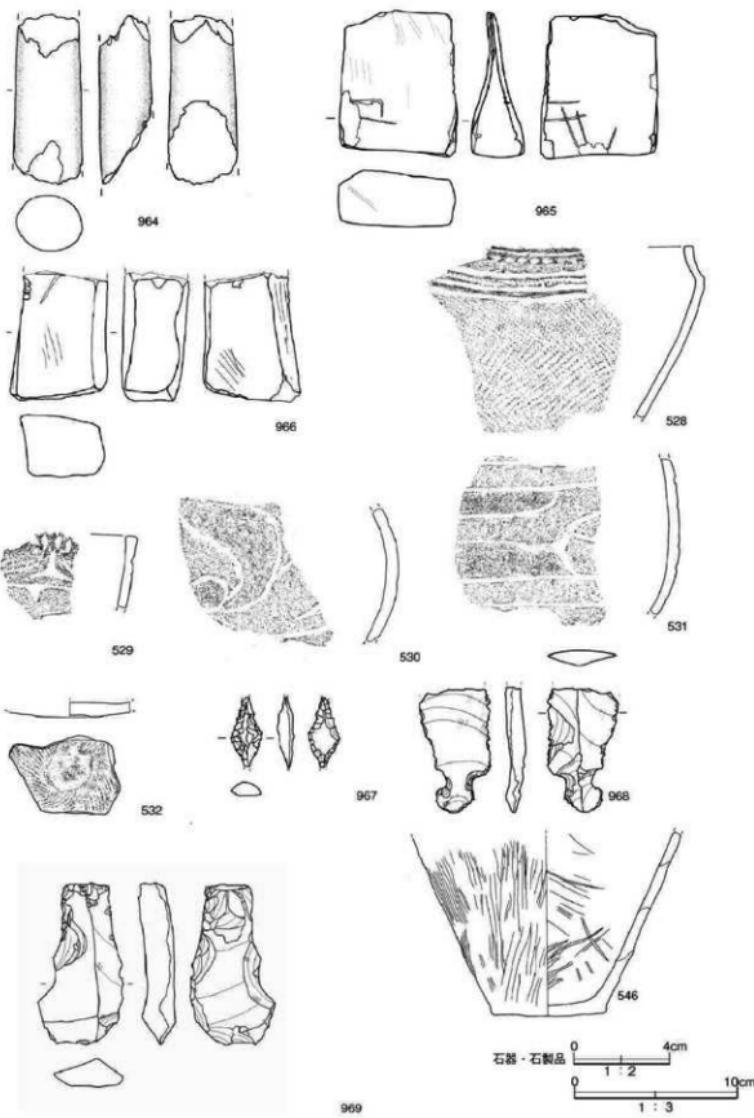
960

0 10cm
1 : 3

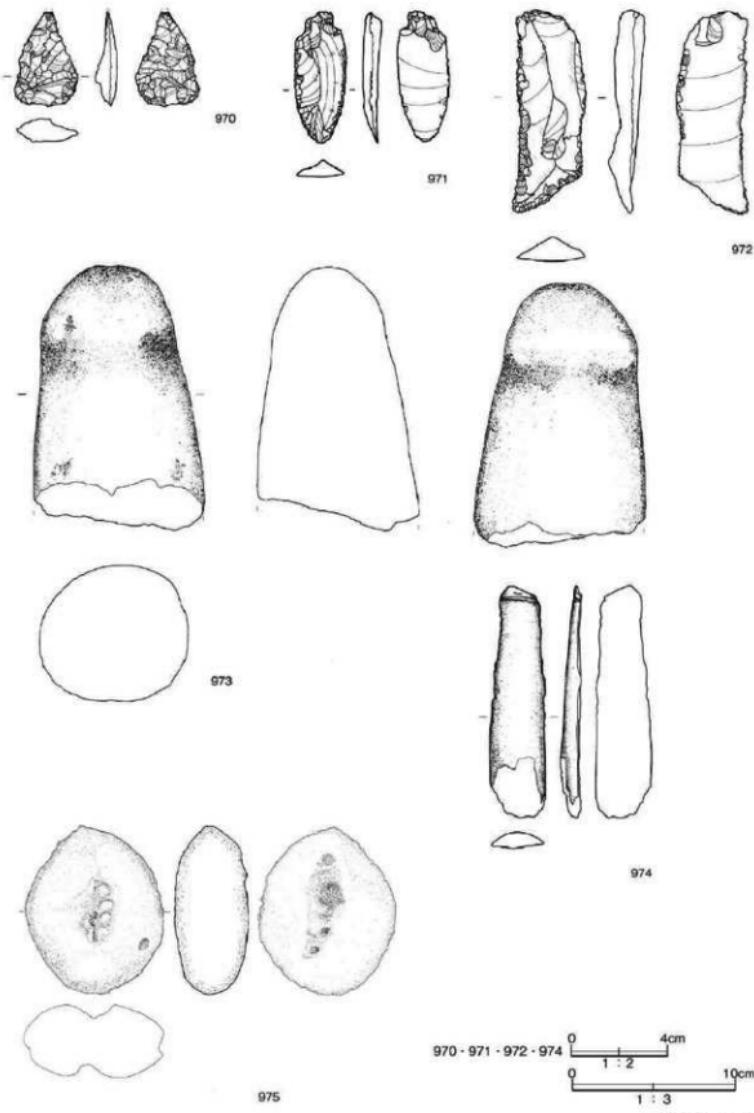
第31図 S X 166



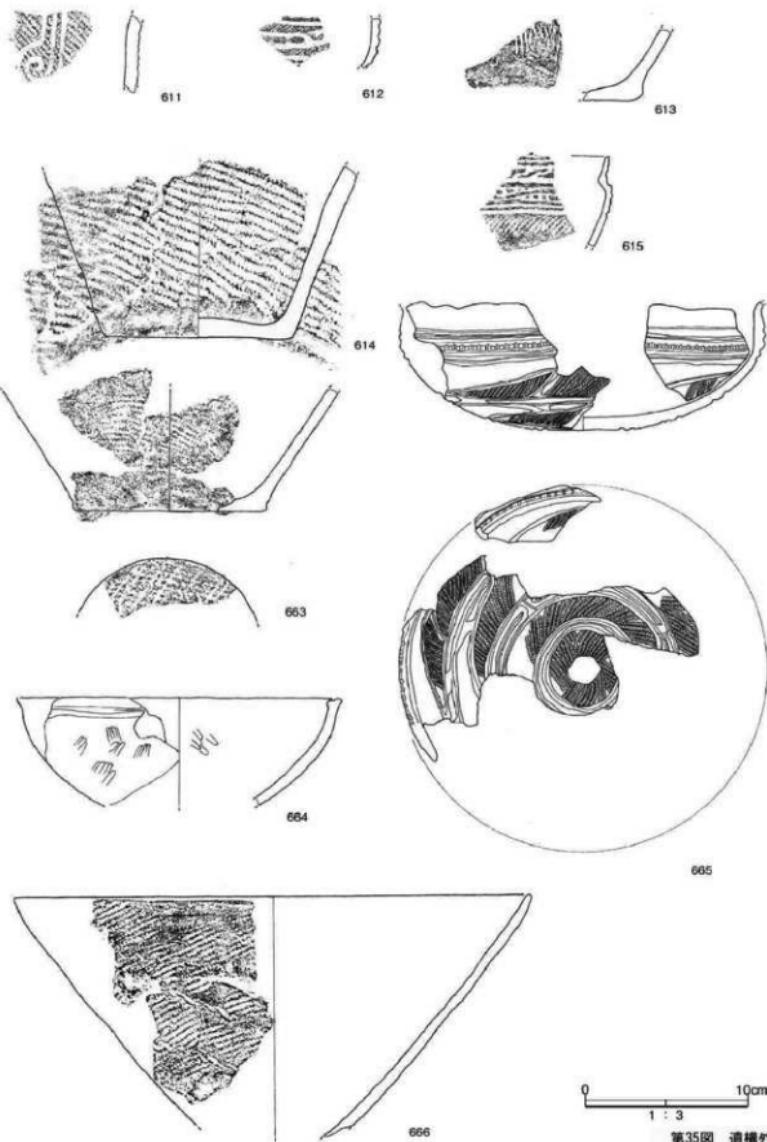
第32圖 S X247・267・283・1003・2007



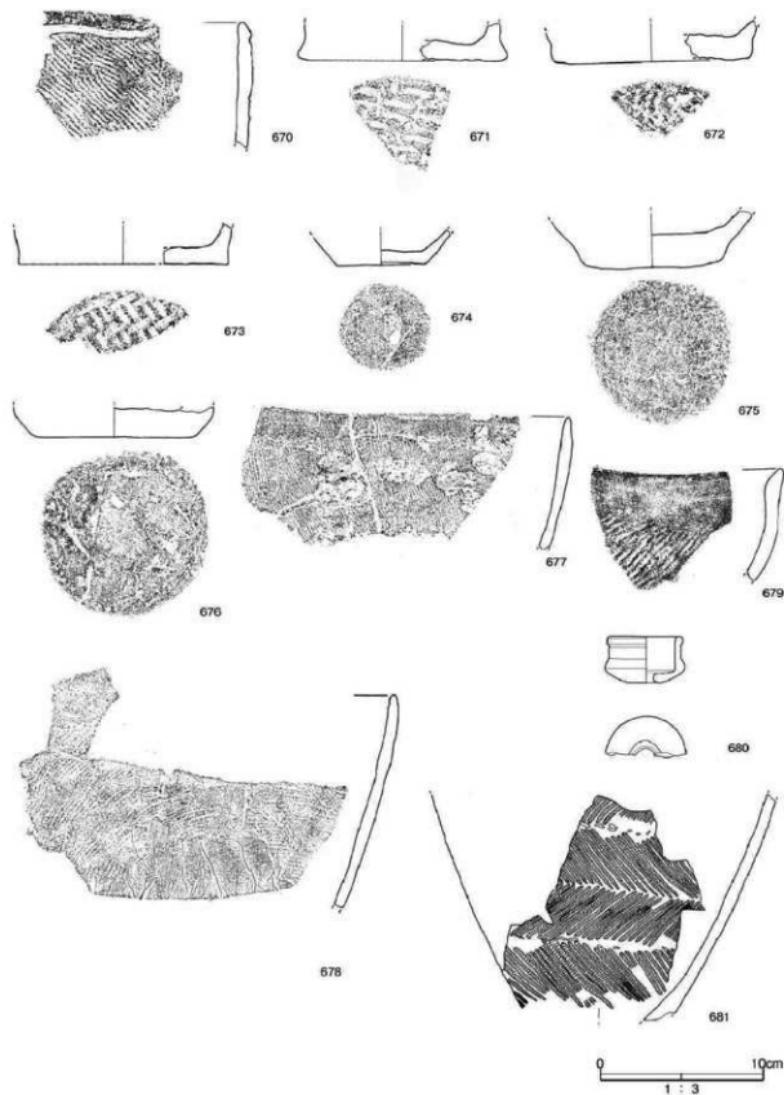
第33図 S X2007・S D30・100・SD187



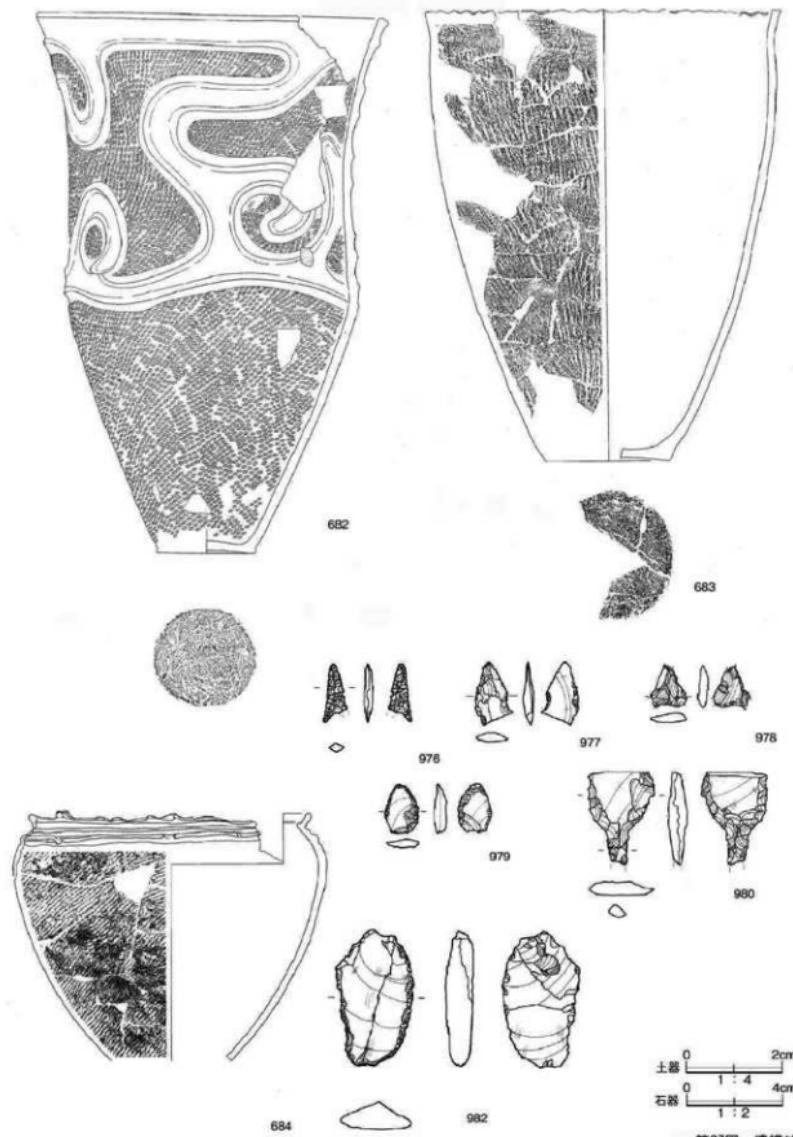
第34図 S G 287



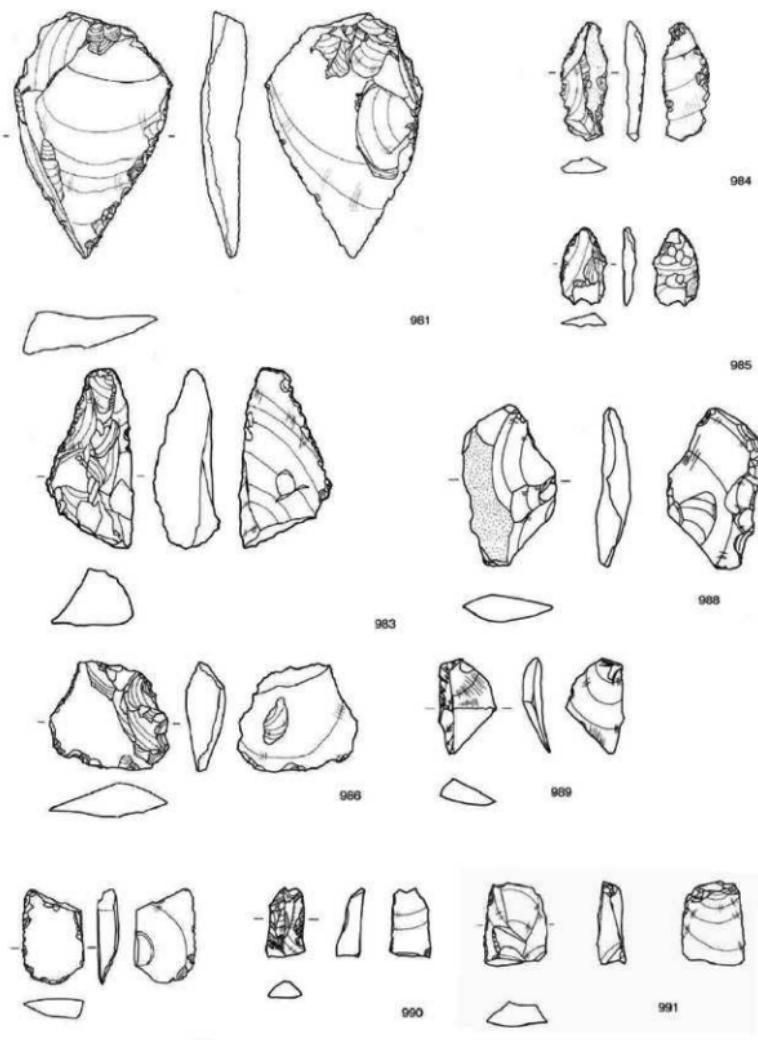
第35図 遺構外



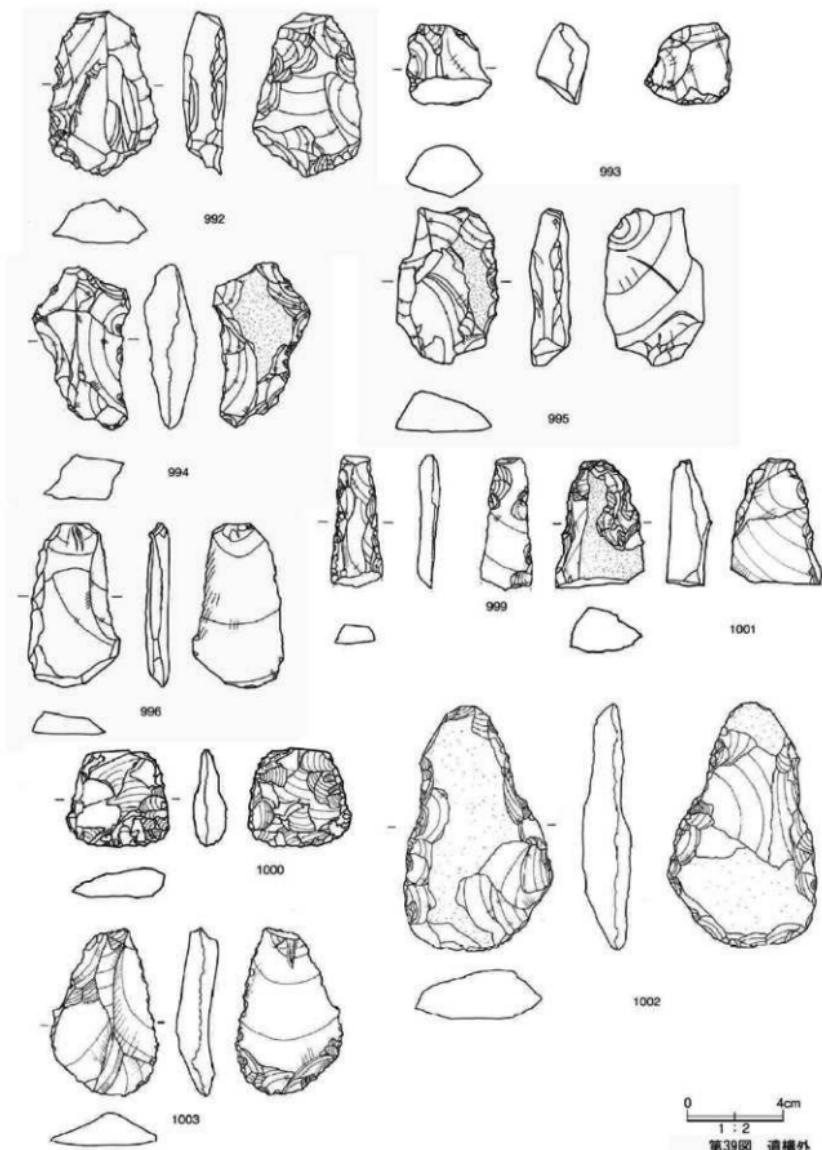
第36図 遺構外



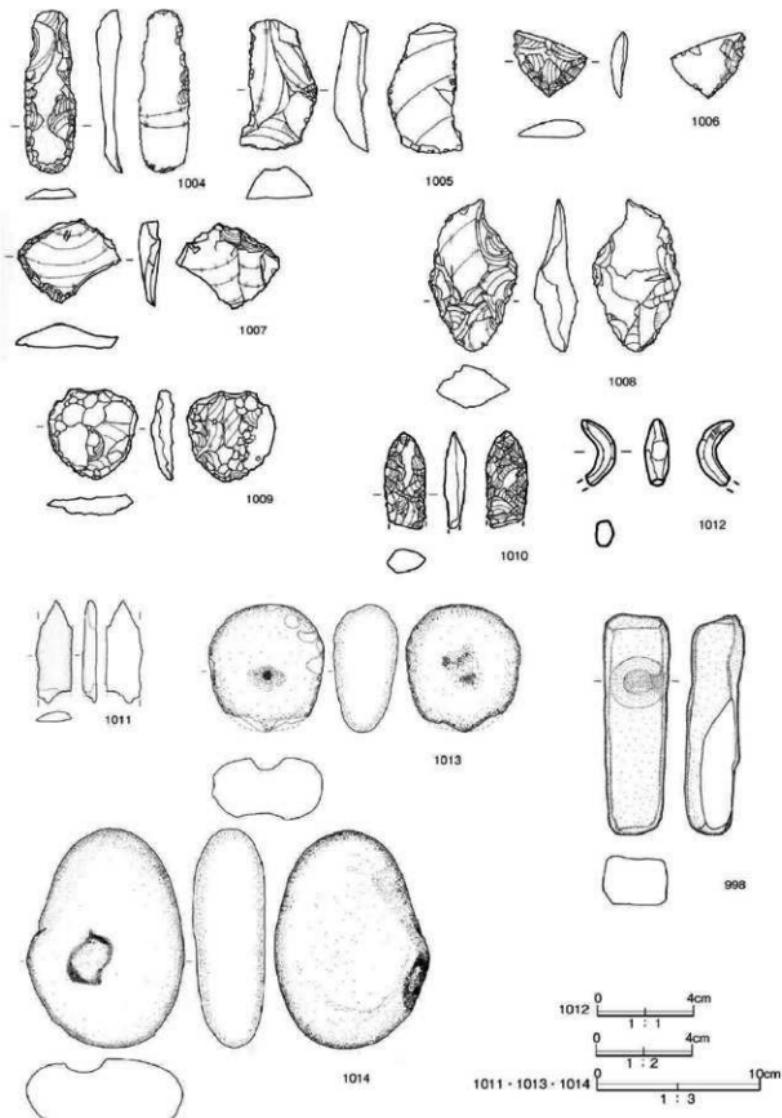
第37図 遺構外



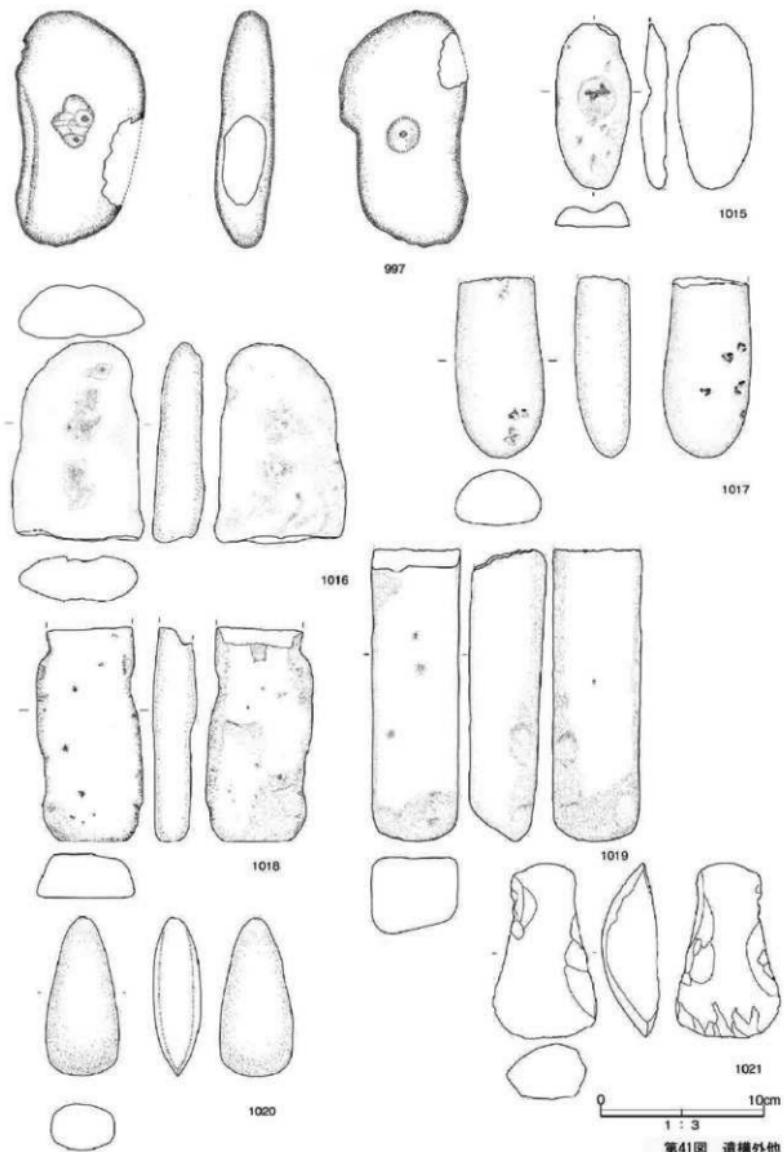
第38図 遺構外



第39図 遺構外



第40図 遺構外



第41図 遺構他

表1 桐文・弥生土器觀察表

番号	図版	写真	分類	器種	出土遺構	残存部位	備考	38	34	I 3 ?	深鉢	SK38	体部	降帯文	
1	20	31	II 2 A iii	深鉢	SK8	口縁部	突起、口唇部瘤 状突起+削目、 条筋、貼面、 R P 1	39	34	II 1 E	深鉢?	SK38	口縁部	突起	
2	20	31	II 3 c ?	深鉢	SK8	体部上半	露形文?	40	34	II 2 Ab ii	深鉢	SK38	口縁部~	瘤狀突起、口縁 部瘤様+沈線+ 体部	
3	20	31	II 2 a	深鉢	SK8	体部	羊齒調文	41	34	III 1 C	浅鉢?	SK38	口縁部	堆疊状突起	
4	20	31	V a 4	深鉢	SK8	口縁部~	平口縁、結節縫 文	42	35	II 1 A e	浅鉢	SK41	口縁部~	平口縁+削目、 体部多条筋、 内面炭化物	
5	31	II 2 ?	浅鉢?	SK8	体部	平行沈線+突 起?(摩滅)	43	35	II 1 Af 2	浅鉢	SK41	口縁部~	内面平行沈線間 網突、入状沈線 列		
6	31	II 2 a	深鉢	SK8	体部	突起+平口縁	44	35	III 1 ?	鉢	SK41	口縁部	突起、弧状沈線 (削目)		
7	31	V	深鉢	SK8	口縁部	沈線	45	34	I 3	深鉢	SK39+54	口縁部~	降帯文		
8	31	II 1 A	浅鉢?	SK8	体部	平口縁、弧状沈 線	46	35	II 2 b iii	深鉢	SK68	口縁部~	瘤狀突起 2 对、 横位条筋		
9	31	II 1 E	鉢	SK8	口縁部	平口縁、平行沈 縫	47	35	II 2 b iii	鉢?	SK68	口縁部	突起、頸部瘤 状突起(突)		
10	20	31	II 1 d 1	深鉢	SK15	体部	瘤帶+側突、不 明口縁	48	35	V A 6	深鉢	SK68	口縁部~	沈線無、口縁 部無文	
11	20	31	II 1 B	深鉢	SK15	口縁部	山形突起+盲孔	49	21	35	V	深鉢	SK89	体部	結節繩文、内面 炭化物
12	20	31	II 1 c ?	壺	SK15	体部	入組文	50	21	35	V A 7	深鉢	SK89	口縁部	口縁(小波状)、 地文繩文
13	20	32	II 3 B a	浅鉢	SK17	口縁部~	口唇部削目、平 行沈線+削目	51	21	4	III 3 Cac	注口	SK89	ほぼ完形	B突起、頭部無 文、体部上半(平 行沈線削目)、 底形X付口縁部 底部下半無文、底 部中央凹形削目、 外面部彩、R P 38
14	20	32	V A 5	浅鉢	SK17	口縁部~	口縁部無文	52	36	II 1 i	鉢?	SK89	底部?	底部直上に沈線	
15	20	32	V A 8	深鉢	SK17	口縁部	口縁(小波状)	53	36	V I	台付鉢	SK89	底部	底部直上に沈線	
16	20	32	II 1 f 4	深鉢	SK17	体部	不明曲線	54	36	III 3 A a	浅鉢	SK89	口縁部~	平口縁、平行沈 縫+削目	
17	20	32	II 2 B	深鉢	SK17	口縁部	平口縁、帶状文	55	36	V A 8	浅鉢	SK90	口縁部~	波状口縁、頸部 無文	
18	20	32	II 2 C	深鉢	SK17	口縁部	平口縁、帶状文+	56	36	II 1 h	深鉢	SK91	体部	曲線文+連続網 突	
19	20	32	II 2 A ii	深鉢	SK17	口縁部	粘物	57	36	II 2 B a	浅鉢	SK120	口縁部	B突起、平行沈 縫+削目	
20	20	32	II 2 D	深鉢	SK17	口縁部	平口縁、条筋文	58	21	37	VB 1	浅鉢	SK245	口縁部~	平口縁、無文
21	20	32	II 1 Ad 1 ?	深鉢?	SK17	口縁部	粘物	59	22	37	V A 4	深鉢	SK256	口縁部~	口縁部~平口縁、 結節繩文
22	20	32	VD 2	壺	SK17	口縁部~	部~頸部無文、 外面部炭化物	60	35	II 2 D	深鉢	SK258	口縁部	平口縁、条筋文 (波状)、袖孔	
23	20	32	V A 3	浅鉢	SK17	口縁部~	平口縁、地文繩 文、外面部炭化 物	61	36	III 2 a	鉢?	SK258	体部	羊齒調文	
24	20	33	V A 4	深鉢	SK17	体部	結節繩文	62	36	II 1 ?	深鉢?	SK258	体部	平行沈縫	
25	20	33	III 3 Cb ?	深鉢	SK17	口縁部~	平行沈線、内外 体部	63	36	III 3 E b	深鉢	SK258	口縁部	口唇部削目、平 行沈縫	
26	21	33	II 1 E f 3	深鉢	SK17	口縁部~	波状口縁、帶状 文	64	22	37	VE	壺	SK260	頭部~体 頭部	頭部沈縫、 頭部沈縫、 無文
27	21	33	II 2 H	壺?	SK17	体部	磨消、宿(隆起 上)	65	37	II 1 B	深鉢?	SK262	口縁部	突起、摩滅	
28	21	33	II 1 a 1	深鉢?	SK17	体部	多条沈線(円状) B突起、上下交 互の凹凸文、底 部脚印(4)、内底 円形沈線	66	37	II 1 A	浅鉢	SK262	口縁部	平口縁、三角状 文?	
29	21	34	II 4 B a	浅鉢	SK17	ほぼ完形		67	22	37	II 1 D	深鉢	SK265	口縁部	把手(渦)
30	65	IV C	壺	SK17	口縁部~	平口縁、菱形文	68	37	I 3 B	深鉢	SK265	口縁部	平口縁、陰文		
31	33	I 3 ?	深鉢	SK36	体部	瘤帶文									
32	33	I 3 ?	深鉢	SK36	体部	瘤帶文									
33	33	II 1 d 1	深鉢	SK36	体部	瘤帶+側突									
34	33	II 1 b 1	鉢	SK36	体部	瘤帶									
35	33	II 1 c	鉢	SK36	体部	連続網突									
36	33	II 1 f 4	小型壺	SK36	体部	带状文									
37	33	II 2 a ?	浅鉢	SK36	口縁部	平口縁、羊齒状 文?									

69	37	I 3	深跡	SK265	体部	隆帯文		
70	37	I 3 B	浅跡	SK265	口縁部	平口縁、隆起線		
71	37	I 3 ?	深跡	SK265	体部	隆帯文(方形)		
72	37	I 3	深跡	SK265	体部	隆帯文		
73	37	I 3 ?	深跡	SK265	体部	隆帯文		
74	38	II 1 c	深跡	SK265	体部	連続刺突		
75	38	II 1 c	深跡	SK265	体部	連続刺突		
76	38	II 1Ab1	深跡	SK265	口縁部	平口縁、隆帯		
77	38	II 2 bii	深跡	SK265	口縁部	瘤状突起、不明		
78	38	II 1 A a	鉢	SK265	口縁部	瘤状		
79	38	II 3 A b	鉢	SK265	口縁部	平行沈継		
80	38	V A 8 ?	浅跡	SK265	体部	頭部無文		
81	22	38	II 3 B a	深跡	SK266	口縁部～口唇部刻目、平口縁	行羅(刺突)	
82	22	38	II 2 D	深跡	SK266	口縁部	平口縁、条綱文	
83	22	38	V A 4	深跡	SK266	口縁部	平口縁、羽状綱文	
84	22	38	V D 1	壺	SK266	口縁部～平口縁、口縁部～	体部	
85	23	38	V A 1	深跡	SK266	口縁部	平口縁、O段	
86	38	II 3 E b	浅跡	SK266	口縁部～A突起、平行沈継			
87	38	II 3 A a	浅跡	SK266	口縁部～	平口縁、平行沈継		
88	39	II 2	深跡	SK268	体部	入組文(櫛形)		
89	39	II 3 Eac	浅跡	SK268	口縁部～	A突起、平行沈継		
90	23	39	II 2 B a	浅跡	SK269	口縁部～	B突起、羊歛状、平行沈継間刺、体部(不明區画)、内面炭化物	
91	23	39	I 3 A	深跡	SK269	体部	瘤状口縁？、隆起沈継文	
92	23	39	I 1 b	深跡	SK270	口縁部	不明曲綫	
93	23	39	I 1 D	深跡？	SK271	口縁部？	瘤状突起(S字状孔隙起源)	
94	23	39	I 1 B	浅跡？	SK271	口縁部	山形突起	
95	39	I 3 B	深跡	SK271	口縁部	平口縁、隆起線		
96	39	I 1 B	深跡	SK271	口縁部	瘤状、微隆等		
97	39	I 1 ?	鉢	SK271	体部	入組文		
98	39	I 1 c	浅跡？	SK271	体部	連続刺突		
99	40	I 3 B ?	深跡	SK271	口縁部～	平口縁、口縁部		
100	23	40	II 1 Ab	深跡	SK275	体部	瘤状口縁、玉抱文？	
101	23	40	V H	深跡	SK275	体部～底	底部(隔壁圧痕)	
102	23	7	V A 7	深跡	SK276	口縁(小波状)		
103	23	40	II 1 A c	深跡	SK276	口縁部～	波状口縁、口縁部	
104	23	40	II 3 Cbc	且	SK276	口縁部	B突起、平行沈継、入組状文	
105	41	I 2	深跡	SK276	口縁部～	隆帯文(S字？)		
106	41	I 3	深跡	SK276	体部	隆帯文(玉造)		
107	41	I 3 B ?	深跡	SK276	口縁部～	沈継区画(方形)		
108	41	I 3 A	浅跡	SK276	口縁部～	平口縁、隆起線		
109	41	I 1 ?	深跡	SK276	体部	隆帯文		
110	41	I 3	深跡	SK276	体部	隆帯文		
111	41	I 3 ?	深跡	SK276	体部	隆帯文		
112	41	I 3	深跡	SK276	底部			
113	41	I 3 ?	深跡	SK276	体部	隆帯文		
114	41	I 3 ?	浅跡？	SK276	体部	隆帯文		
115	41	I 3 ?	浅跡	SK276	口縁部	平口縁、隆帯文		
116	41	II 1 a 1	深跡	SK276	体部	多条沈継		
117	41	II 1 a 1	深跡	SK276	体部	多条沈継		
118	41	II 1 d 1	深跡	SK276	体部	内面溝溝十刺突		
119	41	II 1 a 2	深跡	SK276	体部	外側円文		
120	41	II 1 b 1	深跡？	SK276	体部	口縁部前面に突起		
121	41	II 1	深跡	SK276	体部	不明曲綫		
122	41	II 1 a 2	深跡	SK276	体部	多条沈継(禹文?)		
123	41	II 1 a 2	深跡？	SK276	体部	多条沈継(禹文?)		
124	41	II 1 a 1	深跡	SK276	体部	多条沈継		
125	41	II 1 a 1 ?	深跡？	SK276	体部	多条沈継		
126	40	II 1 a 1	深跡	SK276	体部	多条沈継		
127	42	III 1 B c	深跡	SK276	口縁部～	突起、入組文		
128	42	II 2 ?	鉢	SK276	口縁部～	体部(入組文)		
129	42	III 1 ?	鉢	SK276	体部	入組文		
130	42	II 2 A	深跡	SK276	口縁部～	口唇部削目、帶狀文		
131	42	II 1 A e	深跡	SK276	口縁部～	平口縁、方形区画		
132	42	I 3	鉢	SK276	体部	内面刺突		
133	42	II 1 d 1	深跡	SK276	口縁部～	平口縁、Sの字		
134	42	II 1 e	鉢	SK276	口縁部	状態隆形		
135	42	II 1 e	鉢	SK276	体部	連続刺突、内面炭化物		
136	42	II 1 e	鉢	SK276	体部	連続刺突		
137	42	II 1 d 1	鉢	SK276	体部	隆帯+刺突		
138	42	II 2 ?	深跡	SK276	体部	沈継+粘土貼付(?)、刺突		
139	42	III 1 B	深跡	SK276	口縁部～	突起、瘤状文		
140	42	III 1 B b	深跡	SK276	口縁部	突起、三叉文？		
141	42	II 1 B ?	深跡	SK276	口縁部	突起、内外面無文		
142	42	III 1 B	深跡	SK276	口縁部	突起		
143	42	III 1 B	深跡	SK276	口縁部	突起		
144	42	V B 2 ?	不明	SK276	体部	輪伏隆帶、全面磨損、孔跡有		
145	42	II 2 B	深跡	SK276	口縁部	平口縁、连弧状区画？、舟状文(体部下位まで)		
146	43	III 1 B	深跡	SK276	口縁部～	突起		
147	43	III 1 A b	深跡	SK276	口縁部	波状口縁、王造三叉文		

148	43	II 2 B a	浅鉢	SK276	口縁部~B突起、半曲状文		187	45	II 1 B	深鉢	SK280	口縁部~山形突起+連弧文	
149	43	V	深鉢	SK276	体部	沈底	188	45	II 1 Bd?	深鉢	SK280	口縁部~口縁部無文、陳体部	
150	43	V	鉢	SK276	体部	沈底	189	45	II 1 Ad2	深鉢	SK280	口縁部~平口縁、口縫部	
151	43	V	鉢	SK276	体部	粘滑細文	190	45	II 1 a?	深鉢	SK280	口縁部~平口縁、不明曲線	
152	43	II 1 A e	浅鉢	SK276	口縁部~	平行沈縫内刺突、体部連弧文							
153	43	II 1 g	深鉢	SK279	体部	沈底、磨消	191	45	II 1	深鉢	SK280	体部	不明曲線
154	43	II 1 b	深鉢	SK279	体部	隆帶文	192	45	II 1 a 1	深鉢	SK280	体部	多条沈縫
155	43	1 1 ?	深鉢	SK279	体部	沈底、磨消	193	45	II 1 a 2	深鉢	SK280	体部	不明曲線
156	43	1 3 ?	深鉢	SK279	体部	隆帶文	194	45	II 1 a 2	深鉢	SK280	体部	沈縫+網刺、痕狀文
157	43	1 3 ?	深鉢	SK279	体部	沈底(稍円状?)							
158	43	II 1 C e	深鉢	SK279	口縁部	圓狀突起、方形区间内刺突	195	44	II 1 B	深鉢	SK280	口縁部	山形突起+盲孔、内部焼化物
159	43	II 1 A ?	深鉢	SK279	口縁部	平口縁?、則日、不明曲線	196	44	II 1 B	浅鉢	SK280	口縁部	山形突起
160	43	II 1 ?	深鉢	SK279	体部	不明曲線	197	45	II E f 3	浅鉢?	SK280	口縫部	波状口後+平行沈縫間刻日、道彌文?、磨消
161	43	II 2 C	深鉢	SK279	体部	削状文?(則日)	198	45	II 1 a 1	深鉢?	SK280	体部	多条沈縫
162	43	II 1 d 2	深鉢	SK279	体部	隆帶+刻目	199	45	II 2	深鉢	SK280	口縫部	口縫部刻日、連弧文
163	43	II 2 C	煮	SK279	頭部	削状文	200	45	III 1 ?	深鉢	SK280	口縫部~	平口縫、口縫部無文
164	43	II 2 C	深鉢	SK279	体部	削状文	201	45	II 2	深鉢	SK280	体部	沈底(彫形?)
165	43	II 2 A iii	鉢	SK279	体部	隆縫+沈縫+粘瘤(刻日)、連弧文	202	45	II 1 f 1	深鉢	SK280	体部	入組文
166	43	II 2 a ?	深鉢?	SK279	口縫部	突起、外面刺離	203	45	II 2 a	深鉢	SK280	口縫部	突起、磨消
167	43	II 1 c	鉢	SK279	体部	入組文	204	45	II 2 a	深鉢	SK280	口縫部	突起
168	45	II 2 B	深鉢	SK279	口縫部	平口縫、底部木平口縫、底部木	205	45	III 1 C ?	深鉢?	SK280	口縫部	珊瑚状突起?
169	24	44	V A 3	深鉢	SK280	ほぼ完形 瘤病	206	45	II 1 e	深鉢?	SK280	体部	帯状文、刺突
170	24	43	II 1 B c	深鉢	SK280	口縫部~突起、体部上半入組文(削突)、体部下半無文	207	45	II 2 A	深鉢	SK280	口縫部	帯状文(則日)
171	24	43	V B 2	小型鉢	SK280	ほぼ完形 台付	208	45	II 2 B a	深鉢	SK280	口縫部	突起、帶状文(則日)
172	24	44	V F	ミニーナー ア且?	SK280	ほぼ完形手捏ね、ミガキ	209	45	II 2 ii	深鉢	SK280	体部	沈縫+粘瘤
173	24	44	V B 1	深鉢	SK280	口縫部~平口縫、無文	210	45	II 2 D	深鉢?	SK280	体部	条縞文
174	24	44	II 1 B b	浅鉢	SK280	ほぼ完形 瘤、玉泡三叉文、台付	211	46	III 1 B b	深鉢	SK280	口縫部	突起、三叉文
175	44	1 3	深鉢	SK280	体部	隆帶文	212	46	III 1 B c	深鉢	SK280	口縫部	突起、入組文、内部焼化物
176	44	1 3 ?	深鉢	SK280	口縫部	平口縫、隆帶文(方形?)	213	46	III 1 b	深鉢	SK280	口縫部	入組文?, 三叉文
177	44	1 3	深鉢	SK280	体部	隆帶文(削突?)	214	46	III 1 c	茎?	SK280	体部	入組文(削突)
178	44	1 3	深鉢	SK280	体部	隆帶文、内部焼化物	215	46	III 1 c	茎?	SK280	体部	入組文
179	44	1 3	深鉢	SK280	口縫部	平口縫、隆帶文(削突)	216	46	III 1 c	茎?	SK280	体部	入組文
180	44	1 3 A	深鉢	SK280	体部	隆起瘤	217	46	III 1 D b	深鉢?	SK280	体部	平口縫、平行沈縫、三叉文、摩滅
181	44	1 3 B	深鉢	SK280	口縫部	平口縫、隆帶文(方形?)	218	46	III 1 B b	深鉢	SK280	口縫部	突起、三叉文
182	44	1 3 B	深鉢	SK280	口縫部	平口縫、隆帶文(削文?)	219	46	III 1 c	茎	SK280	体部	入組文
183	44	1 3 B	浅鉢	SK280	口縫部~	平口縫、隆帶文	220	46	III 1 A b	鉢	SK280	口縫部	波状口縫、三叉文
184	44	1 3 B	深鉢	SK280	体部	平口縫、隆帶文	221	46	III 1 A b	深鉢	SK280	口縫部~	波状口縫、王泡三叉文、内部焼化物
185	44	1 3 B	深鉢	SK280	口縫部~	平口縫、隆帶文	222	46	III 1 A b	鉢	SK280	口縫部~	波状口縫、王泡三叉文
186	44	1 3 B	深鉢	SK280	口縫部	平口縫、隆帶文(削凹?)	223	46	III 1 ?	鉢	SK280	体部	体部上平浮き彫り状文?
							224	46	V 1	台付鉢	SK280	台部	無文
							225	46	III 3 B c	茎?	SK280	口縫部	口縫部刻日、平行沈縫、体部連弧状文
							226	46	VD 1	茎	SK280	口縫部~	平口縫、平行沈縫

227	46	II Aa1	注口浅 鉢	SK280	口縁部~ 体部	口縁部下注口 体部横・底歯々 リット		268	49	II 1Ab1	深鉢	SP101	口縁部	平口縁・弧状 帯		
228	46	II 2 a 1	深鉢	SK280	体部	横位沈締下粘瘤		269	49	II 1 a 1	深鉢	SP101	体部	多条沈締		
229	46	II 3 B	深鉢	SK283	口縁部~ 体部	頭部隆帝文		270	49	II 1 g ?	深鉢?	SP101	体部	不明沈締		
230	46	II 3 b	浅鉢	SK283	口縁部	珠帝文		271	49	II 1 f 4	鉢	SP101	体部	帯状文		
231	46	II 2 ~ 3	深鉢	SK283	口縁部	縦帝文		272	48	III 1 A	深鉢	SP245	口縁部~	波状口縁・口縁 体部		
232	47	II 1 a 1	添鉢	SK283	体部	多条沈締		273	48	III 3 C a c	浅鉢?	SP245	口縁部	B突起・刻目、 雲形文?		
233	47	II 1 a 1	浅鉢?	SK283	体部	尚文		274	48	III 2 A a	鉢	SP245	口縁部	口筋部刻目・羊 齒狀文		
234	47	II 1 ?	深鉢	SK283	口縁部	不明曲綱		275	48	III 1 c ?	鉢	SP245	口縁部	入組文?		
235	47	II 1 a 2	深鉢	SK283	体部	進粘凹文		276	25	49	II 2	深鉢	SP249	体部	格子文	
236	47	II 1 a 1	深鉢	SK283	体部	磨消+三角文?		277	25	49	III 1 A c	深鉢?	SP249	口縁部	波狀口縁・入組 文	
237	47	II 1 c	深鉢?	SK283	体部	連続刺突		278	25	49	III 1 A b	深鉢	SP249	口縁部	口縫(小波状)・ 玉泡三叉文・ 内面焼化物	
238	47	II 1 c	深鉢?	SK283	体部	隆帝・明突		279	25	49	II 2 ii	壺?	SP249	体部	B突起?・羊齒 状文	
239	47	II 1 d 1	深鉢?	SK283	体部	斜突付彌帶		280	25	49	III 2 B a	深鉢?	SP249	口縁部	B突起?・羊齒 状文	
240	47	II 1 e	深鉢?	SK283	体部	刺突		281	25	49	III 2 B a	深鉢?	SP249	口縁部	B突起・羊齒 状文	
241	47	II 1 c	深鉢?	SK283	体部	連続刺突		282	25	50	III 2 a ?	深鉢?	SP249	体部	羊齒状文?	
242	47	II 2	深鉢?	SK283	体部	肝状攝摺+磨消		283	25	50	III 1 ?	深鉢	SP249	口縁部	突起・入組文?	
243	47	III 1 C	深鉢	SK283	口縁部	珊瑚状突起・荷 状文(人組?)		284	25	50	II 2 ii	壺?	SP249	体部	連続状區面+貼 瘤	
244	45	III 1 c	深鉢	SK276	体部	入組文		285	25	50	II 1 b 2	深鉢?	SP249	体部	隆帝	
245	47	II 3 B	深鉢	SK285	体部	区画比縫		286	25	50	II 1 b 1	深鉢	SP249	口縁部	隆起縫(精円?)	
246	47	II 1	浅鉢	SK285	口縁部	圓卷文・精円区画 文		287	25	50	III 1 C c	深鉢	SP249	口縁部	突起・入組文・ 内面焼化物	
247	47	II 3	深鉢	SK285	体部	区画比縫		288	25	50	III 1 A	深鉢	SP249	口縁部	突起・口縁部 文・沈縫	
248	47	V D 1	壺	SK285	口縁部	平口縁・無文		289	26	50	V A 4	深鉢	SP249	体部	体部下凹調査	
249	47	II 1 g	鉢?	SK285	体部	入組文?		290	26	49	VG	深鉢	SP249	底部	外面・底部無文	
250	47	II 1 a 1	深鉢	SK285	体部	多条沈締		291	48	II 2	深鉢	SP249	体部	格子状条縫		
251	47	II 1 ?	壺	SK285	体部	形状文		292	48	II 1 ?	深鉢	SP249	体部	帯状文		
252	25	7	II 1 A c	深鉢	SK286	ほぼ元形 文・体部縫文		293	50	II 1 h	深鉢	SP255	体部	曲線文+連続刺 突		
253	48	II 3 ?	深鉢	SP20	口縁部	隆起縫		294	50	II 2 iii	深鉢?	SP255	体部	點瘤+聚星貝目		
254	35	II 1 C a 1	深鉢	SP10	口縁部~ 体部	壘起・部~体部上平無 文・下位多条沈 縫		295	50	III 4 b	台付鉢	SP255	台部	平行沈縫・斜状 沈縫		
255	36	II 3 c	浅鉢	SP96	口縁部~ 体部	壘起?・誤形文		296	50	II 3 ?	深鉢	SP256	体部	區画沈縫		
256	35	II 1 C b 1	深鉢	SP93	口縁部	瘤状突起・隆帝		297	26	49	V A 3	深鉢	SP257	口縁部~	平口縁・粘瘤圓 文	
257	25	48	V A 3	深鉢	SP92	口縁部	口縁部~ 口縫部		298	35	II 2 A ii	鉢	SP277	口縁部	平口縁・平行沈 縫+貼瘤	
258	25	48	V A 1	深鉢	SP94	口縁部	平口縁・結瘤縫 文		299	36	III 2 a	浅鉢	SP277	体部	羊齒狀文	
259	25	48	IIIE 1/2	浅鉢	SP94	口縁部	瘤状口縁・壘 状文+ S字状沈縫		300	36	III 3 B c	浅鉢	SP277	口縁部	口部脣割目・雲 形文	
260	47	II 2	鉢?	SP94	体部	連伍文?・A II 形 式		301	26	50	III 3 b	深鉢?	SP286	体部	平行沈縫	
261	47	II 1 B b 1	深鉢	SP94	口縁部	山形突起?・履 位隆帝		302	26	50	III 2 B a	浅鉢	SP286	口縁部~	B突起・羊齒 状文・内面外焼化 物	
262	47	II 2 B a	深鉢	SP94	口縁部~ 体部	B突起・珠狀文・ 内面焼化物		303	26	50	III 1 b	深鉢	SP286	体部	三叉文	
263	25	48	V A 6	深鉢	SP97	口縁部~ 体部	波状口縁・口縫 部無文		304	48	III 1 c	深鉢	SP288	体部	入組文	
264	25	48	VG	深鉢	SP101	口縁部~ 体部	底部~底 体部下半無文・ 底部無文		305	26	50	III 3 A a?	深鉢?	SX14	体部	口縫部~ 平行沈縫間刺突
265	49	II Aa1	浅鉢	SP101	口縁部	山形突起?・+丁 字孔		306	26	51	V A 3	深鉢?	SX14	体部	結瘤縫文・内面 焼化物	
266	49	II 1 B	深鉢?	SP101	口縁部	山形突起?・+丁 字孔		307	26	51	II 1 E	浅鉢?	SX14	口縁部	突起・沈縫	

308	26	51	V H	深鉢	SX14	体部～底 部	底部無文	R P 39						
309	51	II 1 b 1	深鉢	SX14	体部	隆帯			346	27	7	III 3 B b 鉢		
310	51	II 1 b 2	深鉢	SX14	体部	隆帯			SX29	口縁部完形		口唇部割目、平行 沈線、底部無文、 内外面炭化物、(C 1)		
311	51	II 1 a 1	深鉢	SX14	体部	多条沈綱				347	27	53	V A 4 深鉢	
						平口縁、棒状貼 瘤+帯状文			SX29	口縁部～平口縁、斜稜開 体部				
312	51	II 2 A 1	深鉢	SX14	口縁部		平口縁、棒状貼 瘤+帯状文			348	27	53	13～II 1 深鉢	
313	51	II 2 A i	深鉢	SX14	口縁部		平口縁、棒状貼 瘤+帯状文		SX29	体部		隆起瘤・穿孔、 磨消、繊維帶		
314	51	II 1 A a 3	深鉢	SX14	口縁部		平口縁、彫形文、 削状文			349	53	1 2	深鉢	
315	51	II 1 A f 3	深鉢	SX14	口縁部		平口縁、横位平 行沈文帯		SX29	口縁部		平口縁、渾文		
316	51	II 2 ii	深鉢？	SX14	体部		幾何学沈綱+貼 瘤			350	53	1 3 ?	深鉢	
317	51	II 2 C	壺	SX14	体部		帯状文		SX29	体部		隆帶文(四角)		
318	51	II 2 ii	壺	SX14	頭部		鼓瘤+平行隆沈 縁			351	53	1 3 B ?	深鉢	
319	52	II 1 h	深鉢	SX14	体部		円文+連続刺突		SX29	口縁部		隆帶文(四角)		
320	52	II 2 A a	鉢	SX14	口縁部～ 体部		口唇部割目、革 面状文、内外面 炭化物			352	53	1 3 B	深鉢	
321	52	II 3 a	鉢	SX14	口縁部～	平行沈綱+刻目、 革面		SX29	口縁部		口縁部 隆帶文			
322	52	II 2 a	浅鉢？	SX14	体部		口唇部割目、革 面状文			353	53	1 3 ?	深鉢	
323	52	II 3 B a	鉢	SX14	口縁部～ 体部	平行沈綱+刻目、 内外面炭化物		SX29	体部		隆帶文(長方形)			
324	52	II 3 A w	浅鉢？	SX14	口縁部		平口縁、平行沈 縁+刻目			354	53	1 3 ?	深鉢	
325	52	II 1 b ?	深鉢	SX14	体部		三叉文？		SX29	体部		隆帶文(四角)		
326	52	II 1 ?	壺？	SX14	体部		平行沈綱+斜状 刺突			355	53	1 3	深鉢	
327	27	51	II ?	深鉢	SX16	体部	体部下位沈綱、 結節彫文		SX29	体部		隆帶文		
328	27	52	V C	深鉢	SX16	体部	結節彫文、ケツリ			356	53	II 1 d 2	浅鉢？	
329	52	1 3 B ?	深鉢	SX16	口縁部～		口唇部割目、革 面状文		SX29	体部		平行沈綱+貼瘤 +竹管割目		
330	52	II 1 a 1	深鉢	SX16	体部		多条沈綱			361	53	II 1 A b 1	深鉢	
331	52	II 1 ?	深鉢	SX16	体部		模様側面直痕		SX29	口縁部		円文+連続刺突		
332	52	II 1 c	深鉢？	SX16	体部		連続刺突			362	53	II 1 b 1	浅鉢？	
333	52	II 1 c ?	深鉢	SX16	体部		連続刺突(半載竹 管)、区画沈綱		SX29	口縁部		不明起反		
334	52	II 3 a ?	浅鉢	SX16	口縁部		平行沈綱+刻目			363	53	II 1 a 1	深鉢？	
335	52	1 3 ?	深鉢	SX16	体部		区画沈綱		SX29	体部		多条沈綱		
336	52	II 1 b 1	鉢	SX18	口縁部～					364	53	II 1 d 2	浅鉢？	
337	52	II 1 A ?	深鉢	SX18	口縁部		隆位強帯		SX29	体部		平口縁、隆帶内 面炭化物		
						平口縁、横位沈 縲				365	53	II 2	壺？	
								SX29	口縁部		平口縁、沈綱間 格子状文			
										366	53	II 1 c	深鉢？	
								SX29	体部		凹文、連続刺突			
										367	53	II 1 i	深鉢？	
								SX29	体部		羽状彫文、内面 横位ナデ			
										368	54	II 1 B b 1	深鉢	
								SX29	口縁部		山形突起、縱位 隆帯			
										369	54	II 1 B b 1	深鉢	
								SX29	口縁部		山形突起、縱位 隆帯			
										370	54	II 1 B	深鉢	
								SX29	口縁部		山形突起、口縁 部無文			
										371	54	II 1 B	深鉢	
								SX29	口縁部		山形突起、口縁 部無文			
										372	54	II 1 ?	深鉢？	
								SX29	口縁部		区画沈綱(虹状)			
										373	54	II 1 E c	深鉢	
								SX29	口縁部		波状口縁、通縫 刺突			
										374	54	II 1 b 1	深鉢	
								SX29	体部		区画沈綱			
										375	54	1 3 ?	深鉢	
								SX29	体部		区画沈綱			
										376	54	II 1 E f 1	浅鉢	
								SX29	口縁部～		口縁部～ 部隆帯内面文、 多条沈綱(人面)、 内外炭化物			
										377	54	II 1 b 1	浅鉢	
								SX29	体部		口縁部～ 不明隆起			
										378	54	II 1 a 1	深鉢	
								SX29	体部		多条沈綱			
										379	54	II 1 a 1	深鉢	
								SX29	体部		多条沈綱			
										380	54	III 2 B a	浅鉢	
								SX29	口縁部～		B突起+羊齒状 文			
										381	54	III 2 B a	深鉢？	
								SX29	口縁部		B突起、羊齒状 文			
										382	54	V E	壺	
								SX29	体部		無文			
										383	27	54	III 2 B a	深鉢？
								SX30	口縁部～		B突起、口縁部～ 体部上位(羊齒状 文)			
										384	27	54	III 1 b	深鉢
								SX30	体部		三叉文、結節彫 文			

385	28	55	V	深鉢	SX30	体部	地文付加条?	422	36	III 3 E a	臺	SX34	口縁部	A突起、口脣部 刻日、平行沈線 間刻日	
386	27	55	II 2 B	深鉢?	SX30	口縁部	B突起、橋状突 起、平行沈線	423	29	56	V A 5	深鉢	SX39	口縁部	平口縁、口縁部 無文
387	27	7	II 2 A	且	SX30	ほぼ完形	口縁部~体部上 位(ミガキ~平行 沈線)、底部円形 にミガキに入る	424	29	56	V H	深鉢	SX39	体部~底	底部無文、半状 部
388	55	1 3 ?	浅鉢	SX30	体部	彌帶文	425	56	1 3 ?	深鉢	SX39	体部	彌帶文		
389	55	1 3 ?	深鉢	SX30	体部	彌帶文	426	56	1 3 ?	深鉢	SX39	体部	彌帶文		
390	55	II 1 B	深鉢?	SX30	口縁部	山形突起+円 孔+盲孔	427	56	II 1 d 1	深鉢?	SX39	体部	刺突、不明曲線		
391	55	II 1 d 1	深鉢?	SX30	体部	彌帶沈線+削突 起	428	56	V A 5	鉢	SX39	頭部~体 部	頭部無文、沈線		
392	55	II 1 a 1	深鉢	SX30	体部	多条沈線(横円)	429	56	II 1 f 3	深鉢	SX39	口縁部~ 体部	細い帶状文		
393	55	II 1 c	深鉢	SX30	体部	沈線間開文	430	56	III 2 B a	深鉢	SX39	口縁部~	B突起、羊齒状 文		
394	55	II 1 a	浅鉢	SX30	口縁部~ 体部	彌帶~ 彌帶	431	56	III 1 A	深鉢	SX39	口縁部~ 体部	平行沈線+彌帶 沈線		
395	55	II 3 c	浅鉢?	SX30	体部	彌帶文	432	56	III 3 a	鉢	SX39	体部	平行沈線+彌帶 刺突		
396	55	II 1	鉢	SX30	体部	入組文?	433	56	III 2 A a	浅鉢	SX39	口縁部	平口縁、羊齒状 文		
397	55	II 1 A c?	深鉢	SX30	口縁部	彌帶口縁、入組 文?	434	56	II 2 C ?	深鉢	SX110	体部	平行沈線間刻目		
398	55	II 4 A c	深鉢	SX30	口縁部	平口縁、弧状沈 線	435	56	I 3 A	浅鉢	SX115	口縁部	區面沈線		
399	55	V J	壺	SX30	底部	円形上底風	436	56	1 3 A	浅鉢	SX115	口縁部~	平口縁、残起線 (横円形?)、R P 21		
400	55	II 2 A	浅鉢	SX30	口縁部~ 体部	口縁~頭部無文	437	56	I 3 A	浅鉢	SX115	体部	彌帶文削除形?		
401	28	55	II 1 B ?	壺	SX67	口縁部	突起、口縁部沈 線間格子文	438	56	1 2	深鉢	SX115	口縁部	平口縁、残起線 (横円形?)、R P 20	
402	28	55	V A 3	深鉢	SX67	体部	彌帶部、結節 縫文	439	56	I 3	深鉢	SX115	体部	彌帶文	
403	28	55	II 2 A b	深鉢	SX67	口縁部	彌帶無文、平行 沈線間入組文	440	56	1 3	深鉢	SX115	体部	彌帶文、R P 19	
404	56	II 1 C	深鉢	SX67	口縁部~ 体部	彌狀突起、彌 帶孔、内面炭化物	441	56	1 3	深鉢	SX115	体部	平口縁、残起線、 R P 17		
405	56	II 1 B	深鉢	SX67	口縁部~ 体部	山形突起+円 孔+彌帶	442	56	1 3	深鉢	SX115	体部	彌帶文		
406	56	II 1 B a 1	深鉢?	SX67	口縁部	山形突起+彌頂 部盲孔、彌帶沈 線	443	56	II 1 B b 1	深鉢	SX115	口縁部	山形突起+彌頂 部盲孔、彌帶地位 沈線		
407	56	II 1 B	鉢?	SX67	口縁部~	山形突起+盲孔、 頭部沈線	444	56	II 1 d 1	深鉢	SX115	体部	I字状孔沈線起 頭文		
408	56	II 1 B ?	深鉢	SX67	口縁部	突起?	445	56	II 1 a 1	深鉢?	SX115	体部	彌帶文		
409	56	II 1 a 1	深鉢?	SX67	体部	内文	446	56	II 1 A c	浅鉢?	SX115	口縁部	平口縁、速起綱 突		
410	56	II 1 a 1	深鉢	SX67	体部	多条沈線	447	56	II 1 c	鉢?	SX115	体部	跳带、速連刺突		
411	56	II 1 a 2	深鉢	SX67	体部	内文	448	56	II 1 c	鉢?	SX115	体部	速帶、速連刺突		
412	56	II 1 a 2	深鉢	SX67	体部	彌狀文、内文	449	56	II 1 f 2	深鉢	SX115	体部	彌帶、速連刺突		
413	56	II 1 a 1	浅鉢	SX67	体部	体部上半多条沈 線	450	56	II 2 i	深鉢	SX115	口縁部	平口縁、挿状竪 疵+平行沈線		
414	56	II 1	深鉢	SX67	体部	平行沈線	451	56	II 2 a ii	深鉢	SX115	口縁部	突起、平行沈線+ 貼瘤		
415	56	II 3 a	浅鉢	SX67	体部	平行沈線+削突	452	56	II 2 A i	壺	SX115	頭部~体 部	体部上平行沈線 貼瘤+平行沈線+ 刻日		
416	56	IV	壺(四)	SX67	口縁部	平口縁、捲狀文	453	56	II 2 b	深鉢	SX115	口縁部	突起+彌頂部盲 孔、三角、彌帶消		
417	56	II 2	鉢	SX67	体部	入組文	454	56	III 1 B	深鉢	SX115	口縁部~	突起、無文		
418	35	II 1 a 1	深鉢	SX72	体部	平行沈線+彌頂 部盲孔3、多条沈 線	455	56	I 3	深鉢	SX115	体部	彌帶文		
419	36	II 2 B a	浅鉢	SX72	口縁部	日突起、羊齒状 文	456	56	I 3	深鉢	SX115	体部	区面沈線		
420	36	II 1 c	浅鉢	SX81(幾 口縁部 乱)	体部	彌狀口縁、入組 文?	457	56	II 1 B	浅鉢	SX116	口縁部~	山形突起+円 孔+盲孔、彌頂 部盲孔		
421	35	II 2 ii	深鉢	SX84	体部	入組文+貼瘤、 内面炭化物							彌帶		

458	56	II Bd 1	深鉢	SX116	口縁部～ 体部	山形突起、外面 不明曲線、8の 字状輪形隆文		496	32	58	III 3 B a	浅鉢	SX267	口縁部～ 体部	口唇部割日、 平行沈線間刻目、 内面炭化物	
459	46	II 1 B	浅鉢	SX116	口縁部～ 体部	山形突起～円孔 口縁部斜切		497	32	58	V H	深鉢？	SX267	体部～底 鉢	口縁部 底帶内側突	
460	46	II 1 c	鉢？	SX116	体部	連続斜切		498	32	58	II 1 c	浅鉢	SX267	口縁部	底帶内側突	
461	46	II 1 f 1	壺？	SX116	体部	底輪間削突		499	58	1 3 ?		深鉢	SX267	体部	隆帶文	
462	46	II 1 E 1 3	深鉢	SX116	口縁部	波状口縁、三角 上平行沈線		500	58	1 3 ?		深鉢	SX267	体部	隆帶文	
463	46	II 1 B	深鉢？	SX116	口縁部	突起。口縁部無 文		501	58	1 3 ?		深鉢	SX267	体部	隆帶文	
464	46	II 1 ?	深鉢	SX116	体部	不明曲線		502	58	1 3 ?		深鉢？	SX267	体部	隆帶文	
465	46	II 2 B	深鉢	SX116	口縁部	平行沈線間刻目		503	58	II 1 B b 1	浅鉢	SX267	口縁部～ 体部	山形突起、不明 沈線		
466	46	II 2 C	壺？	SX116	口縁部	平行沈線間刻目、 体部上半不明沈 線+溜消		504	58	II 1 A f 4	浅鉢	SX267	口縁部～ 体部	平口縁、平行沈 線+下凹文		
467	46	II 2 a	深鉢	SX116	口縁部	突起		505	58	II 1 B b 1	深鉢	SX267	口縁部～ 体部	山形突起、龜何 学文+廢消		
468	57	II 1 f 1	深鉢	SX116	体部	沈線間斜削突突 浅鉢？		506	58	IV C	壺	SX267	頭部～体 部	体部上半沈線		
469	57	II 1	浅鉢	SX116	体部	沈線間斜削突突 浅鉢(位内凹)		507	58	II 1 c	鉢？	SX267	体部	連続斜切		
470	57	II 1	深鉢	SX116	口縁部～ 体部	頭部入組文？		508	58	III 3 A c	浅鉢	SX267	口縁部～ 体部	口縁部～ 平行沈線		
471	57	II 1 B	深鉢	SX116	口縁部	突起。体部隆帶		509	58	III 2 a ?	浅鉢？	SX267	体部	半圓狀文？。体 部下位無文		
472	57	II 2 D	有孔小 形鉢	SX116	1/3個平口縁、底部多 孔	1/3個平口縁。底部多 孔		510	58	III 2 A a	浅鉢	SX267	口縁部	口唇部胡日。半 曲状文		
473	57	II 1	台付鉢	SX116	合部	平行沈線		511	58	IV ?	浅鉢	SX267	口縁部	口唇部範文。平 行沈線		
474	57	VE	壺？	SX116	口縁部	口縁部構状		512	58	III 3 C	浅鉢	SX267	口縁部	B突起		
475	57	II 1 c	深鉢	SX116	体部	入組文		513	58	III 3 B b c	浅鉢	SX267	口縁部～ 体部	口縁部～突起。平行沈 線+雲形文		
476	57	III 2 Ab?	深鉢？	SX116	口縁部	平口縁。入組文？		514	58	III 4 ?	壺	SX267	口縁部	平行沈線		
477	57	II 2 A a	浅鉢	SX116	口縁部～ 体部	口縁部割日。革 面状文。内面炭化物		515	58	III 3 ?	深鉢？	SX267	口縁部	平口縁。		
478	59	IV C	筒形	SX116	頭部 面	コの字状化粧区 画		516	58	III 4 A a	鉢	SX267	口縁部	上向き の凹字文		
479	59	1 2	浅鉢	SX117	体部	隆帶文		517	58	III 4 A a	浅鉢	SX267	口縁部	平口縁。下向き の凹字文		
480	57	II 1 d 1	壺？	SX117	頭部	帶帯+削突。不 明沈線		518	32	58	II 2 D	深鉢	SX2007	体部	条線文	
481	57	II 1 b 1	深鉢	SX117	体部	不明沈線+削 消		519	58	1 3 ?	深鉢	SX2007	体部	陳滑文		
482	57	II 1 a 1	深鉢	SX117	体部	多条沈線		520	58	II 1 Bd 1	深鉢	SX2007	体部	I字状孔沈線文		
483	57	II 1 b 1	深鉢	SX117	体部	隆帶		521	58	II 1 b 1	深鉢？	SX2007	体部	隆滑		
484	57	II 1 h	浅鉢	SX117	口縁部	平行沈線+連続 削突		522	58	II 1 h	浅鉢？	SX2007	体部	口縁部～曲面文+連続削 突		
485	57	II 1 a 1	深鉢	SX117	体部	沈線		523	58	II 1 f 3	？	SX2007	体部	带状文		
486	36	III 1 E ?	浅鉢？	SX117	口縁部	平行口縁？。入組 文？		524	58	II 2 ii	鉢？	SX2007	体部	入組文？+貼嘴		
487	30	57	VB 1	深鉢	SX166	1/3割体 無文, RF32		525	58	II 2 ii	鉢	SX2007	体部	入組文+貼嘴		
488	30	57	1 3 B	深鉢	SX247	口縁部 面	波状口縁、面起		526	58	III 3 a	鉢	SX2007	体部	平行沈線+刻目	
489	30	57	II 3 a	浅鉢	SX247	口縁部～ 体部上位(平行沈 線+削突)		527	58	III 3 B b	鉢	SX2007	口縁部	口唇部胡日。平 行沈線		
490	30	57	1 1 a 1	鉢	SX247	体部	多条沈線(甲文?)		528	33	58	III 3 B a	深鉢	SD31	口縁部～ 体部	口唇部胡日。平 行沈線間刻目、 内面炭化物
491	30	57	1 1 f 3	深鉢	SX247	口縁部	状状文		529	33	58	III 1 B b	深鉢	SD31	口縁部	突起、三叉文
492	30	57	II 3 B b	浅鉢	SX247	口縁部～ 体部	口縁部割日？、 平行沈線		530	33	58	III 1 c	深鉢	SD31	体部	入組文
493	30	57	V A 8	深鉢	SX247	口縁部～ 体部	口縁(小波状)、 粘附圖文		531	33	58	III 1 b	深鉢	SD31	体部	三叉文
494	32	57	II 4 a	壺	SX267	体部	体部半位(平行沈 線+突起。上向 き凹字文)、外面 炭化物		532	33	59	V J	鉢	SD31	底部	円形切欠
495	32	57	II 1 A c	壺	SX267	口縁部～ 体部	口唇部割日、 口縁部～頸部無 文、体部連続削 突		533	59	II 1 Ab 1	深鉢	SD31	口縁部	口唇部斜削日、 内面横位沈線、 方形沈線区画	
								534	59	II 1 B b 1	深鉢	SD31	口縁部	山形突起、コの 字状沈線+粘附		
								535	59	III 3 a	浅鉢	SD31	口縁部	沈線間刻突		

536	59	II 1 b 1	浅鉢	SD31	体部	隆帯+肩曲部沈線		572	59	II 1 c	深鉢	SG287	体部	刺突、肩消、内面炭化物	
537	59	II 2 a ?	浅鉢	SD31	口縁部	半齒状文？		573	59	II 1 f 1	深鉢	SG287	体部	円文	
538	59	II 2 B a	浅鉢	SD31	口縁部	B突起。半齒状文		574	59	II 2 D	深鉢	SG287	体部	朱绘文	
539	59	II 3 B	浅鉢	SD31	口縁部	口唇部刻目、平行沈線		575	59	II 2 a	深鉢	SG287	口縁部	突起、口縁部刻目、三角沈線磨損	
540	59	II 3 B b	浅鉢	SD31	口縁部	口唇部刻目、平行沈線		576	59	II 2 a iii	深鉢	SG287	口縁部	突起、口縁部磨損、底部粗長線	
541	59	II 3 b ?	浅鉢	SD31	口縁部	突起、口唇部刻目、平行沈線		577	60	III 1 D b	深鉢	SG287	口縁部	平口縁	
542	59	II 2 B	浅鉢	SD31	口縁部	B突起、沈線		578	60	III 1 A b	深鉢	SG287	口縁部	波狀口縁？玉招三叉文	
543	59	II 1 c	浅鉢	SD31	体部	底部口縁、入組文		579	60	II 1 a 1	深鉢	SG287	口縁部	多条沈痕？	
544	59	IV A	壺？	SD31	体部	変形四字文		580	60	III 1 D b	浅鉢	SG287	口縁部	平口縁、玉招三叉文	
545	59	II 1 Aa 3	深鉢？	SD31	口縁部	圓口縁、口唇部刻文		581	60	III 3 B b	浅鉢	SG287	口縁部～体部	口唇部刻目、平行沈線	
546	33	61	V C	深鉢	SD187	体部～底内面調整(ケズリ)、局部無文、RP28		582	57	V C	深鉢	8-23G	体部	調文～瓶底ヘラナデ	
547	57	II 1 A f 3	鉢	SD187	口縁部	平口縁、帶状文		583	60	I 3	深鉢	17-10G	体部	隆带文	
548	36	V A 7	深鉢	SD187	口縁部	波狀口縁、口縁部無文、直下沈線		584	60	I 3	深鉢	17-10G	体部	隆带文	
549	36	V A 8	深鉢	SD187	口縁部	波狀口縁、口縁部無文		585	60	II 1 ?	深鉢	17-10G	体部	大堆帶	
550	59	II 4 A	浅鉢	SD187	口縁部～体部	平口縁+平行沈線+貼付、口唇部廣状		586	60	I 3	深鉢	17-10G	体部		
551	59	II 4 A	浅鉢？	SD187	口縁部	口縁部内部沈線、外面平行沈線		587	60	I 3	深鉢	17-10G	体部	隆带文(梢円状)	
552	59	II 4 A	浅鉢	SD187	口縁部	平口縁+平行沈線、RP31		588	60	I 3	深鉢	17-10G	体部	隆带文(梢円状)	
553	59	II 4 a	深鉢？	SD187	体部	上下対向の四字文(大崩入2)		589	60	I 3	深鉢	17-10G	体部	隆带文	
554	59	II 4 A a	浅鉢	SD187	口縁部	四字文？(大崩入2)、RP31		590	60	I 3	深鉢	17-10G	体部	隆带文	
555	59	V E	壺	SD187	颈部～体部	頸部～体部 外面部無文		591	60	I 3	深鉢	17-10G	体部	隆带文	
556	59	II 4 a	深鉢	SD235	口縁部	平行沈線(四字文？)		592	60	I 3	深鉢	17-10G	体部	隆带文	
557	36	V A 1	深鉢	SD236	体部	平口縁、闊文		593	60	I 3	深鉢	17-10G	体部	隆带文	
558	59	II 1 b 2	深鉢	SD241	体部	隆带文		594	60	I 3	深鉢	17-10G	体部	隆带文	
559	59	I 3 B	深鉢	SG287	口縁部～	帶帝文		595	60	I 3	深鉢	17-10G	体部	隆带文	
560	59	I 3 B	深鉢	SG287	体部	平口縁、隆带文		596	60	II 2 D	深鉢	17-10G	体部	条線文	
561	59	II 1 b 2	深鉢	SG287	体部	隆带文		597	60	II 2 D	深鉢	17-10G	体部	条線文、内面炭化物	
562	59	II 1 Aa 1	浅鉢？	SG287	口縁部	平口縁+削目、多刻線(削除的)		598	60	II 1 B b 1	深鉢	17-10G	口縁部	山形突起、梢円状隆起沈線	
563	59	II 1 a 2	深鉢	SG287	体部	底部沈線		599	60	II 1 c	鉢	17-10G	体部	連續刻突	
564	59	II 1 c	深鉢？	SG287	体部	刻突文		600	60	II 1 c	深鉢	17-10G	体部	連續刻突	
565	59	II 1 A f 2	浅鉢	SG287	口縁部	平口縁、逆旋刻突、沈線+削目		601	60	II 1 c ?	深鉢	17-10G	体部	斜削刻突、梢円形凹部	
566	59	II 1 A f 2	深鉢	SG287	口縁部	入組状平行沈線		602	60	II 1 a 2	深鉢	17-10G	体部	円文+刻豪文？	
567	59	I 2	鉢	SG287	体部	入組文		603	60	II 2	深鉢	17-10G	体部	格子文	
568	59	I 2 H	壺？	SG287	体部	半齒状文		604	60	III 1 B	深鉢	17-10G	口縁部	突起、單位条線	
569	59	II 1 Ab	深鉢	SG287	口縁部	底部沈線+貼付		605	60	II 2 a ii	深鉢	17-9~	口縁部	突起+貼付	
570	59	II 1 Ab	深鉢	SG287	口縁部	底部沈線+貼付		606	60	II 2 ii	鉢	17-10G	体部	入組文+貼附	
571	59	II 1 B b 1	浅鉢	SG287	口縁部	口縁部(入組文)		607	60	II 1 f 1	浅鉢	17-10G	体部	滿文、透底文	
					体部	半齒状文		608	60	III 1 B b	浅鉢？	17-10G	口縁部	突起、玉招三叉文	
					体部	刻突文		609	60	III 1 b	深鉢	17-10G	体部	三叉文	
					口縁部	平口縁、逆旋刻突、沈線+削目		610	60	III 1 ?	鉢	17-10G	口縁部	平口縁、横拉沈線	
					体部	入組状平行沈線		611	35	60	I 1	深鉢	20-4G	体部	沈線(透文)
					体部	半齒状文		612	35	60	III 2 a	浅鉢	20-4G	体部	半齒状文？
					口縁部	底部沈線+貼付		613	35	60	V H	深鉢	20-4G	体部	底部無文
					体部	底部沈線？		614	35	60	VG	深鉢	17-11G	体部	底部無文
					口縁部	底部沈線？		615	35	60	III 2 a b	浅鉢？	20-5G	口縁部(入組文)	口縁部(入組文)

616	60	I 1 d 1	深鉢	A区北	口縁部～山形突起+C字 体部 底座	多条沈綴		656	61	V A 5	鉢	A区北	口縁部	平口縁、口縁部 無文
617	60	I I a 1?	深鉢	A区北	体部			657	61	I 1 g	鉢?	A区北	体部	不明曲面内彫文、 磨消
618	60	I 1 b 2	深鉢	A区北	体部	麻帯		658	61	III 4 d	浅鉢	A区北	底部	底部無文、(大洞 A 2)
619	60	I 2 ii	鉢?	A区北	体部	粘瘤		659	61	IV B	壺?	A区北	体部	波状文?
620	60	I 2 ii	深鉢	A区北	口縁部	平口縁、沈綴十 粘瘤		660	61	IV C	壺?	A区北	体部	槽円形凸面
621	60	I 2 A ii	深鉢	A区北	体部	帶状文または單 行沈綴+貼瘤		661	61	IV C	壺?	A区北	体部	槽円形凸面
622	60	I 2 iii	深鉢?	A区北	体部	平行沈綴+貼瘤 (銀鏡刻目)		662	66	III 3 b?	浅鉢	A区北	口縁部	突起?、平行沈 綴
623	60	V	深鉢	A区北	口縁部	粗い沈綴		663	35	60	VG	深鉢	A区東壁	体部～底 部(輪物圧印)、 内外面焼物
624	60	IV A	鉢?	A区北	口縁部	平口縁、凹字文		664	35	61	VB 1	浅鉢	A区東壁	口縁部～無文、626と同 体部
625	60	III 3 C b?	深鉢	A区北	口縁部	B突起?、沈綴						体部上位無文、 体部中位平行沈 綴、下位 三角形文様等+變 凹字文		
626	60	VB 1	浅鉢	A区北	口縁部	横模沈綴、無文		665	35	61	VA	丸底鉢	A区東壁	体部～底 部(輪物圧印)、下位 輪開刻目、下位 三角形文様等+變 凹字文
627	60	II 3 b?	鉢?	A区北	口縁部	平行沈綴		666	35	61	VA 4	深鉢	A区西壁	口縁部～平口縁、粘瘤圓 文
628	60	II 3 B b	浅鉢	A区北	口縁部	口唇部刻目、平 行沈綴		667	61	I 1 b 2	深鉢	A区東壁	体部	平行沈綴+麻帯
629	60	II 3 B b	浅鉢	A区北	口縁部	口唇部刻目、平 行沈綴、外面燒 化物		668	58	I 3	深鉢	A区南	体部	麻帯文
630	60	II 3 A b	深鉢	A区北	口縁部	平口縁、平行沈 綴、外面燒化物		669	44	I 2	深鉢	XO	口縁部	渦文?(利照)
631	61	IV B	深鉢	A区北	体部	波状文?		670	36	58	VA 1	深鉢	XO	口縁部～平口縁、沈綴、 体部 口縁部無文
632	61	I 1 b 1	深鉢	A区北	体部	沈綴文		671	36	62	VG	深鉢	XO	底部(木葉痕)
633	61	IV?	深鉢	A区北	体部	平行沈綴		672	36	62	VH	深鉢	XO	底部(輪物圧印)
634	61	IV?	深鉢	A区北	体部	平行沈綴		673	36	62	VG	深鉢	XO	底部(輪物圧印)
635	61	II 4 A a	壺?	A区北	口縁部	平口縁、凹字文		674	36	62	VK	深鉢	XO	底部(輪物圧印)
636	61	II 4 B a	浅鉢	A区北	口縁部	突起、下向きの 凹字文		675	36	62	VH	深鉢	XO	底部 底部無文
637	61	II 4 A	浅鉢?	A区北	口縁部	平口縁、平行沈 綴		676	36	62	VH	深鉢	XO	底部 底部無文
638	61	I 1	浅鉢?	A区北	口縁部	口唇部突起?、 無文状突起		677	36	62	VA 2	深鉢	XO	口縁部～平口縁、口縁部 体部 無文
639	61	I 3	深鉢	A区北	体部	堆起縫		678	36	62	VA 3	深鉢	XO	口縁部～ 体部 粘瘤圓文
640	61	I 3	深鉢	A区北	体部	堆起縫		679	36	62	VA 2	鉢	XO	口縁部～平口縁、口縁部 体部 堆起縫
641	61	II 1 B	深鉢	A区北	口縁部	山形突起、円孔 2、不明山線		680	36	62	III 4 d	有孔底 小型鉢	XO	1/2個体 丸底中央に単孔
642	60	II 1 B b 1	深鉢	A区北	口縁部	山形突起?、幾 何学沈綴		681	36	62	II 1 i	深鉢	XO	体部 羽状繩文
643	61	II 1 b 1	深鉢	A区北	体部	T字状降帶		682	37	5	I 3 B	深鉢	17-11G	ほぼ完形(波瀾文)底部無 文
644	61	II 1 ?	深鉢	A区北	体部	麻帯		683	37	62	VA 8	深鉢	XO	口縁部(小波瀬)、 底盤無文
645	61	II 1 Ad 2	深鉢	A区北	口縁部	平口縁、口縁部 無文、頭部降帶+ 刺繡		684	37	7	III 3 E b	深鉢	XO	ほぼ完形 底盤無文
646	61	II 2 C	深鉢	A区北	体部	帶状文、内面燒 化物		685	63	1 3?	浅鉢	XO	口縁部～ 体部 平口縁、底盤文	口縁部～ 平口縁、底盤文
647	61	V A 1	深鉢	A区北	口縁部	平口縁、内面燒 化物		686	63	1 3 B	深鉢	XO	口縁部	平口縁、底盤文
648	61	V	深鉢	A区北	頸部～体 部	頸部平行沈綴		687	63	1 3 B	深鉢	XO	口縁部～ 体部 底盤無文	口縁部～ 底盤無文
649	61	II 2 a	浅鉢	A区北	体部	羊齒状文		688	63	1 2?	深鉢	XO	体部	觀位の尚文
650	61	II 3 b	浅鉢	A区北	口縁部	平行沈綴		689	63	1 2?	深鉢	XO	体部	沈線文
651	61	VH	深鉢	A区北	体部～底 部	底盤無文		690	63	1 3?	深鉢	XO	体部	底盤文
652	61	I 3	深鉢	A区北	口縁部	麻帯文		691	63	1 3?	深鉢	XO	体部	底盤文
653	61	II 3 C a	浅鉢?	A区北	口縁部	B突起?、平行 沈綴+刻目		692	63	1 3?	深鉢	XO	体部	底盤文
654	61	II 3 A b	深鉢	A区北	口縁部	平口縁、平行沈 綴		693	63	1 3?	深鉢	XO	体部	底盤文
655	61	V A 7	深鉢	A区北	口縁部	波状口縁、羽状 圓文		694	63	1 3?	深鉢	XO	体部	底盤文
								695	63	1 3?	深鉢	XO	体部	底盤文
								696	63	1 3?	深鉢	XO	体部	底盤文

697	63 I 3 ? 深鉢 XO	体部	隆帯文		741	63 II 2 ii 深鉢 XO	体部	帶状文(櫛描)、貼縫(大)
698	63 I 3 ? 深鉢 XO	口縁部	平口縁、隆帯文		742	63 II 2 ii 薄? XO	体部	貼縫(大)
699	63 I 3 ? 深鉢 XO	口縁部	隆起縫		743	63 II 2 b 深鉢 XO	口縁部	貼縫、平口縁、粗い撓系、下位磨消
700	63 I 2 深鉢 XO	口縁部~	平口縁、横円文、S字文?		744	63 II 2 ii 深鉢 XO	体部	入組文+貼縫
701	63 I 2 深鉢 XO	体部	顎位の尚文		745	63 III 3 ? 浅鉢 XO	口縁部	平口縁、平行沈縫、C字状
702	63 I 2 深鉢 XO	口縁部	口縁部渦文		746	63 III 1 B c 深鉢 XO	口縁部	突起、入組文
703	63 I 3 B 深鉢 XO	体部	口縁部~		747	63 III 1 A c 深鉢 XO	口縁部	波状口縁?、入組文
704	63 I 3 深鉢 XO	体部	隆帯文、R P16		748	63 III 3 C c 鉢 XO	口縁部	B突起、雲形文
705	63 I 3 深鉢 XO	体部			749	63 III 2 B a 浅鉢 XO	口縁部	B突起、半錐状文
706	63 I 2 深鉢 XO	体部	稍円文?		750	63 III 2 B a 浅鉢 XO	口縁部	B突起、疊状文
707	63 I 3 深鉢 XO	口縁部	平口縁、隆帯文		751	63 III 3 C b 鉢 XO	口縁部~	B突起、平行沈縫
708	63 I 3 深鉢 XO	体部	隆帯文		752	63 III 3 D a 浅鉢 XO	口縁部~	波状口縁、平行沈縫+割目、内外化物
709	63 I 3 深鉢 XO	体部	隆帯文		753	63 III 3 C a 浅鉢 XO	口縁部~	B突起、平行沈縫+割目
710	63 I 3 深鉢 XO	体部	隆帯文		754	63 III 3 A b 浅鉢 XO	口縁部	平口縁、口縁部備状
711	63 I 3 深鉢 XO	体部	隆帯文		755	63 IV C 深鉢 XO	体部	三角形区画内側文、磨削
712	63 I 3 深鉢 XO	体部	隆帯文		756	63 III 4 a 浅鉢 XO	口縁部	平口縁、匂字文(重層的)
713	63 I 3 深鉢 XO	体部	隆帯文		757	63 V A 5 ? 壺 XO	頭部~	頭部彫文、内面炭化物
714	63 II Bd1 深鉢? XO	口縁部	山形突起?、円孔?		758	63 V A 4 深鉢 XO	口縁部	口縁部~ 平口縁、結構複文、外面部化物
715	63 II 1 d 1 深鉢 XO	体部	C字状		759	63 I 2 深鉢 XO	口縁部	平口縁
716	63 II Bd1 深鉢 XO	口縁部	山形突起?、並立盲孔		760	63 I 3 ? 深鉢 XO	口縁部	平口縁、区画沈縫(稍凹?)
717	63 II 1 C 浅鉢 XO	口縁部	扁状突起+盲孔		761	63 I 3 B 深鉢 XO	口縁部	平口縁、区画化文
718	63 II 1 C b 深鉢? XO	口縁部	突起、三叉文		762	63 I 3 ? 深鉢 XO	体部	隆帯文(方形?)
719	63 II 1 b 壺 XO	体部	三角状網文、三叉文、磨削		763	63 I 3 ? 深鉢 XO	体部	隆帯文
720	63 II 2 深鉢 XO	体部	条縫文		764	63 I 3 B 浅鉢 XO	体部	平口縁、隆帯文
721	63 II 2 D 深鉢 XO	体部	条縫文(梅円状)		765	63 II 1 ? 深鉢 XO	体部	隆帯文
722	63 II 1 b 深鉢 XO	口縁部	平口縫+隆帯		766	63 I 3 深鉢 XO	体部	隆帯文
723	62 II 1 E h 深鉢 XO	口縁部	波頂部に突起、内面に盲孔、内面化物		767	63 I 3 深鉢 XO	体部	隆帯文
724	62 II 1 E h 深鉢 XO	口縁部	波頂部に珠状突起(4円孔)、孔状沈縫内逆彫刻突		768	63 I 3 深鉢 XO	体部	隆帯文
725	63 I 3 ? 深鉢 XO	口縁部	隆起縫		769	63 II 1 ? 深鉢 XO	体部	隆帯文
726	63 I 3 ? 深鉢 XO	口縁部	隆起縫		770	63 I 3 深鉢 XO	体部	隆帯文
727	63 II 1 B 深鉢? XO	口縁部	山形突起		771	64 I 3 ? 深鉢 XO	体部	隆帯、口縁部無文
728	63 II Ab1 深鉢 XO	口縁部	平行縫、方形隆帯、磨削		772	64 I 3 ? 深鉢 XO	体部	隆帯文
729	63 II f 2 深鉢 XO	体部	平行沈縫+直下S字文		773	64 II Bd1 深鉢 XO	口縁部	山形突起+円孔?、S字状輪形彫文?
730	63 II F 4 壺? XO	体部	方形沈縫		774	64 II 1 d 1 深鉢 XO	口縁部	孔沈縫起縫文
731	63 II 2 C 深鉢 XO	口縁部	狀文		775	64 II Bb1 深鉢 XO	口縁部	山形突起、疊状
732	63 II 2 C ? 深鉢 XO	体部	帶状文(櫛描)		776	64 II 1 b 1 深鉢 XO	口縁部	隆帯前面に三角状突起
733	63 II 2 C ? 深鉢? XO	体部	帶状文(櫛描)		777	64 II 1 b 2 深鉢 XO	体部	隆帯、体部下半部磨削?
734	63 II 2 H 深鉢 XO	体部	入組文(櫛描)+貼縫		778	64 II 1 a 1 深鉢 XO	体部	多条沈縫
735	63 II 2 n ii 深鉢 XO	口縁部	突起、平行沈縫+貼縫		779	64 II 1 Aa1 深鉢 XO	口縁部	平口縁、方形区画外縫合スリット
736	63 II 1 c ? 鉢 XO	口縁部	帶帯+側突					
737	63 II 2 A i 壺? XO	体部	平行沈縫+摩状粘縫					
738	63 II 2 B ii 深鉢 XO	口縁部	平口縫、貼縫、頭部磨削					
739	63 II 2 a ii 深鉢 XO	口縁部	突起、粘縫、沈縫					
740	63 II 2 ii 深鉢 XO	体部	平行沈縫+貼縫					

780	64	II 1 a 1	深鉢	XO	体部	多条沈綬、稍円状磨消	821	64	II 1 b 2	深鉢	XO	体部	隆帯
781	64	II 1 f 4	壺	XO	頭部～体部	体部上半に方形区画、頭部直下平行沈綬	822	64	II 1 a 1	鉢	XO	体部	刺突+放射状沈綬
782	64	II 1 ?	深鉢	XO	体部	沈綬内撫糸	823	64	III 1 a	鉢	XO	口縁部	菱形状磨消
783	64	II 1 Bb 1	浅鉢	XO	口縁部	突起？。不明曲綫	824	64	II 1 a 1	深鉢	XO	体部	多条沈綬(円文?)
784	64	II 2 A ?	深鉢	XO	口縁部	肥厚した口縁部に横位沈綬→縱位横綬	825	64	II 1 a 2	深鉢	XO	体部	多条沈綬(円文+懸垂文)
785	64	II 1 Ff 4	壺	XO	口縁部～頭部	口縁部内面に突起、方形区画沈綬	826	64	II 1 e	深鉢	XO	体部	縱位連続刺突
786	64	II 1 a 1	深鉢	XO	体部	多条沈綬(稍円沈綬)	827	64	II 1 a 1	深鉢	XO	体部	多条沈綬
787	64	II 1 i ?	深鉢	XO	体部	沈綬内磨消	828	64	II 1 c	鉢	XO	体部	連續刺突
788	64	V	深鉢	XO	体部	横位の粗い沈綬	829	64	II 1 c	鉢	XO	体部	隆帯+刺突
789	64	II 1 f 1	深鉢	XO	体部	迷乱状2条沈綬	830	64	II 1 c	深鉢	XO	体部	連續刺突
790	64	II 1 B	深鉢	XO	体部	形状文	831	64	II 1 a c	深鉢	XO	体部	口縁部斜削目、連續刺突
791	64	II 1 g	深鉢	XO	体部	磨消区画	832	64	II 1 c	深鉢	XO	体部	連續刺突
792	64	V	深鉢	XO	体部	磨消、沈綬	833	64	II 1 A c	深鉢	XO	体部	縱位連續刺突
793	64	II 2 D	深鉢	XO	体部	柔軟状不明曲綫	834	64	II 1 h	深鉢	XO	体部	沈前内逆旋刺突
794	64	II 2 Aa II	深鉢	XO	口縁部	突起、平行沈綬+貼瘤	835	64	II 1 h	深鉢	XO	体部	円形沈綬、刺突
795	64	II 1 B	深鉢	XO	口縁部	突起、摩減	836	64	II 1 g ?	深鉢	XO	体部	円形区酉磨消
796	64	II 2 a	深鉢	XO	口縁部	突起、条文	837	64	II 1 ?	深鉢	XO	体部	三角状沈綬、磨消
797	64	II 2 a	深鉢	XO	口縁部	突起+縱位沈綬、条文	838	64	II 1 g	深鉢	XO	体部	沈綬間磨消
798	64	II 1 B b	深鉢	XO	口縁部	突起、三叉文	839	64	II 1 E f 2	浅鉢	XO	口縁部	波状口縁、磨状文+S字条文沈綬
799	64	II 2 C H	壺?	XO	口縁部	平口縁、带状文+贴瘤	840	64	II 2 a ii	深鉢	XO	口縁部	突起、沈綬+贴瘤
800	64	II 2 ii	壺?	XO	体部	沈綬、磨消、贴瘤	841	64	II 2 a	深鉢	XO	口縁部	突起、条文文?
801	64	II 2 A II	深鉢	XO	体部	平行沈綬+贴瘤	842	64	II 2	鉢	XO	体部	迷乱状
802	64	II 2 ii	深鉢	XO	体部	刻目、沈綬、入組帶状文+贴瘤	843	64	II 2 ii	鉢	XO	口縁部	人組文+點瘤(大)、縱位条文
803	64	III 1 Ac ?	深鉢	XO	口縁部	波状口縁?。入組文?。内面炭化物	844	64	II 2	深鉢	XO	体部	条纹文(棒円状)
804	64	II 1 e ?	深鉢	XO	口縁部	入組文?	845	64	III 3 C b	浅鉢	XO	口縁部	B突起、平行沈綬
805	64	II 1 b	深鉢	XO	体部	三叉文	846	64	II 1 f 2	浅鉢	XO	口縁部	平行沈綬+刺突
806	64	II 1 b	深鉢	XO	口縁部	三叉文	847	65	I 2	浅鉢	XO	口縁部	平口縁、隆塗文
807	64	II 1 B	深鉢	XO	口縁部	突起	848	65	I 2	深鉢	XO	体部	隆塗文
808	64	IV B	鉢	XO	体部	波状沈綬	849	65	II 1 a 1	深鉢	XO	体部	多条沈綬
809	64	IV B	鉢	XO	口縁部	平行沈綬、波状沈綬	850	65	II 1 a 1	深鉢	XO	体部	多条沈綬(円状)
810	64	IV B	鉢	XO	口縁部	平行沈綬、波状沈綬	851	65	II 1 a 1	深鉢	XO	体部	平口縁、横位沈綬、沈綬区画
811	64	IV ?	鉢	XO	口縁部	平行沈綬(多条)	852	65	II 1 A	浅鉢	XO	口縁部	円形懸垂状模様
812	64	IV B	鉢	XO	口縁部	平口縁、波状文?	853	65	II 1 b 1 ?	深鉢	XO	体部	隆塗沈綬内刻目
813	64	VE	壺?	XO	頭部	斜状沈綬	854	65	II 1 e	鉢	XO	体部	隆塗沈綬
814	64	VA	鉢	XO	体部	凹字文	855	65	II 1 D	鉢	XO	口縁部	横位突起、刺突
815	64	IV B	鉢	XO	体部	波状沈綬	856	65	II 1 b ?	深鉢	XO	口縁部	突起、玉抱子?
816	64	IV B	鉢	XO	口縁部	平口縁、波状沈綬	857	65	II 1 B	深鉢	XO	口縁部	突起(大)
817	64	IV C	壺	XO	頭部	頭部平行沈綬、方形沈綬	858	65	I 3	深鉢	XO	口縁部	沈縫内刺突充填
818	64	II 1 B	浅鉢	XO	口縁部	山形突起+円孔、内面盲孔	859	65	II 2 a	深鉢	XO	口縁部	突起
819	64	II 1 Bd 1	深鉢	XO	口縁部	山形突起?、方形区画内斜沈綬	860	65	II 2Bai	深鉢	XO	口縁部	突起、平行沈綬+刺目+粘瘤
820	64	II 1 b 1	深鉢	XO	口縁部	口縁部	861	65	II 1 i	深鉢	XO	体部	底部直上沈綬、内面炭化物
							862	65	IV A	浅鉢	XO	口縁部	平口縁、变形四字文?
							863	65	III 2 a	浅鉢	XO	口縁部	波状口縁、琳状文
							864	65	III 2 Bab	浅鉢	XO	口縁部	B突起、口縁部入組文、体部琳状文

865	65	II 2 Ba?	浅鉢	XO	口縁部	B突起、半齒状文?		900	66	III 1 A b	浅鉢	XO	口縁部~	波状口縁、玉造	
866	65	II 3 C b	浅鉢	XO	口縁部	B突起、平行沈縫		901	66	III 1 D a	浅鉢	XO	口縁部~	三叉文、体部下位無文	
867	65	II 3 B a	浅鉢	XO	口縁部~	口唇部刻目、平行沈縫+刻目、 炭化物		902	66	III 1 b	蓋?	XO	頭部~	平口縁、浮面裝飾	
868	65	II 2 a?	壺?	XO	頸部	平行沈縫、珠状文?		903	66	III 1	浅鉢	XO	口縁部~	三叉文	
869	65	II 1 c	壺?	XO	体部	入組文、磨削		904	66	III 3 c?	浅鉢	XO	体部	雲形文?	
870	65	II 4 A?	浅鉢	XO	口縁部	平口縁、平行沈縫、四字文?		905	66	III 3 c?	浅鉢	XO	体部	雲形文?	
871	65	II 4 B a	浅鉢	XO	口縁部	突起、下向きの 四字文?		906	66	III 2 B a	浅鉢	XO	口縁部~	B突起+口唇部 刻目、半齒状文	
872	65	II 4 B a	浅鉢	XO	口縁部	突起、下向きの 四字文?		907	66	III 2 A a	浅鉢?	XO	口縁部	平口縁、半齒状文?	
873	65	II 4 B	浅鉢	XO	口縁部	突起、横位隆脊+ 沈縫		908	66	III 2 B a	浅鉢	XO	口縁部~	B突起+口唇部 刻目、半齒状文、 平行沈縫、内外面炭化物	
874	65	II 3 B b	鉢?	XO	口縁部	口唇部刻目、平行 沈縫		909	66	III 2 Aab	注口?	XO	口縁部	平口縁、入組文、 半齒状文?	
875	65	II 3 B a	鉢?	XO	口縁部~	口唇部刻目、平 行沈縫+刻突		910	66	III 2 A a	注口?	XO	口縁部	平口縁、半齒状文?	
876	65	II 3 C a	浅鉢	XO	口縁部	B突起、平行沈 縫+刻目		911	66	III 3 A a	浅鉢	XO	口縁部	平口縁、平行沈 縫+刻突、雲形文	
877	65	II 3 B a	浅鉢	XO	口縁部	口唇部刻目、平 行沈縫+刻目		912	66	III 3 F c	浅鉢	XO	口縁部	小波状(退化)、 雲形文、補修孔 (C 2)	
878	65	II 3 a c?	浅鉢	XO	体部	体部上半刺突、 下半雲形文?		913	66	III 3 E b	深鉢	XO	口縁部	A突起+小突起、 平行沈縫、(C 2)	
879	65	V A 8	浅鉢	XO	口縁部	波状口縁?		914	66	III 3 b	深鉢	XO	口縁部	平行沈縫、(C 2)	
880	65	II 3 B c	浅鉢	XO	口縁部~	口唇部刻目、雲 形文		915	66	III 4 d	高杯か 鉢	XO	口縁部~	(大洞A)、波状 文、生石より砂 漠に近い	
881	65	II 1 B c	浅鉢	XO	口縁部	突起、不明曲線		916	66	III 4 A a	浅鉢	XO	口縁部~	平口縁、下向き の四字文	
882	65	II 1 ?	浅鉢	XO	体部			917	66	III 4 B	深鉢	XO	口縁部~	突起、上向きの 四字文	
883	65	II 3 F b	浅鉢	XO	口縁部~	波状口縁、平行 沈縫		918	66	III 4 Bu?	深鉢	XO	口縁部~	突起?、下向き の四字文	
884	65	II 2 ?	鉢?	XO	口縁部	平口縁、平行沈 縫									
885	65	II 2 ?	鉢	XO	口縁部	口唇部刻目、口 縁部無文									
886	65	II 2 ?	浅鉢	XO	口縁部	口唇部刻目、口 縁部無文									
887	65	II 2 ?	浅鉢	XO	口縁部	B突起、外面剥 離									
888	65	V A 5	深鉢	XO	口縁部~	平口縁、口縁部 体部無文									
889	65	V A 5	鉢	XO	口縁部~	平口縁、口縁部 体部無文									
890	65	II 1 ?	壺?	XO	口縁部~	山形突起+刻目、 頭部									
891	65	IV?	浅鉢	XO	口縁部	平行沈縫、三角 形磨削、赤彩?									
892	65	IV A	壺?	XO	頸部	頭部変形四字文									
893	65	IV B	蓋?	XO	口縁部	波状文?									
894	65	IV?	浅鉢?	XO	体部	四字文?									
895	66	II 1 A c	深鉢	XO	口縁部~	波状口縁、入組 体部文									
896	66	II 1 A b	深鉢	XO	口縁部~	波状口縁、三叉 体部文									
897	66	II 1 c	深鉢	XO	体部	入組文									
898	66	II 1 A b	深鉢	XO	口縁部~	波状口縁?、三 体部文									
899	66	II 1 A e	深鉢	XO	口縁部	波状口縁、入組 文									

表2 土製品観察表 ※長さ、幅、厚さの単位はmm。

番号	図版	写真	器種	出土遺構	長さ	幅	厚さ	備考
919	23	40	円盤状	SK274	48	47	8	福物圧底
920	45		円盤状	SK280	48	48	9	地文縄文
921	45		円盤状	SK280	37	39	9	地文縄文
922	45		円盤状	SK280	34	32	11	地文縄文
923	45		円盤状	SK115	49	38	9	沈縫、地文縄文
924	45		円盤状	SK116	38	35	8	摩滅

表3 石器・石製品観察表

※長さ、幅、厚さの単位はmm。()内は残存値を指す。							
番号	図版	写真	器種	出土遺構	長さ	幅	厚さ
925	21	67	石匙	SK17	39	47	7
926	21	69	打製石斧	SK36	91	50	23
927	21	68	石刀	SK91	[95]	20	17
928	25	69	磨石	SP249	71	79	57
929	22	67	石鍬	SK260	30	15	3
930	22	68	石棒	SK265	[145]	25	18
931	22	70	砥石	SK265	[37]	33	13
932	24	67	刮削器	SK265	93	76	[33]
933	23	70	二次加工	SK266	29	26	7
934	23	70	二次加工	SK266	27	28	8
935	23	68	器種	SK276	[20]	36	4
936	24	69	刮石	SK276	77	82	47
937	24	67	石鍬	SK280	28	12	6
938	25	68	器種	SK286	33	27	8
939	25	69	砥石	SP289	[90]	42	31
940	26	67	石匙	SP281	53	27	8
941	25	二次加工	SP248	38	22	9	貢岩
942	28	67	石匙	SN30	31	54	6
943	28	67	石匙	SN30	61	20	7
944	28	70	削器	SN30	52	60	14
945	28	67	削器	SN30	48	26	7
946	28	67	石鍬	SN67	33	19	5
947	28	67	石鍬	SN67	17	13	3
948	28	69	敲石	SN68	83	24	20
949	29	67	石鍬	SN31(謬)	27	12	4
950	29	67	石鍬	SN31(謬)	16	14	5
951	29	69	磨製石斧	SN81(謬)	[42]	[37]	32
952	29	69	刮石	SN81(謬)	85	72	22
953	29	67	石鍬	SN84	15	12	4
954	29	67	石鍬	SN84	40	12	6
955	29	67	石鍬	SN84	31	12	4
956	29	67	石鍬	SN84	20	18	5
957	29	67	削器	SN84	32	22	10
958	29	69	刮石	SN115	[92]	83	27
959	30	69	敲石	SK127	115	91	70
960	31	70	石皿	SK166	345	242	56
961	32	69	磨製石斧	SX267	[90]	60	27
962	32	石鍬	SX267	[18]	12	3	鐵石英
963	32	69	圓石	SX283	81	81	54
964	33	68	石磚	SX2007	[60]	30	23
965	33	69	砾石	SX2007	57	48	21
966	33	69	砾石	SX2007	[54]	38	26
967	33	67	石礫	SD100	28	13	7
968	33	67	石礫	SD100	[50]	28	7
969	33	68	器種	SD100	65	33	9
970	34	67	石礫	SG237	[36]	22	7
971	34	67	石匙	SG237	54	22	7
972	34	67	削器	SG237	86	28	12
973	34	68	石磚	SG237	[145]	100	95
974	34	68	石磚	SG237	[95]	[23]	(7)
975	34	69	圓石	SC287	101	82	42
976	37	67	石礫	XO	18	7	3
977	37	67	石礫	AIC東壁	46	29	9
978	37	67	石礫	5-3IG	18	13	5
979	37	67	石礫	XO	31	24	9
980	37	67	石鍬	XO	[40]	28	8
981	38	67	削整	3-28G	100	64	17
982	37	67	削器	XO	62	35	12
983	38	67	削器	AIC北	73	35	24
984	38	67	削器	XO	51	20	9
985	38	67	削器	XO	34	21	7
986	38	67	削器	AIC北	46	50	16
987	38	67	削器	AIC東壁	37	25	7
988	38	67	二次加工	XO	66	37	12
989	38	67	二次加工	XO	38	23	8
990	38	67	削器	XO	29	16	9
991	38	67	二次加工	XO	34	25	11
992	39	67	削器	XO	66	43	17
993	39	67	二次加工	XO	33	33	20
994	39	67	二次加工	XO	62	37	20
995	39	67	二次加工	XO	63	40	16
996	39	67	二次加工	XO	66	37	9
997	41	67	圓石	XO	143	73	35
998	40	67	圓石	XO	135	40	31
999	39	67	石塊	XO	55	22	7
1000	39	70	石塊	XO	34	35	12
1001	39	67	石塊	XO	[50]	36	18
1002	39	67	石塊	XO	101	61	18
1003	39	68	器種	XO	69	48	13
1004	40	68	器種	XO	68	21	10
1005	40	68	器種	XO	54	28	13
1006	40	68	器種	XO	[21]	31	7
1007	40	68	器種	XO	34	43	9

1008	40	68	器物	XO	61	36	15	流紋岩	未成品
1009	40	68	器物	XO	47	40	9	黑色頁岩	表面にハネ、 角度のある 加工
1010	40	68	石槍	XO	[39]	17	8	頁岩	基部欠損、 中央部まで の加工
1011	40	68	石棒	A区北	[68]	[24]	[10]	粘板岩	
1012	40	68	石製品	XO	[15]	4	4	泥岩?	C字状
1013	40	69	圓石	13-13G	87	79	44	安山岩	片面圓、RQ 8
1014	40	69	圓石	XO	139	97	45	砂岩?	片面のみ残 存
1015	41	69	圓石	XO	[108]	[45]	[15]	安山岩	片面のみ残 存
1016	41	69	圓石	XO	120	82	28	安山岩	複数圓
1017	41	69	磨石	A区	[75]	55	35	閃綠岩	基部欠損、 棒状の微か ら
1018	41	69	磨石	20-5G	130	62	26	安山岩	棒状
1019	41	69	磨石	20-5G	[176]	54	47	安山岩	基部欠損、 棒状の微か ら
1020	41	68	磨製石斧	上浦氏 所藏品	101	46	30	安山岩	定角式
1021	41	68	打製石斧	上浦氏 所藏品	108	64	35	安山岩	椎形、素材 面大きく残 す

表4 須恵器・土師器・陶磁器観察表

番号	写真	所属時期	種別	器種	出土遺構	残存部位	備考
1022	70	平安	須恵器	甕	B区	体部	内面アテ痕。外面タキ、雲母・石英混
1023	70	平安	土師器	鉢	S K233	口縁部～体部	ロクロ成形。口縁部に突唇。胎土緻密
1024	70	中世	陶器	皿	XO	口縁部	内面突唇。口縁部灰釉。古瀬戸後期
1025	70	近世	陶器	皿	XO	口縁部～体部	内外灰釉。折線形、唐津
1026	70	近世	陶器	碗	XO	体部	外面部灰釉。肥前高麗手？
1027	70	近世	陶器	鉢	S E132	口縁部	外面部鉄錆
1028	70	近世	陶器	楕円鉢	S E132	口縁部	外面部鉄錆
1029	71	近世	陶器	指鉢	S K234	1／2	内外鉄錆。口縁部のみ胎釉。会津本郷
1030	71	近世	陶器	指鉢	XO	底部	内外鉄錆。底部墨書き「テロ…」
1031	70	近世	磁器	碗	XO	口縁部	二重網目文。肥前
1032	70	近世	磁器	碗	S E132	口縁部・底部	矢吹・水波文。肥前系
1033	71	近世	磁器	碗	XO	底部	雪輪草花文。くらわんか手。肥前
1034	71	近世	磁器	小杯	S K158	底部	雪輪草花文。砂底。肥前
1035	71	近世	磁器	皿	A区北	底部	見込(網目・果実・花)、底部「大明成…長口」。砂底。肥前

表5 銭貨計測表

番号	写真	所属時期	種別	銭種	出土遺構	備考
1036	71	近世	武貨	寛永通宝	B区	幅23.5mm・厚さ1.1mm。新寛永(1668年～)
1037	71	近世	武貨	寛永通宝	S K233	幅25.5mm・厚さ1.1mm。欠損あり。新寛永(1668年～)
1038	71	近世	武貨	文久永宝	S K234	幅26mm・厚さ1.2mm。初鋤年:(1863年)

写真図版



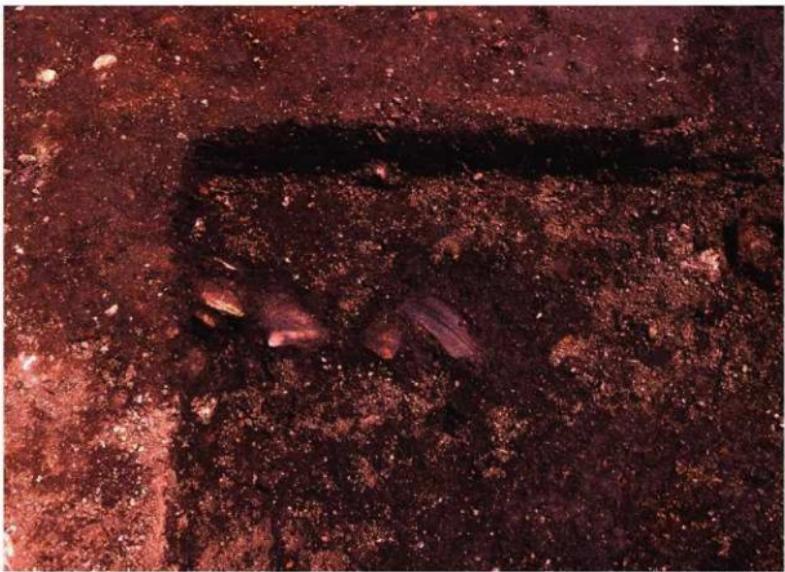
調査風景



調査区全景(空中撮影)



A区検出状況(南から)



S X115出土状況(南から)



A区北坑掘状況(南から)



R P39出土状況(西から)



R P38出土状況(南から)



51

R P38(大洞C1)



682

大木10式期深鉢



B区発掘全景(空中撮影)



S X116出土状況(東から)



縄文晩期前葉～中葉の土器



重機稼働状況(南から)



面整理(北東から)



遺構精査状況(南から)



記録作業(北東から)



調査説明会(西から)



調査説明会(南から)



遺構実測委託(北から)



空撮風景(北から)



A区北完掘状況(南から)



A区中央完掘状況(南から)



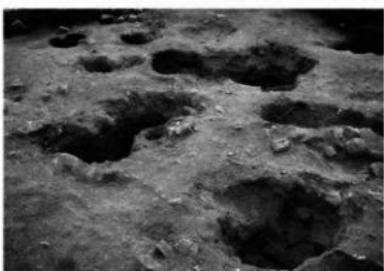
A区北の遺構検出(西から)



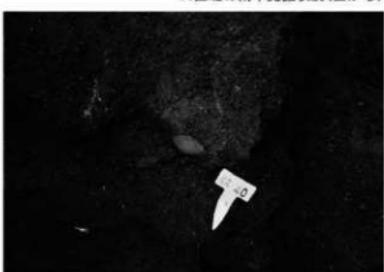
A区北西壁層序(東から)



A区北遺構検出(北から)



A区北の南半完掘状況(西から)



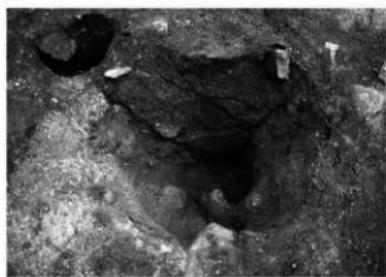
A区北SK17出土の石器(RQ 40)(西から)



A区北SP94完掘(南から)



A区北SK8出土の土器片(RP 1)(東から)



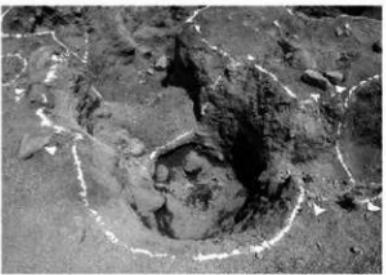
A区北 S K90断面(南から)



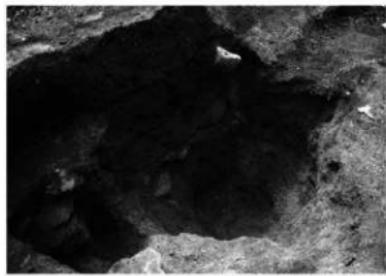
A区北 S K256完掘(南から)



A区北 S K89断面(南から)



A区北 S X14-S K266完掘(西から)



A区北 S K17断面(東から)



A区北 S K17断面(東から)



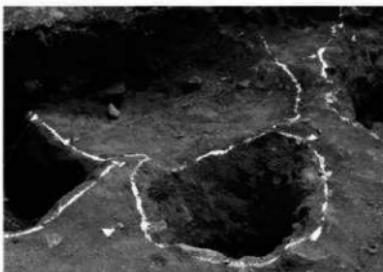
A区北 S K17出土土器片(R P 2)(西から)



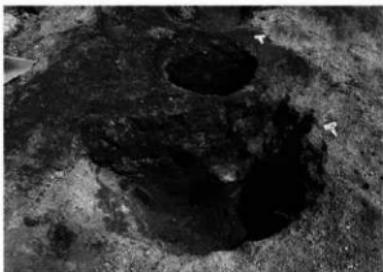
A区北 S K17-S P255完掘(東から)



A区北S P249断面(西から)



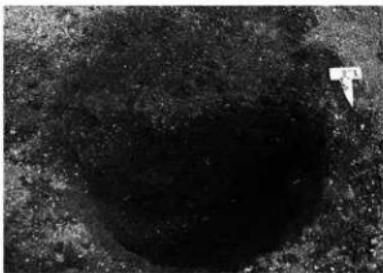
A区北S P249完掘(西から)



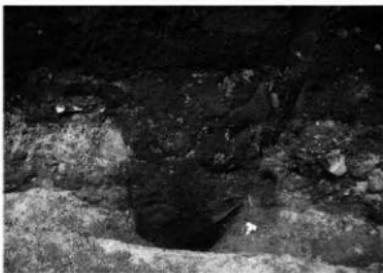
A区北S K11断面(南から)



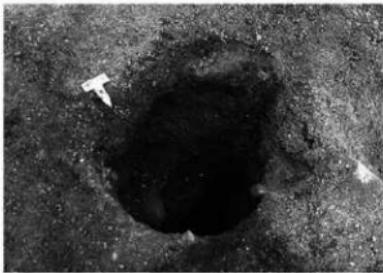
A区北S K11完掘(南から)



A区北S P281断面(南から)



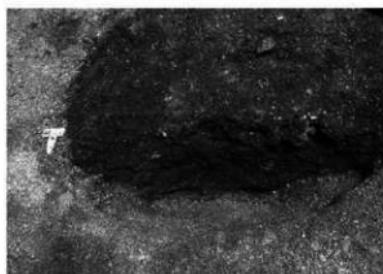
A区北S P257断面(東から)



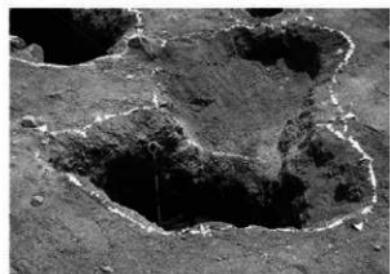
A区北S P92断面(南から)



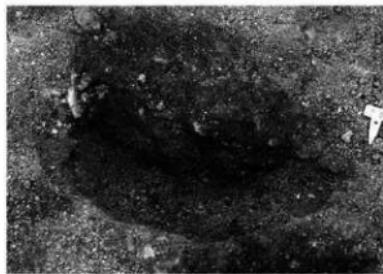
A区北S P252断面(南から)



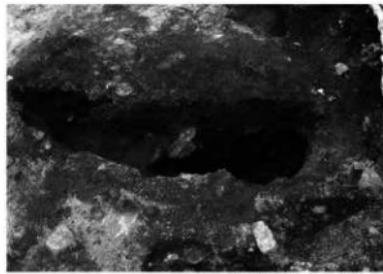
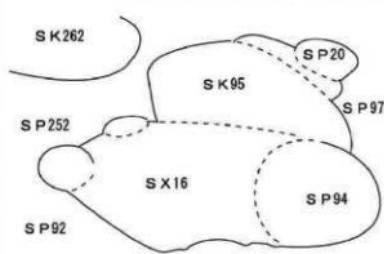
A区北 S P94断面(南から)



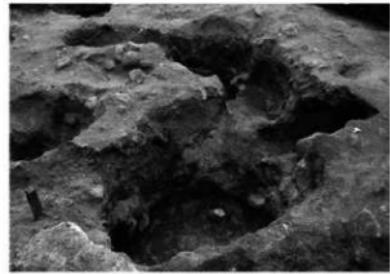
A区北 S P94・S P97・S X16完掘(西から)



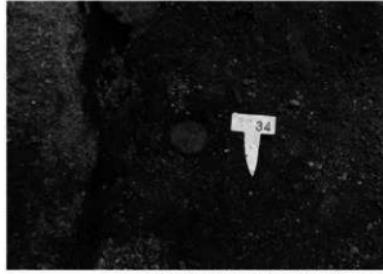
A区北 S P97断面(南から)



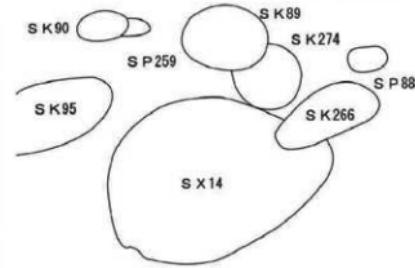
A区北 S K266・S X14断面(南から)



A区北 S K266・S X14完掘(西から)

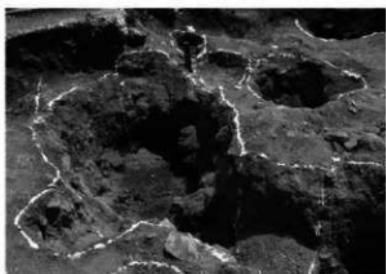


A区北 S K266出土土器(R P34)(南から)

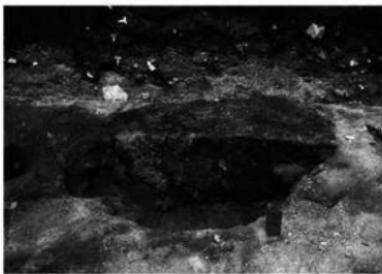




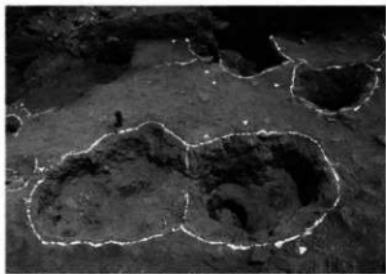
A区北S X14断面(南から)



A区北S X14完掘(北西から)



A区北SK8断面(東から)



A区北SK8・S X11完掘(北西から)



A区北北部完掘(北から)



A区中央S X81断面(南から)



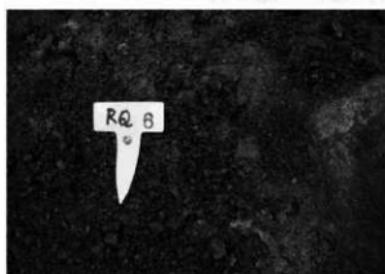
A区中央表土除去作業(南から)



S X81出土石器(RQ 5)(南から)



A区中央表土除去作業(南から)



S X81出土石器(RQ 6)(南から)



A区検出状況(北から)



A区中央の北端部遺構検出(西から)



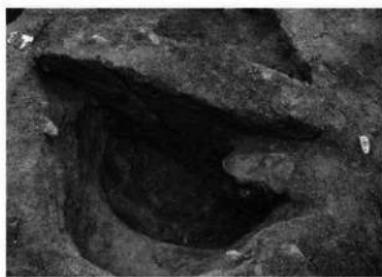
A区南部の搅乱状況(東から)



A区中央北東壁層序(西から)



A区中央南東壁層序(西から)



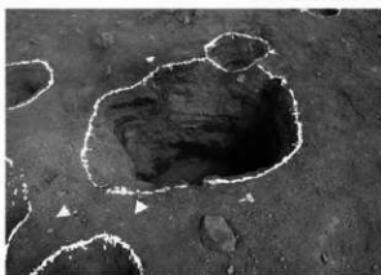
A区中央SK38断面(西から)



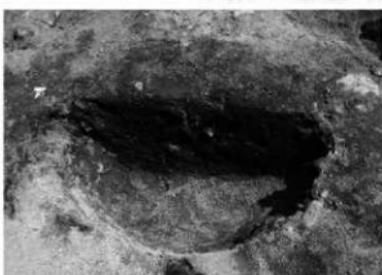
SK38完掘(東から)



A区中央SK41断面(南から)



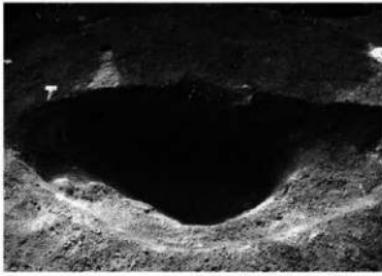
SK41完掘(西から)



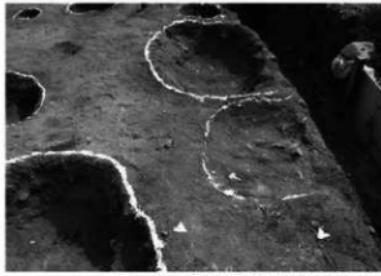
A区中央SK49断面(南から)



SK49・SK51完掘(東から)



A区中央SK53断面(東から)



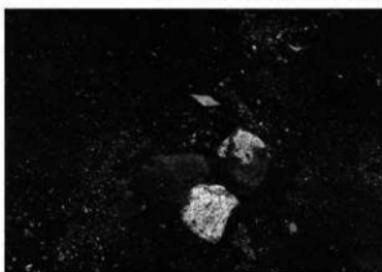
SK53・SK273・SK49完掘(北東から)



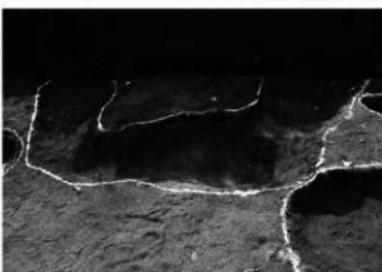
A区中央 S D100出土石器 (R Q13)



S D100調査風景(東から)



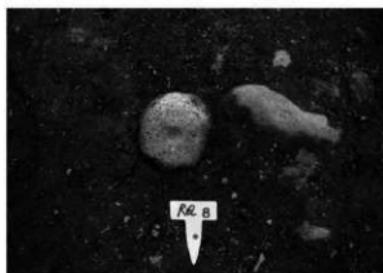
S D100出土石器 (R Q9)



S D100・SK85完掘(東から)



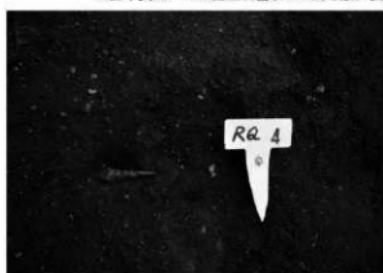
S D100周辺の完掘状況(東から)



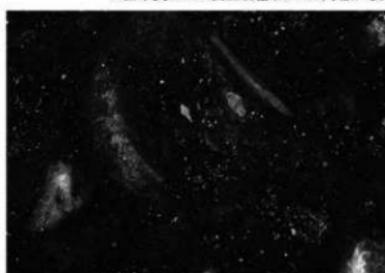
A区中央13-13G出土石器(RQ 8)(北から)



A区中央S X 84出土石器(RQ 12)(北から)



S X 84出土石器(RQ 4)(南から)



S X 84出土石器(RQ 10)(南西から)



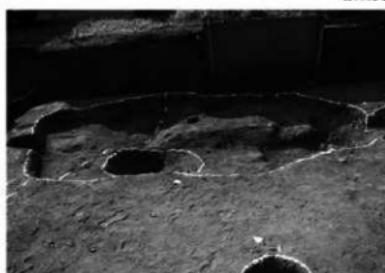
S X 84出土石器(RQ 10)(南から)



鉄石英



S X 84出土石器(RQ 11)(南から)



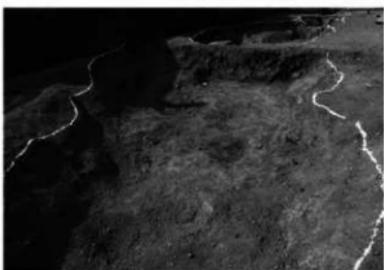
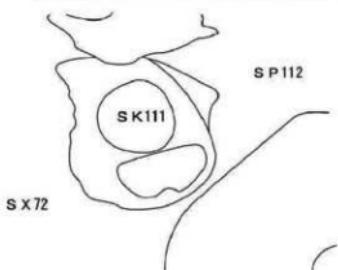
S X 84 + SK 114先掘(東から)



A区中央 S X72・S P112・S K111発掘(北東から)



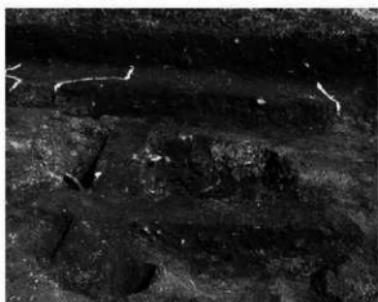
S X72出土土器(RP3)(西から)



A区中央 S G287発掘(南から)



S G287断面(南西から)



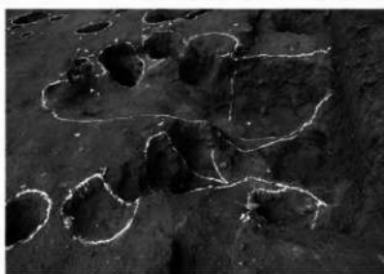
A区中央S X115-S K280(西から)



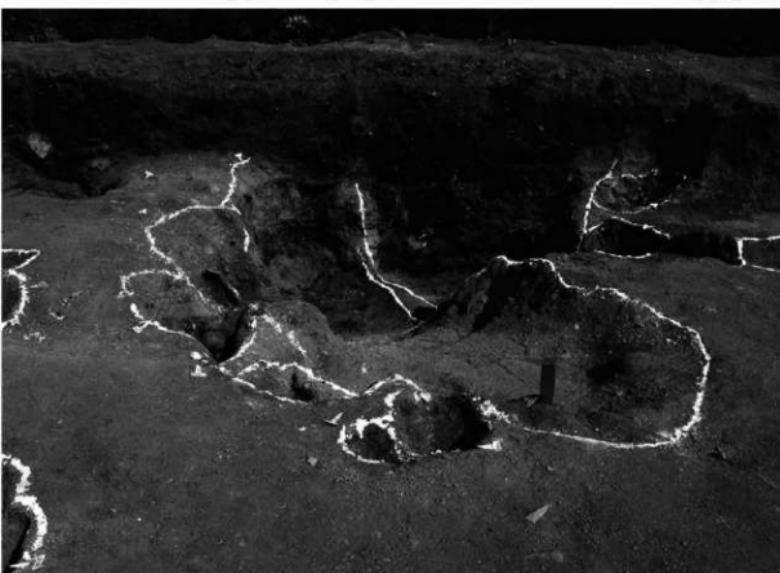
S X115出土土器(R P17~21)(南から)



A区中央S K285出土土器



S K115-S K280完掘(南から)



S X115-S K280完掘(西から)



A区中央 S X29断面(西から)



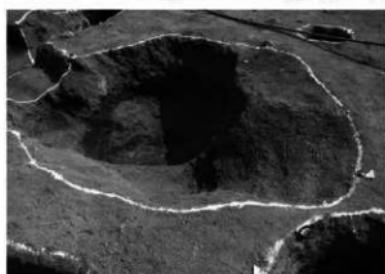
S X29出土土器(R P35)(西から)



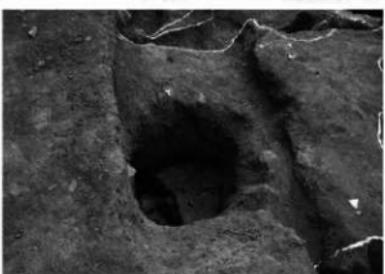
A区中央 S X30・S K260断面(北西から)



A区中央 S X29・S P28完掘(南東から)



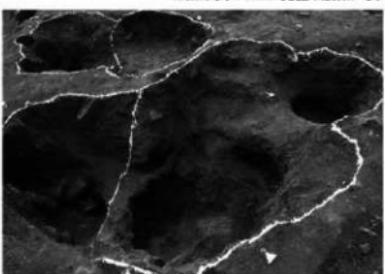
A区中央 S X30・S K260完掘(北から)



A区中央 S X279完掘(北東から)



A区中央 S X116断面(西から)



S X116完掘(南から)



A区中央SK265断面(北東から)



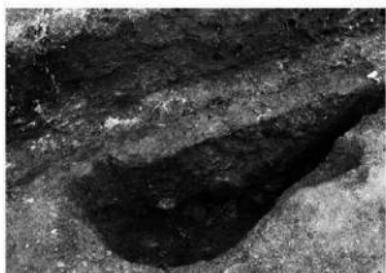
SK265出土石製品(RQ37)(北東から)



A区中央東17-11グリッド出土土器(東から)



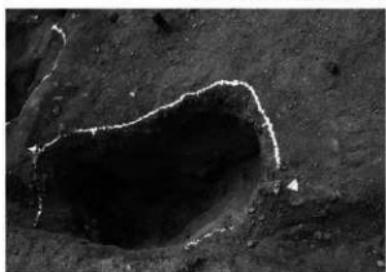
A区中央東17-11グリッド直下出土土器(西から)



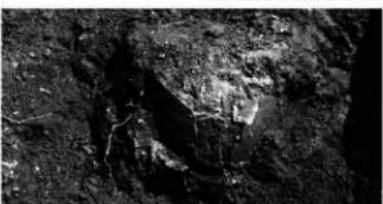
A区中央 S X67断面(西から)



A区中央作業風景(北から)



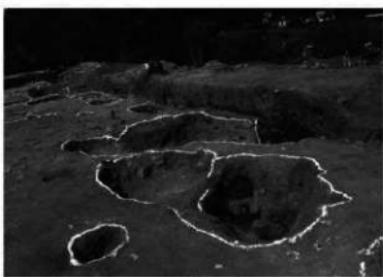
S X67完掘(東から)



S X67出土土器(西から)



A区中央 S X68・S K283断面(西から)



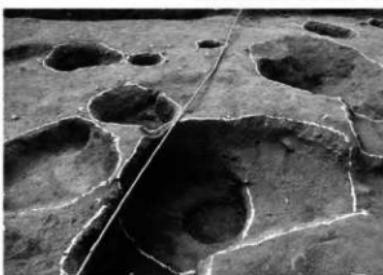
S X68・S K283完掘(西から)



A区中央 S D31断面(東から)



A区中央 S K268断面(南から)



S D31・S K270完掘(東から)



A区中央北完掘(北から)



B区排水樹掘り下げ状況(北から)



R P 29出土状況



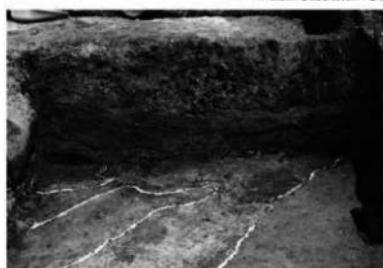
S D 187検出状況(南西から)



S D 187完掘状況(南西から)



R P 30出土状況(東から)



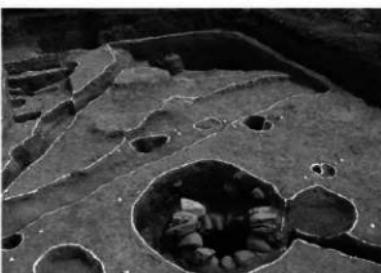
排水樹北側断面(南から)



S D 187上流部検出(南西から)



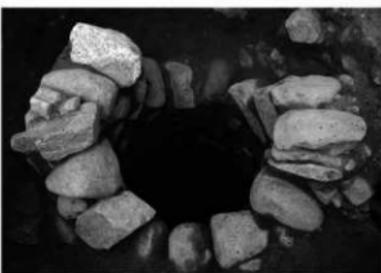
B区 S K245掘り下げ(東から)



S E132完掘(西から)



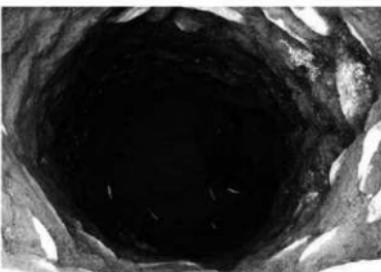
B区 S E132検出(北から)



S E132石積み状況



B区 S E132掘り下げ(北から)



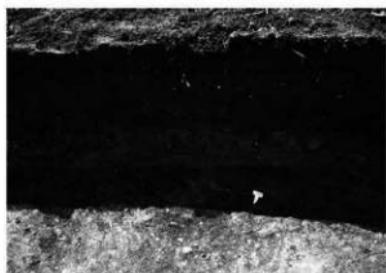
S E132井戸底



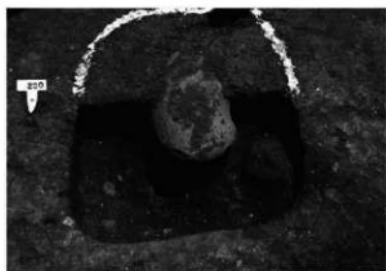
S E132断面(西から)



B区調査時の訪問者



B区SK245検出と西壁層序(東から)



B区SP230断面(西から)



B区SD173完掘(北西から)



B区SD235完掘



B区SD173完掘(南東から)



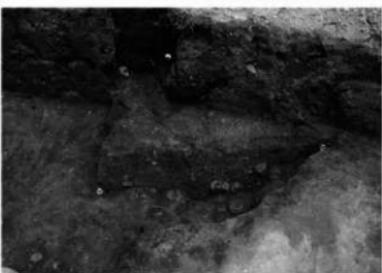
B区 S X166拡張(東から)



S X166遺物検出状況(東から)



S X117一部精査とS X166拡張(南から)



S X166東西断面一部(南から)



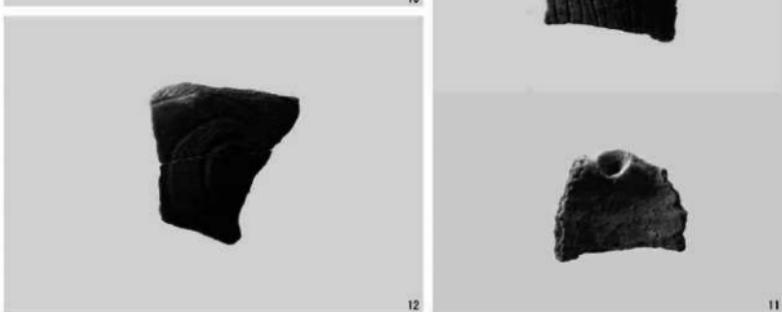
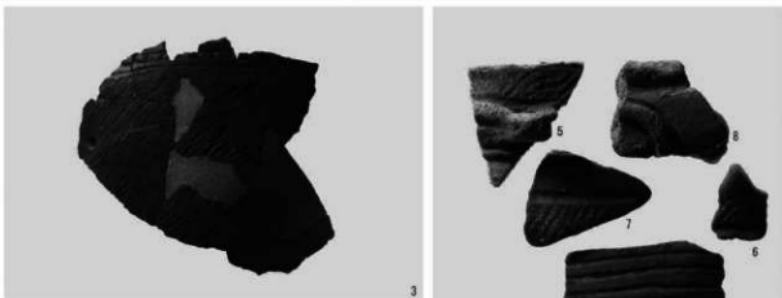
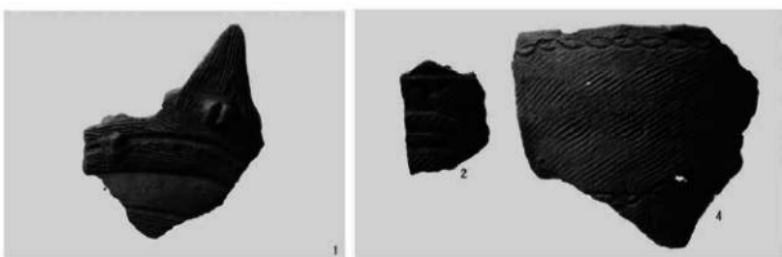
S X166完掘(南から)



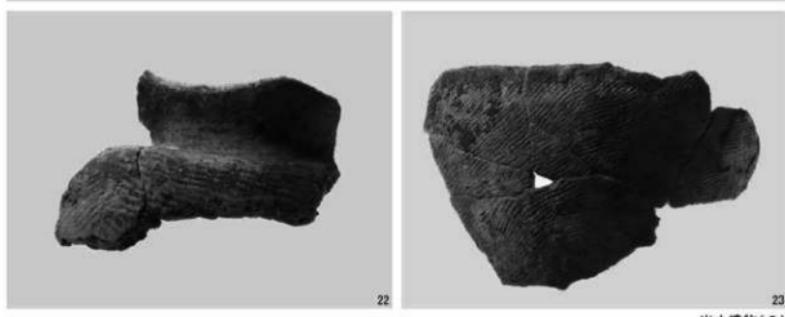
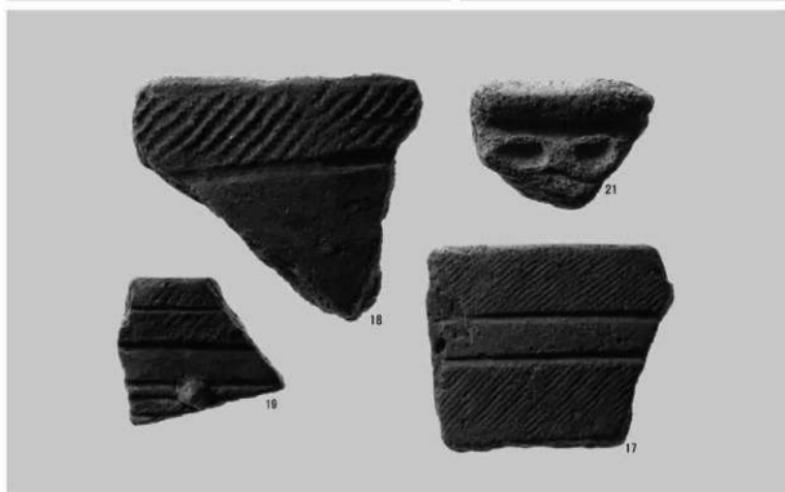
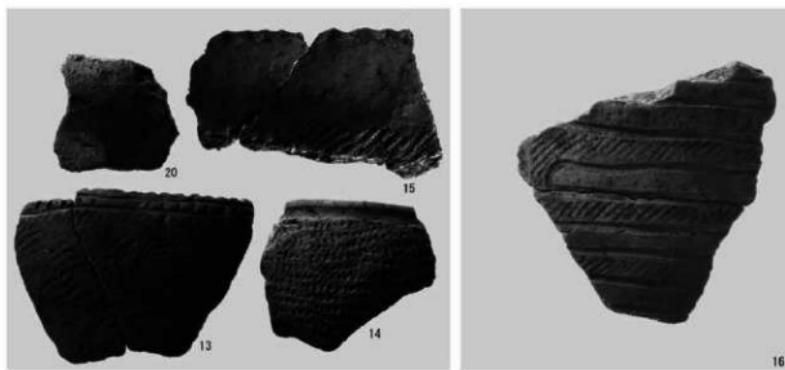
S X166遺物出土状況(南から)



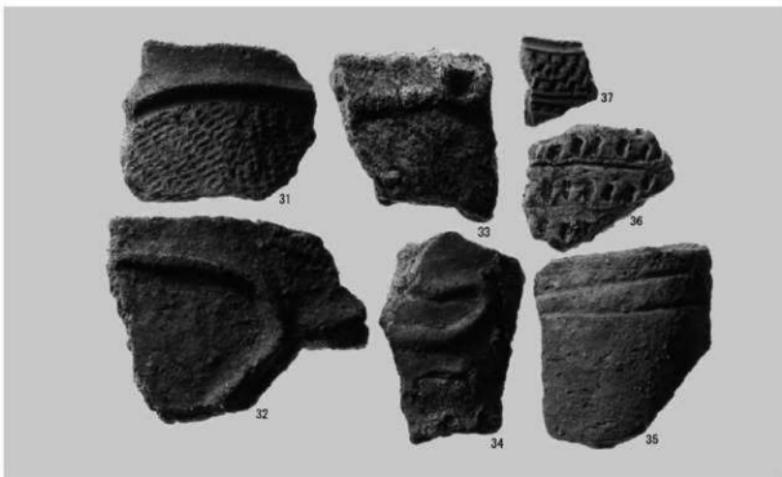
S X166完掘(東から)



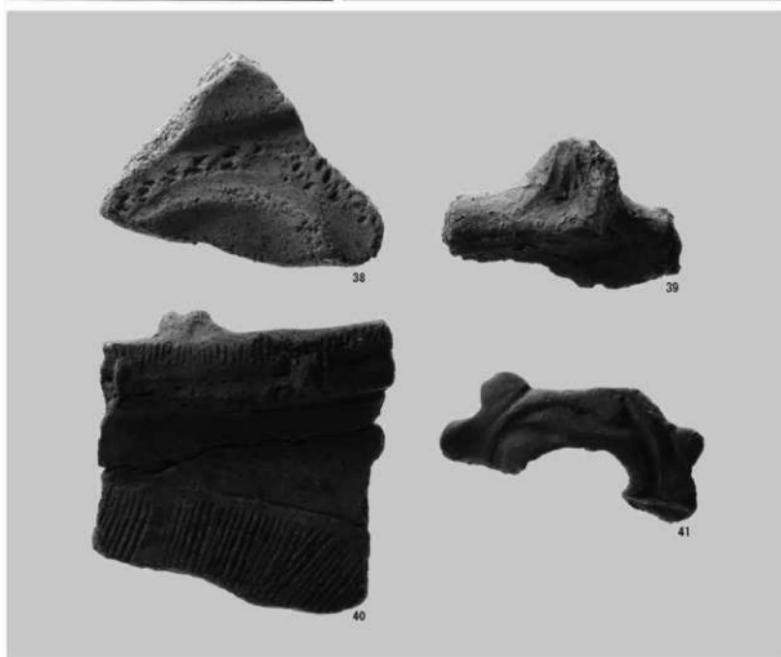
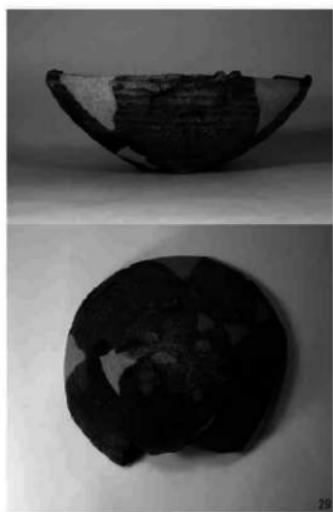
出土遺物(1)



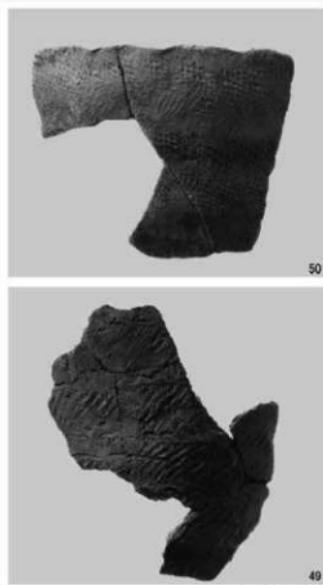
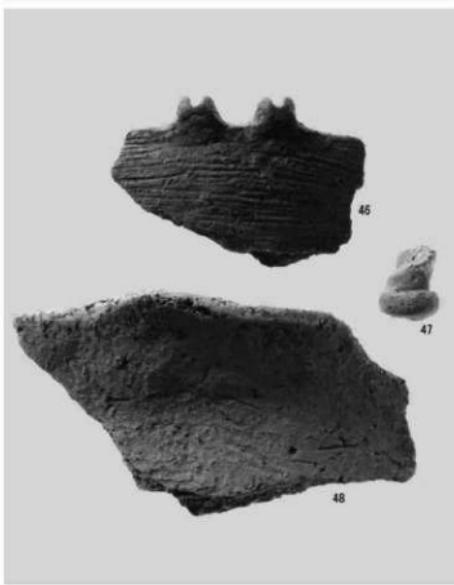
出土遺物(2)



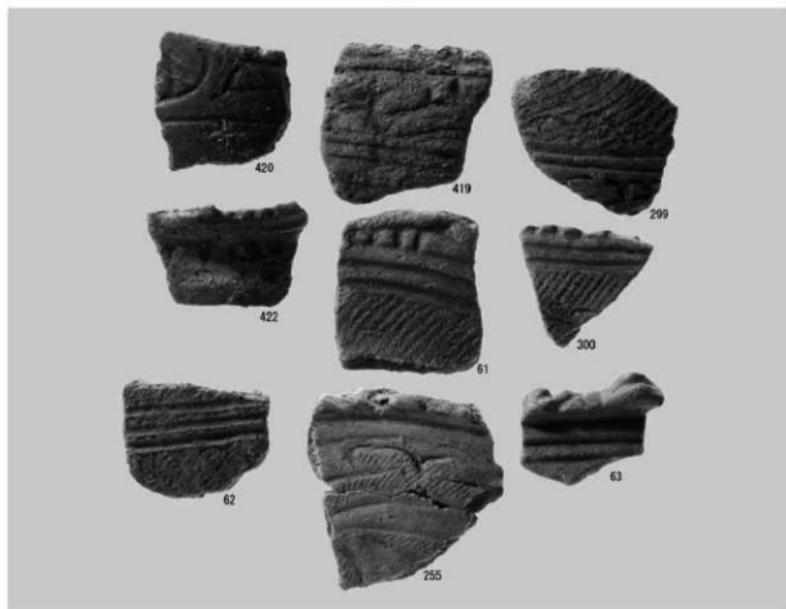
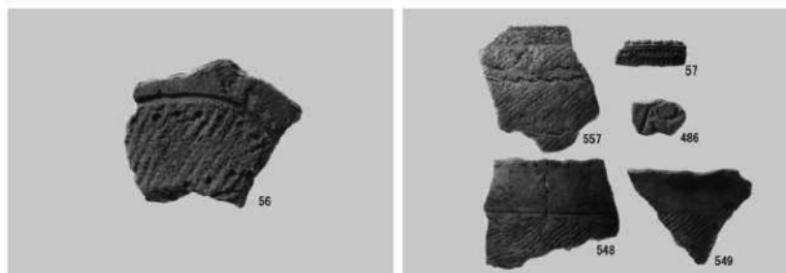
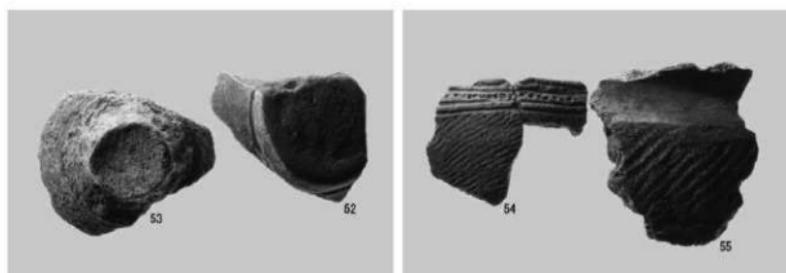
出土遺物(3)



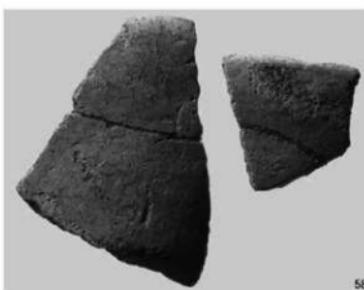
出土遺物(4)



出土遺物(5)



出土遺物(6)



58



59



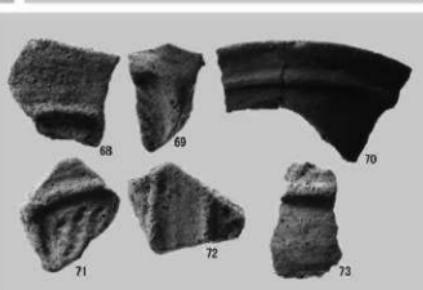
64



65



66



68

69

70

71

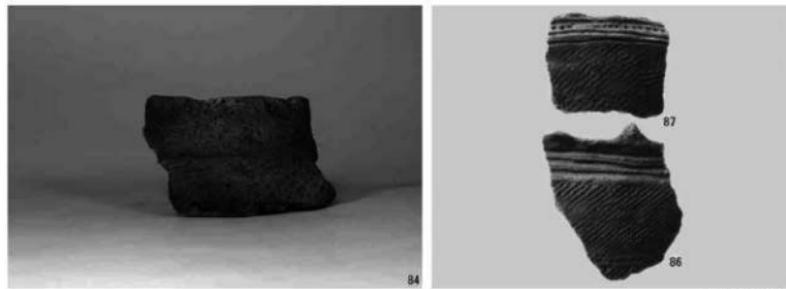
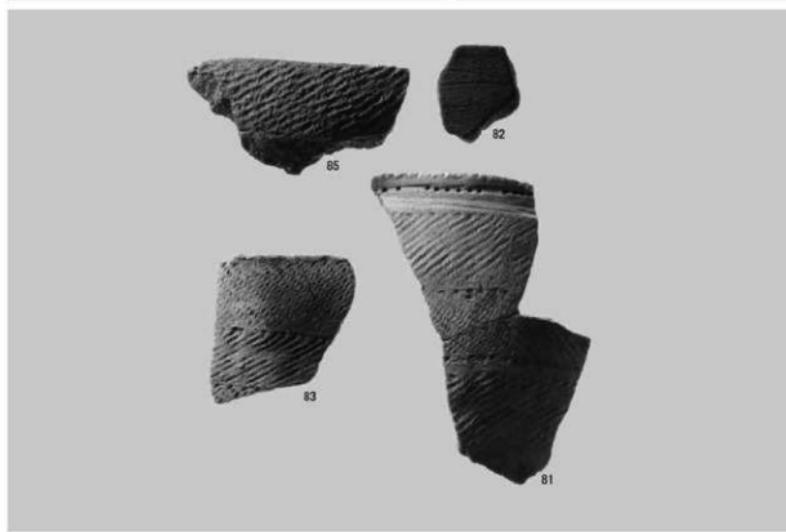
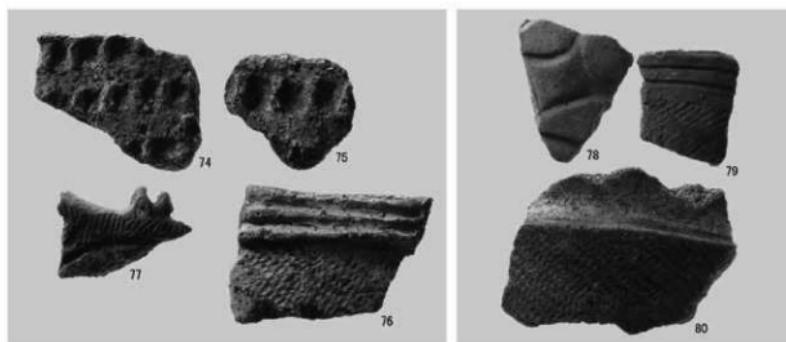
72

73

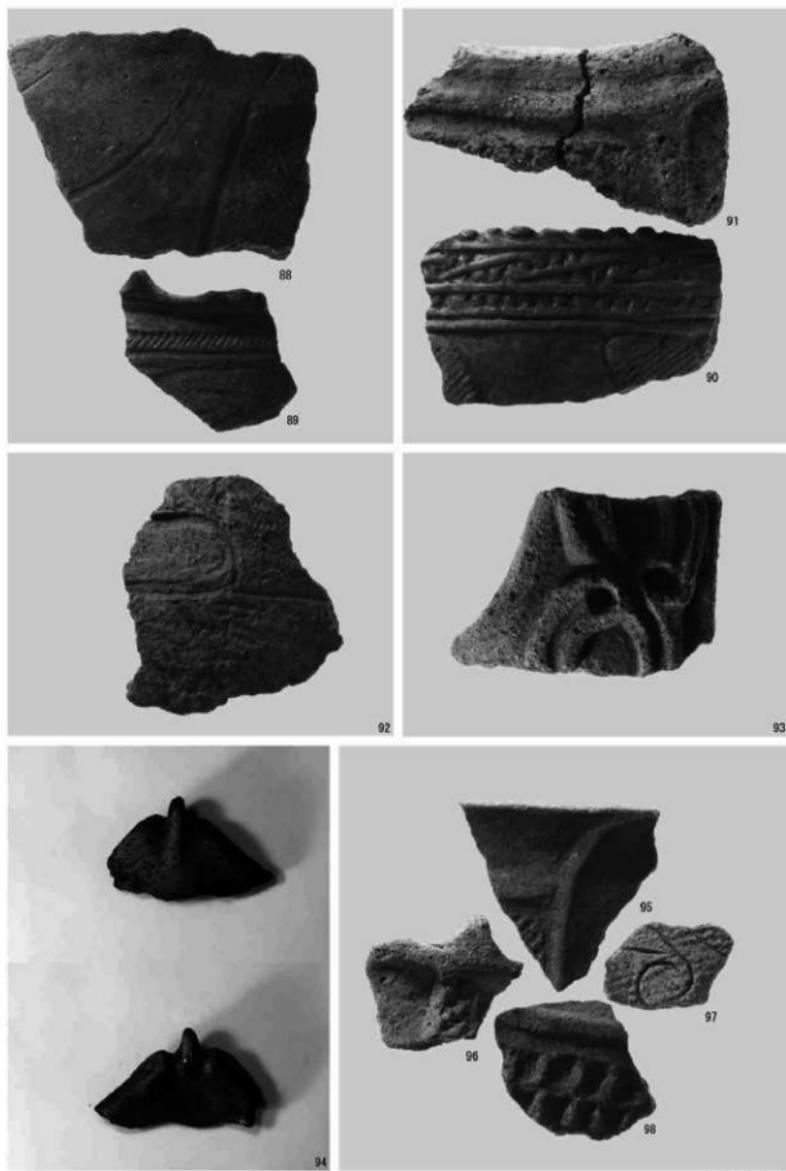


67

出土遺物(7)



出土遺物(8)



出土遺物(9)



99



919



100



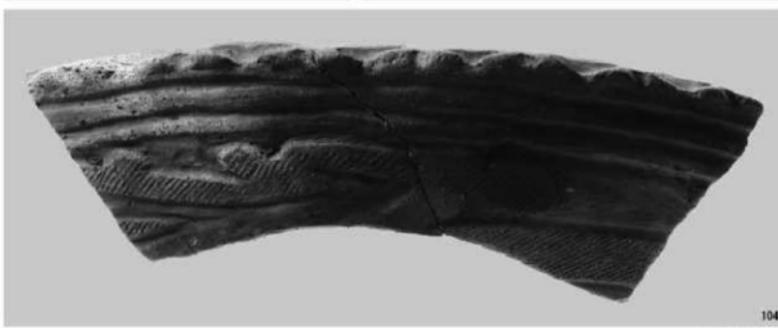
101



103

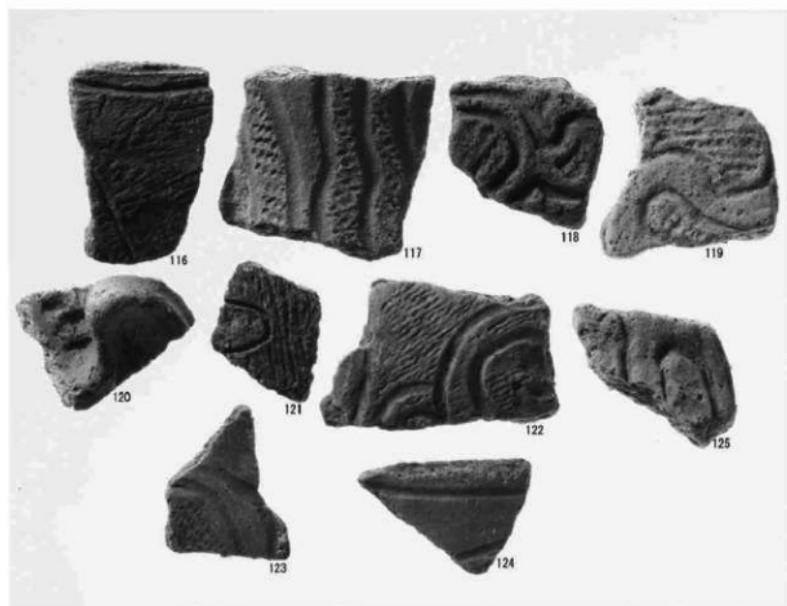
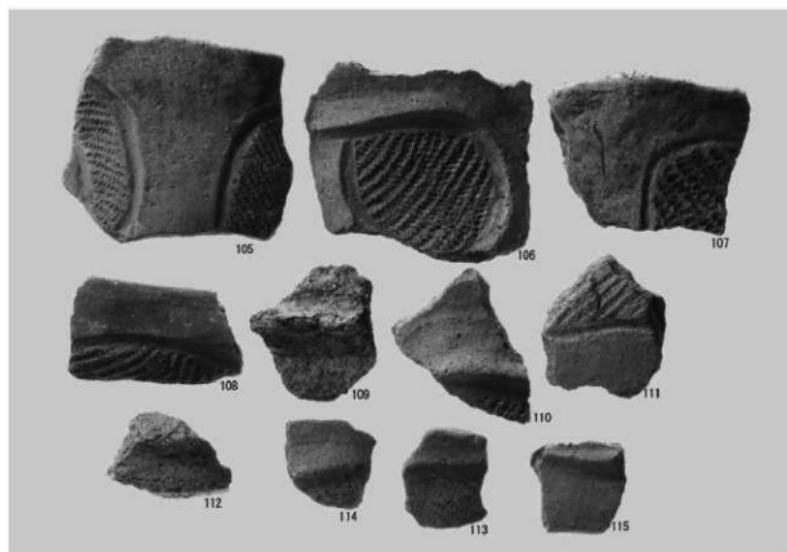


126

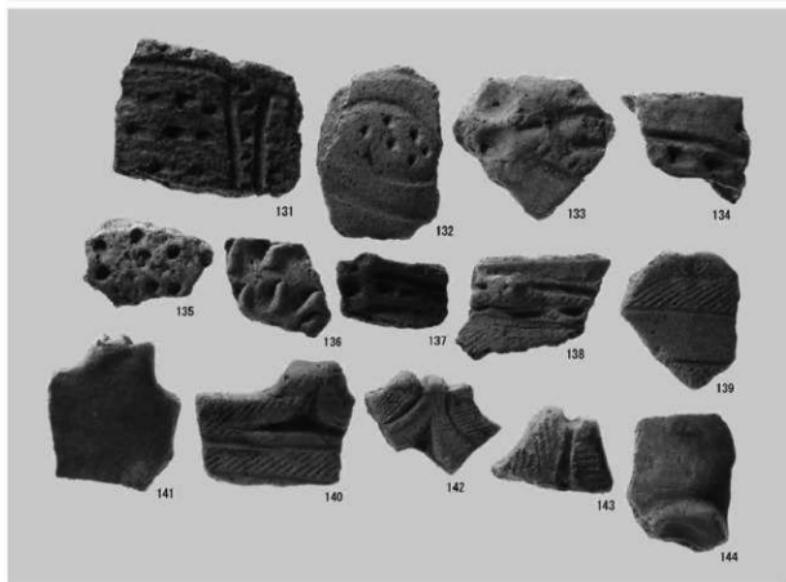
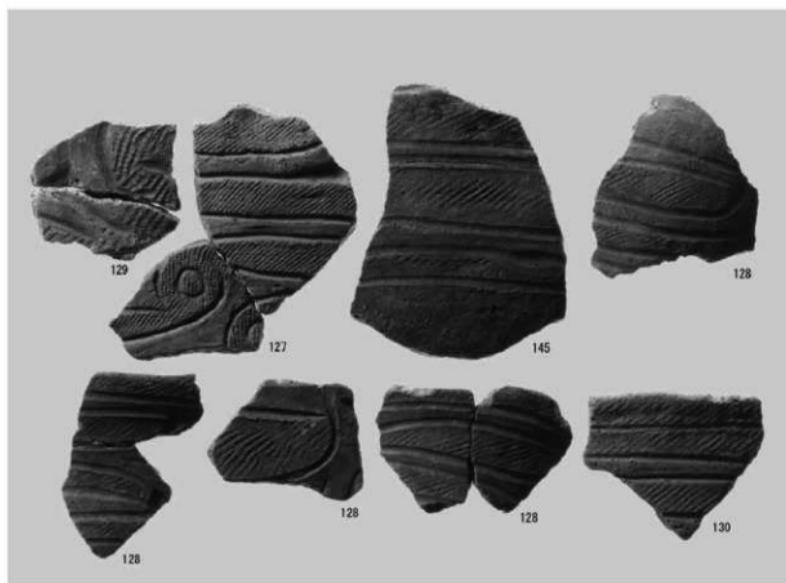


104

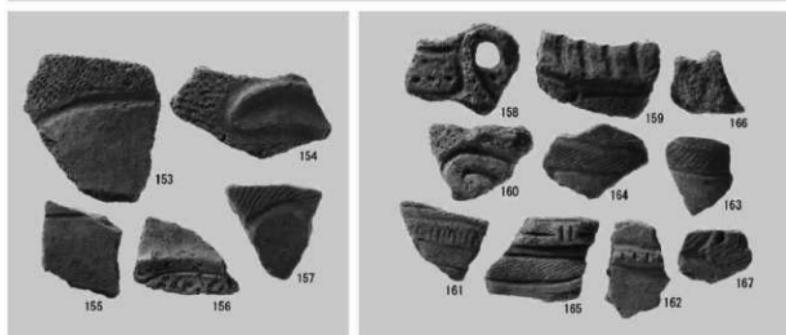
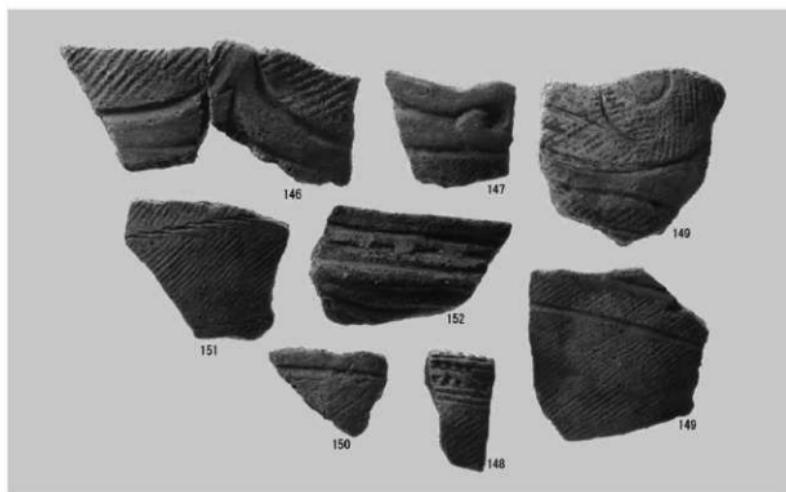
出土遺物(10)



出土遺物(11)



出土遺物(12)



170

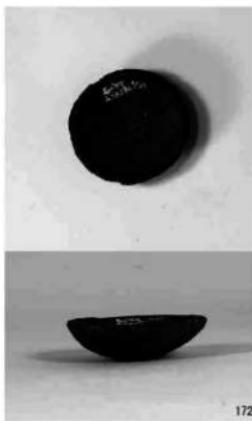
171
出土遺物(13)



179



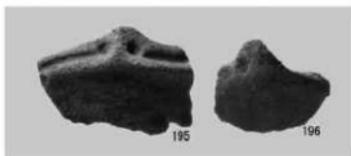
173



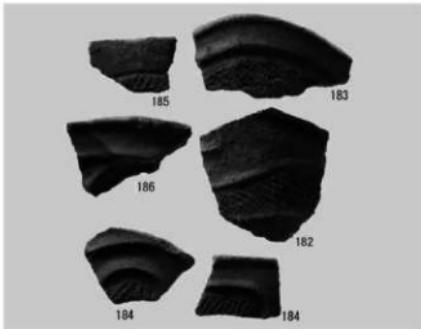
172



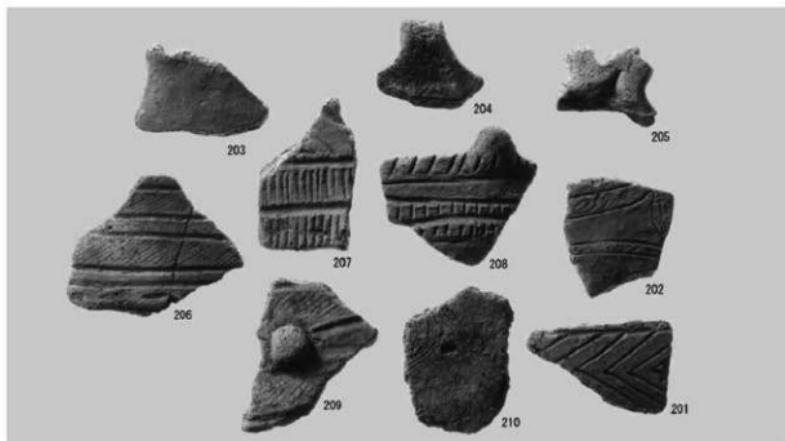
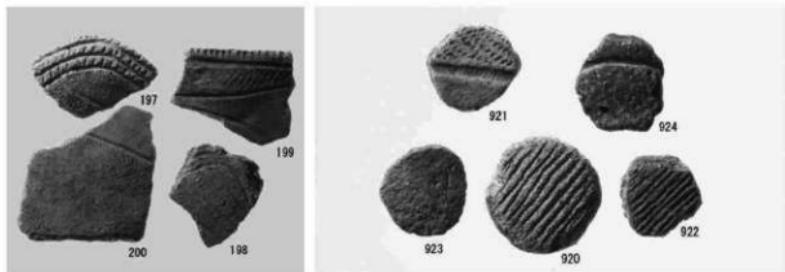
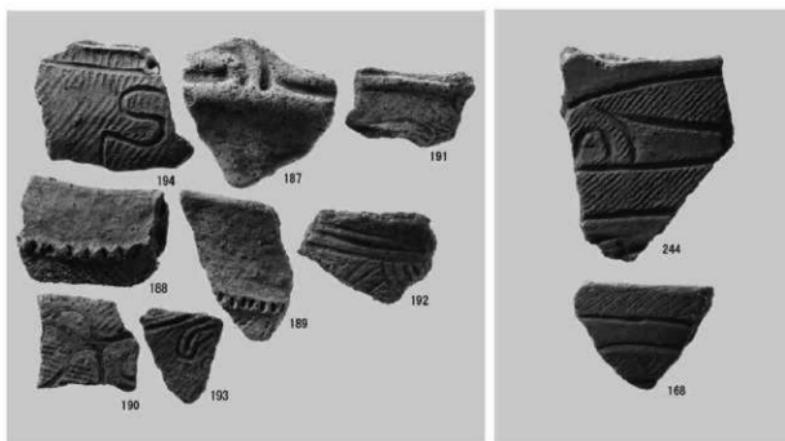
174



196



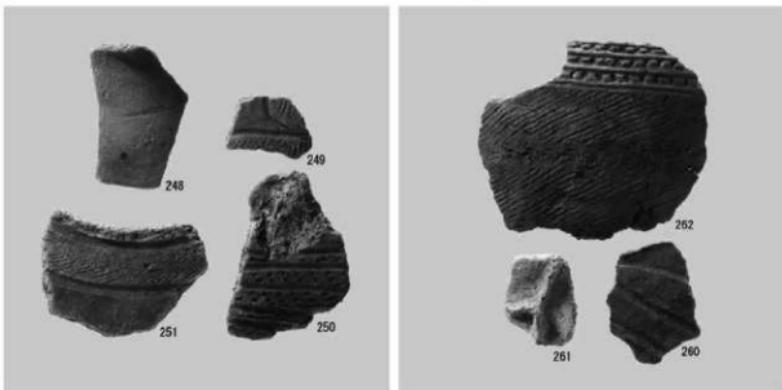
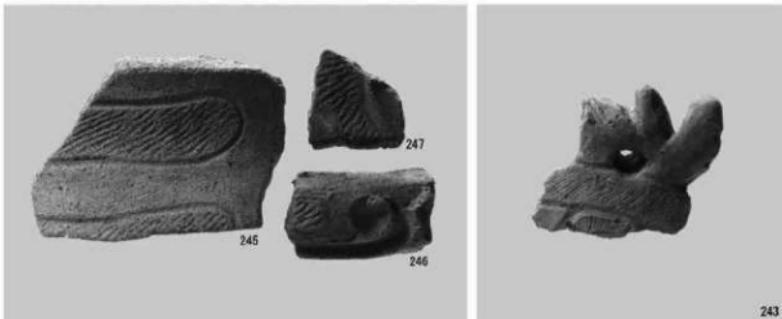
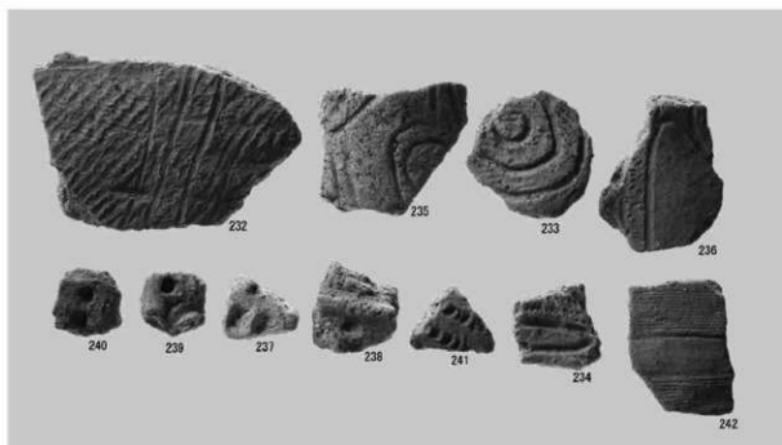
出土遺物(14)



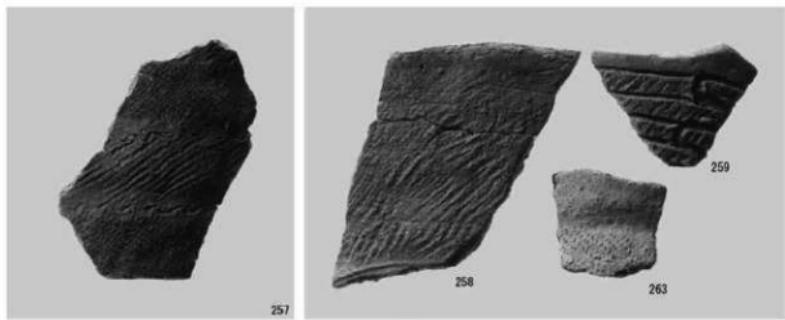
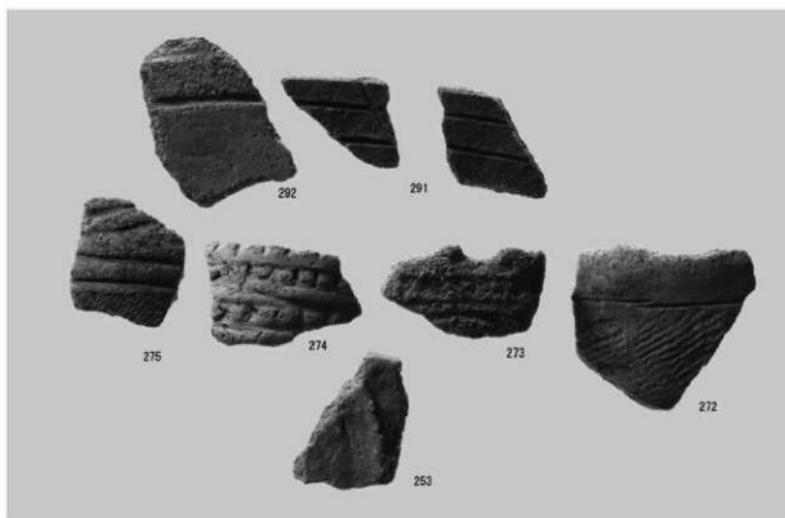
出土遺物(15)



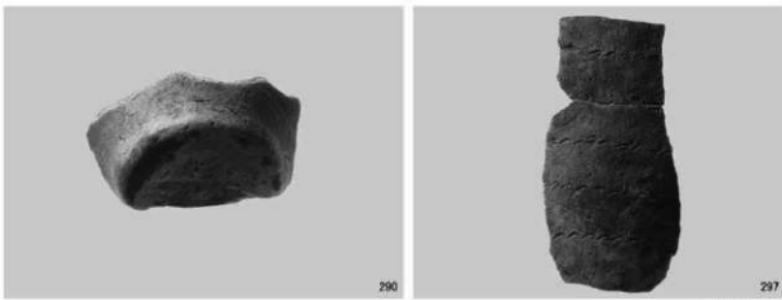
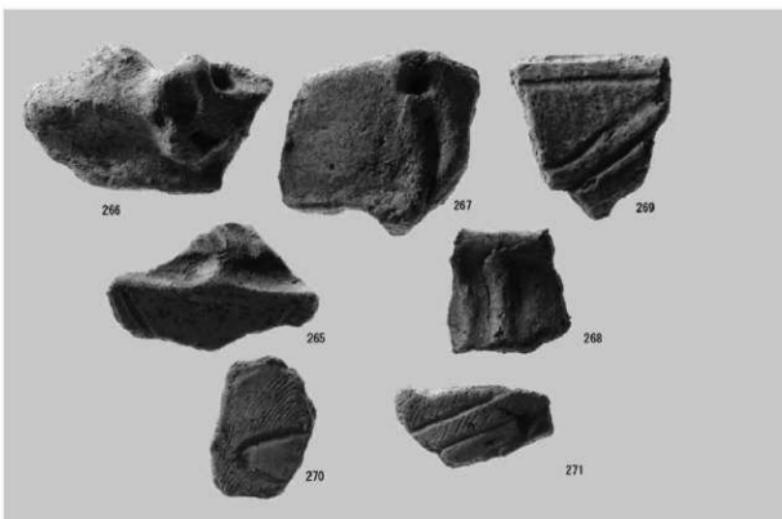
出土遺物(16)



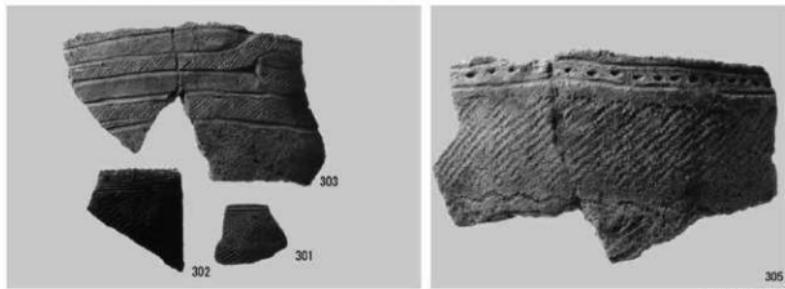
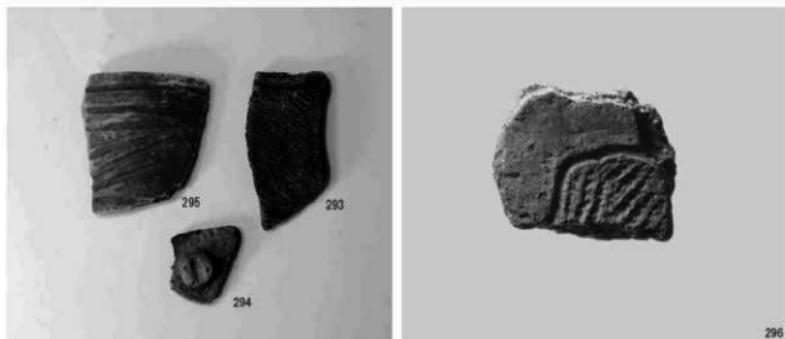
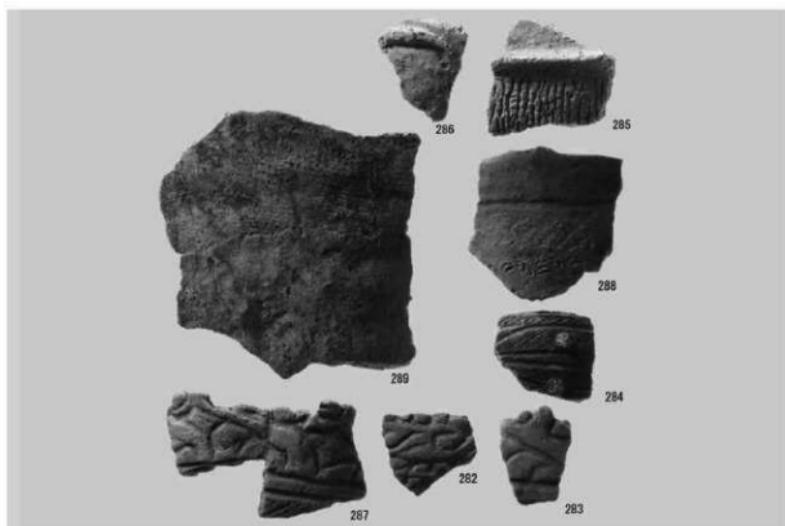
出土遺物(17)



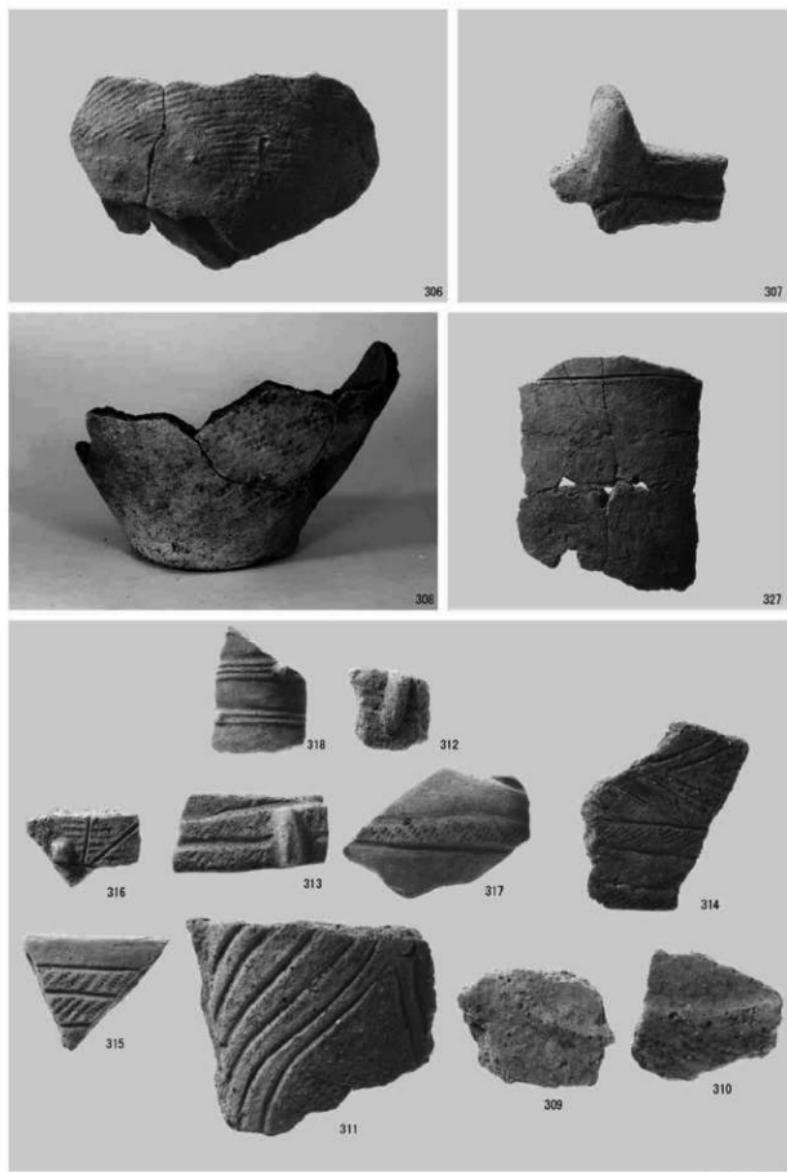
出土遺物(18)



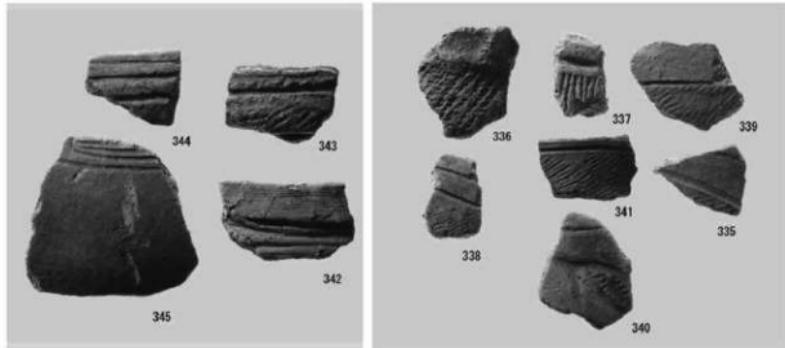
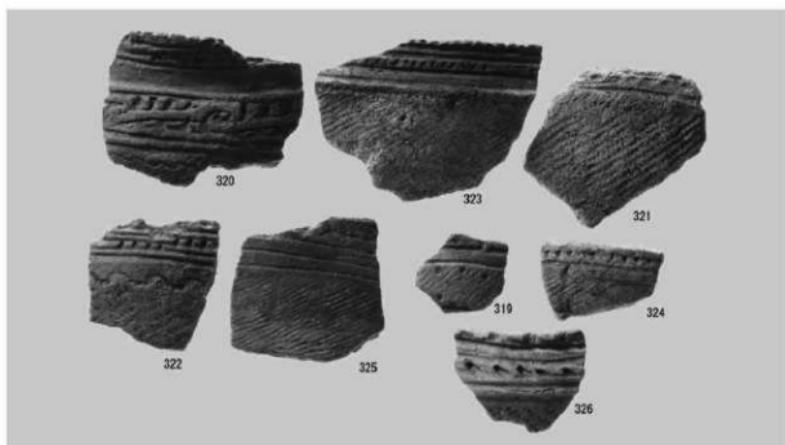
出土遺物(19)



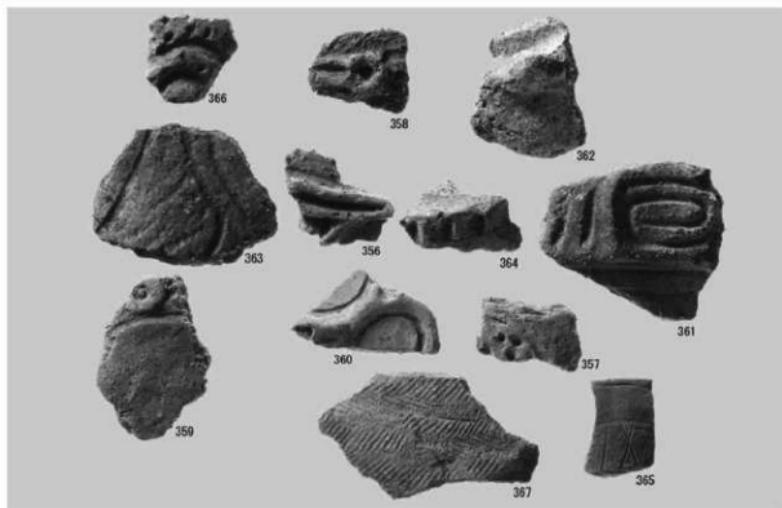
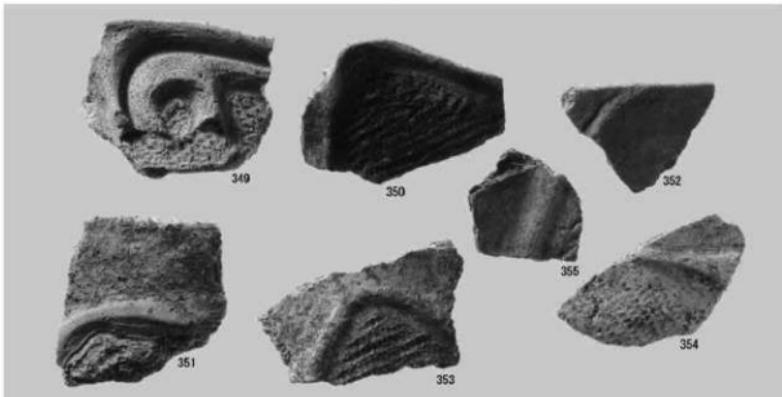
出土遺物(20)



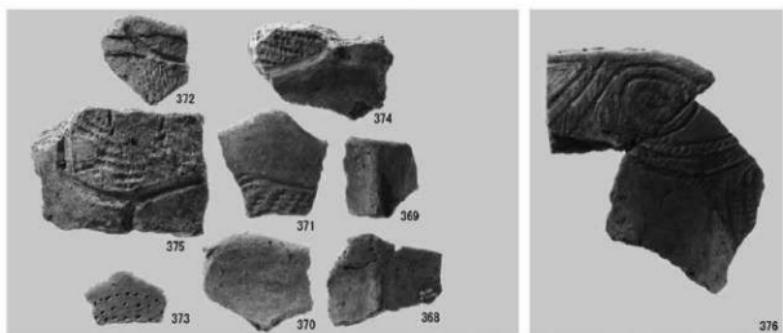
出土遺物(21)



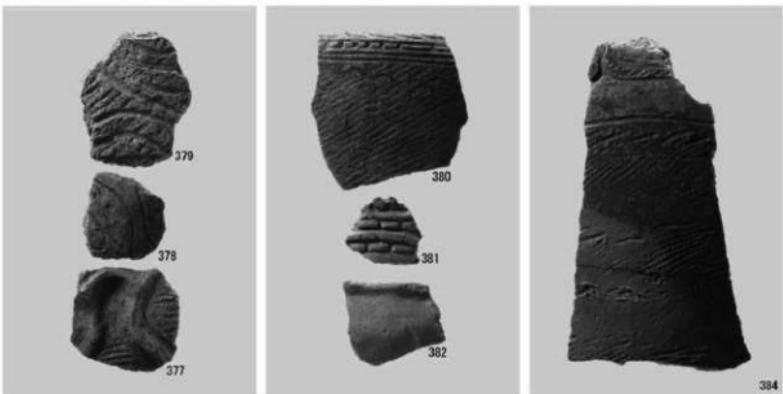
出土遺物(22)



出土遺物(23)



376



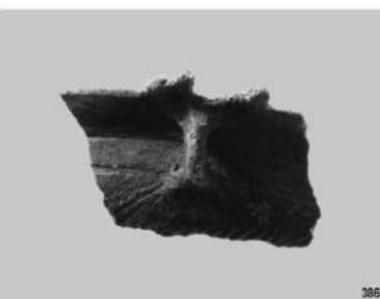
384



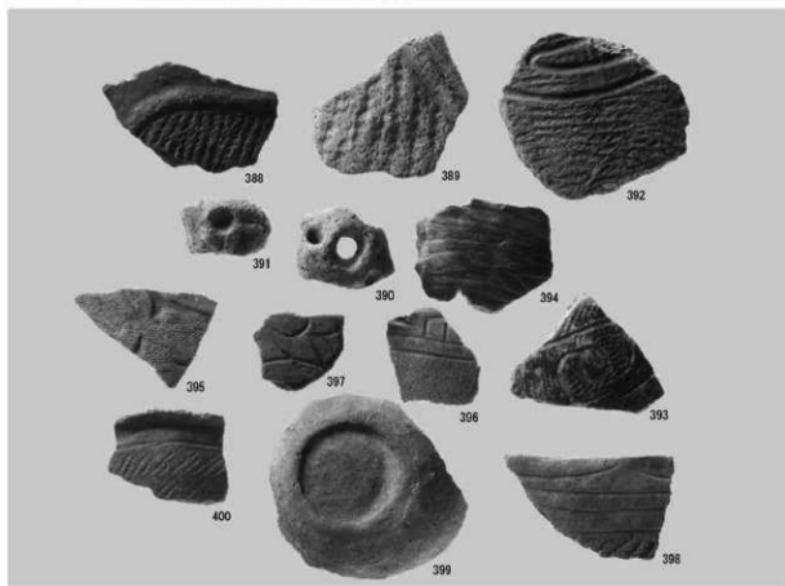
出土遺物(24)



385



386



388

389

392

391

390

394

395

397

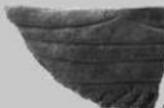
396

393

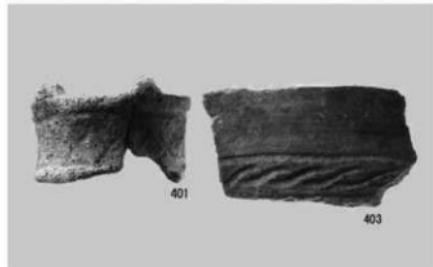
400



399



398

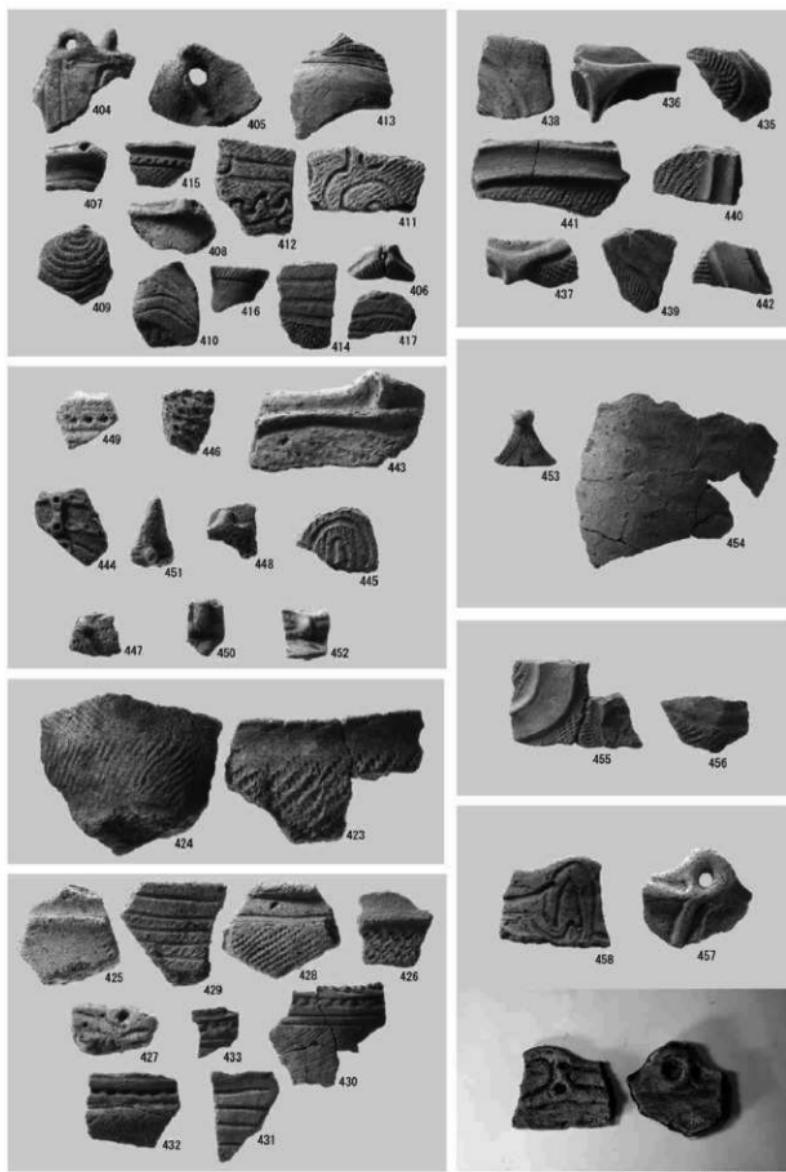


401

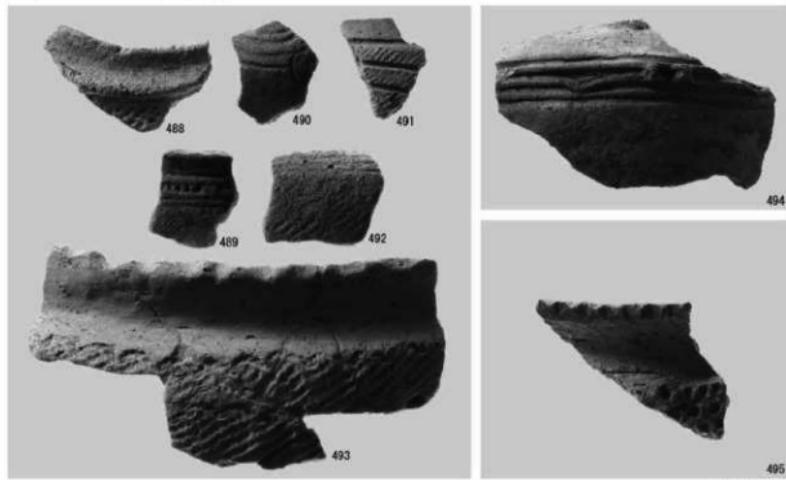
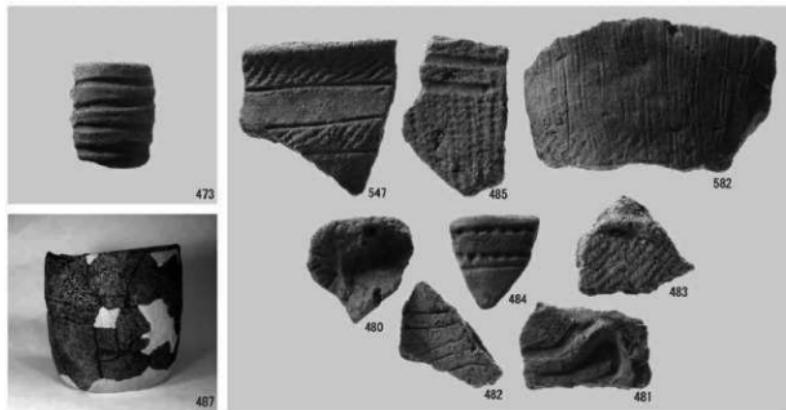
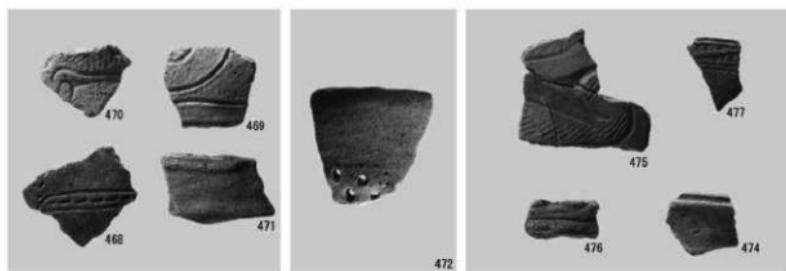
403



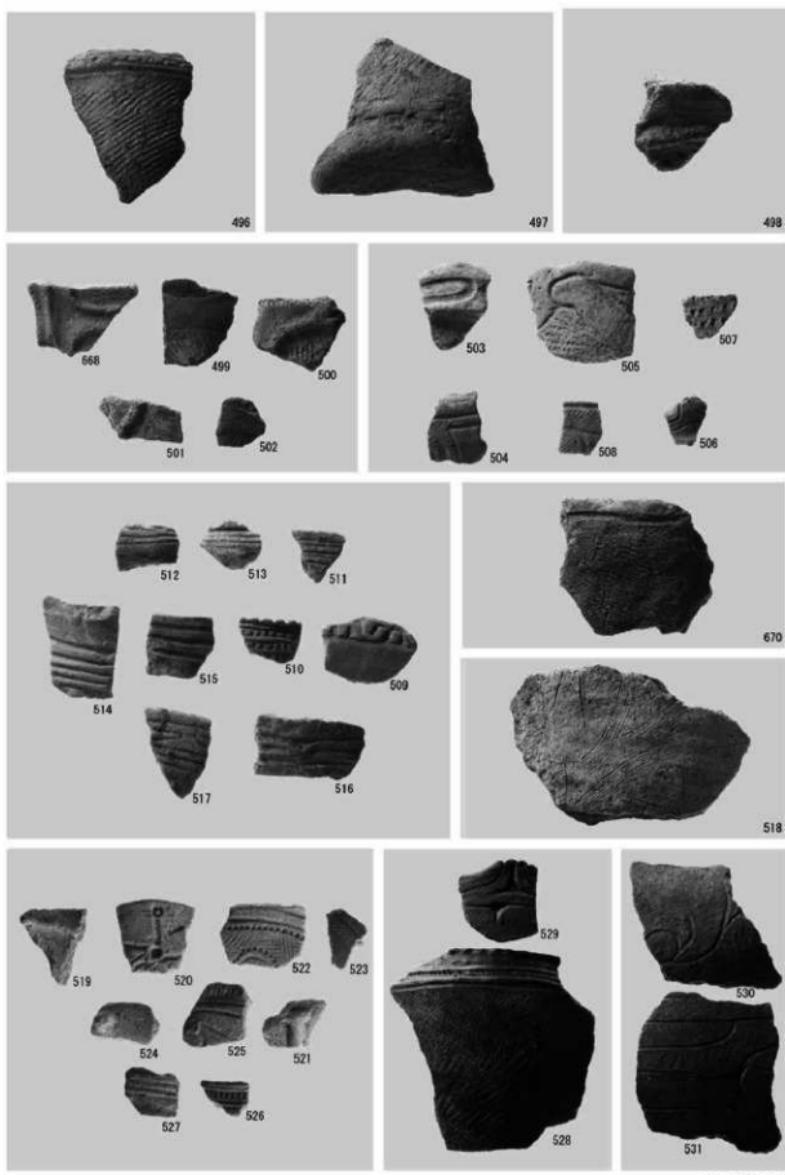
出土遺物(25)



出土遺物(26)



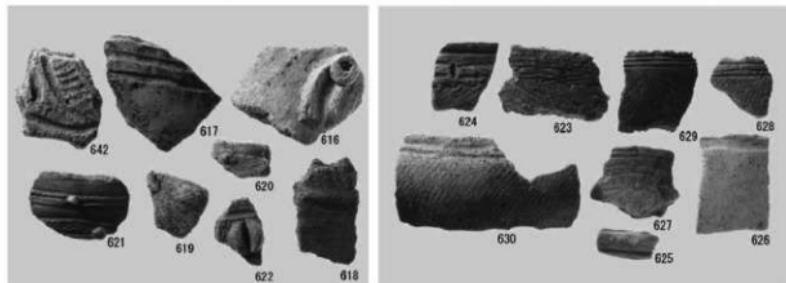
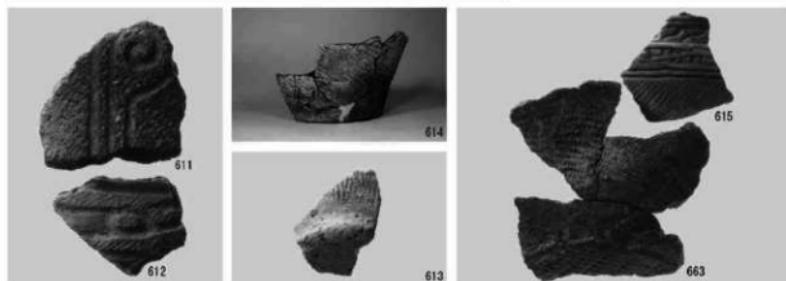
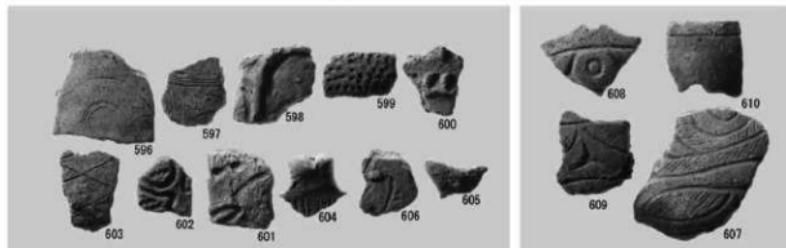
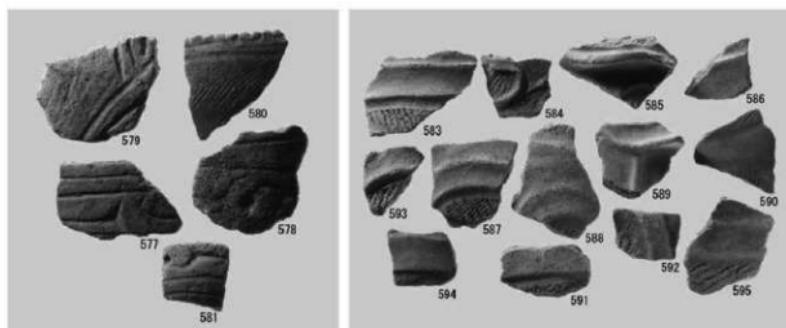
出土遺物(27)



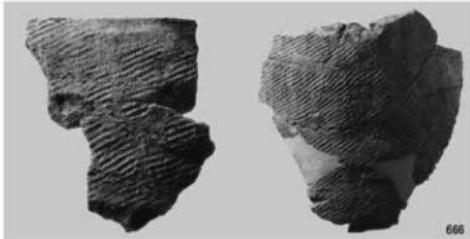
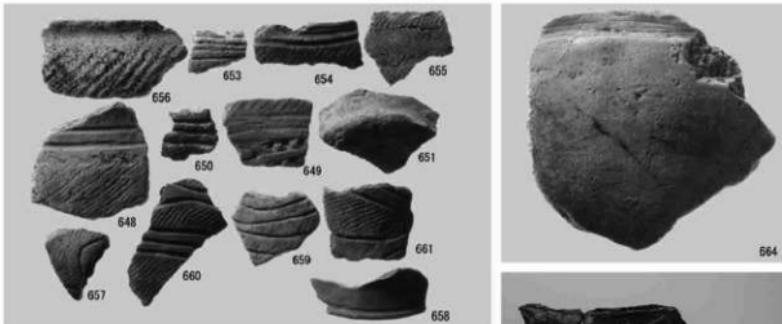
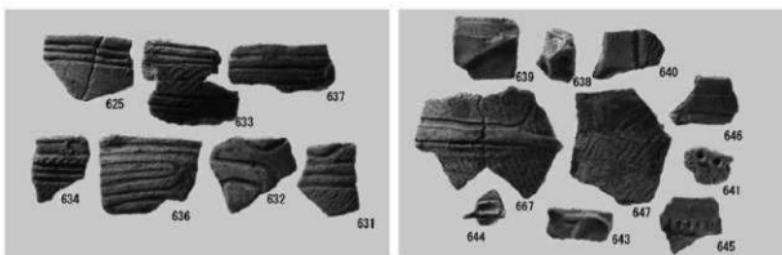
出土遺物(28)



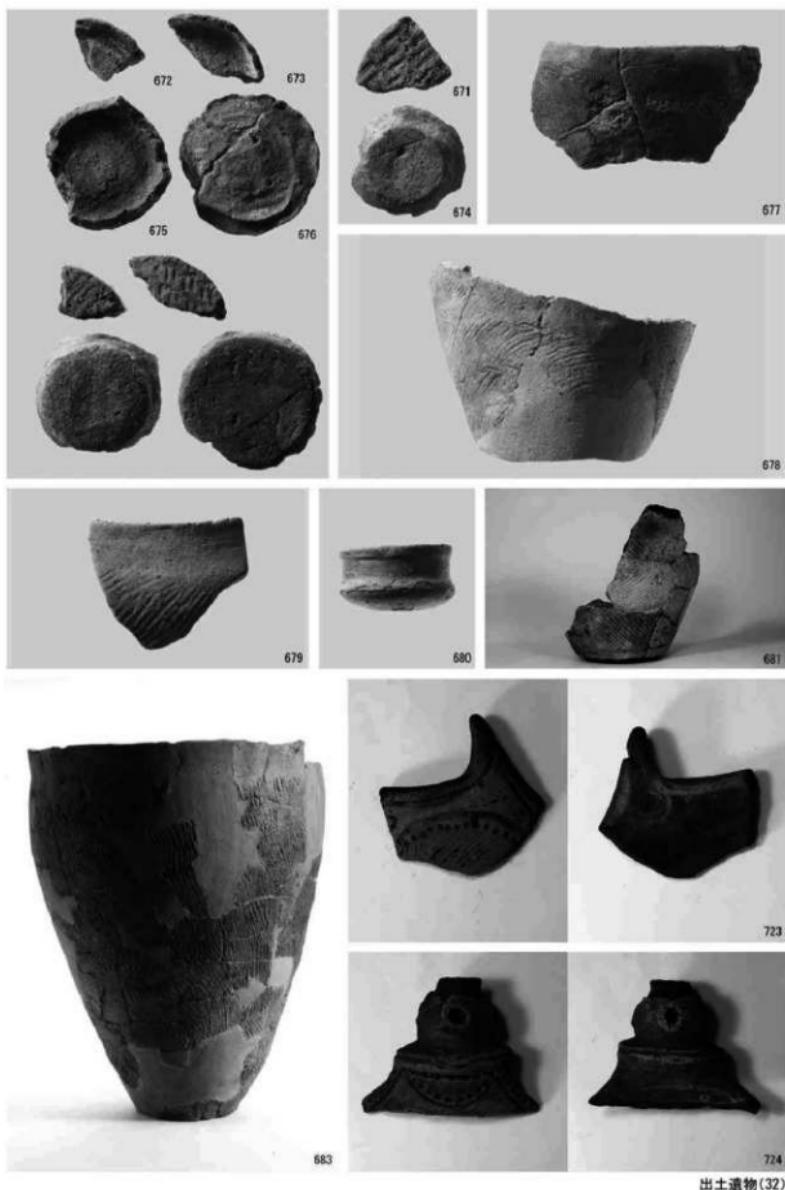
出土遺物(29)



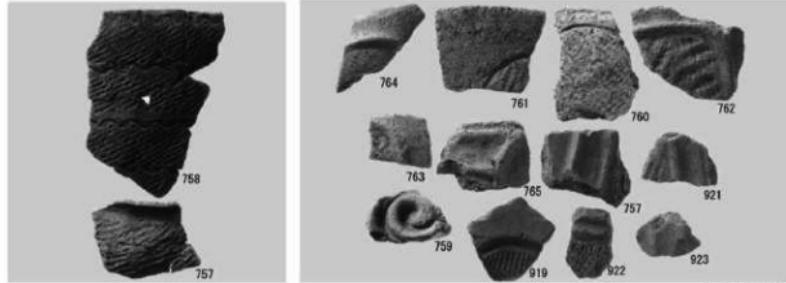
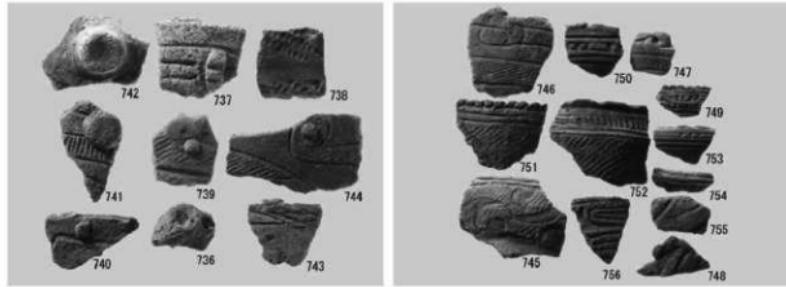
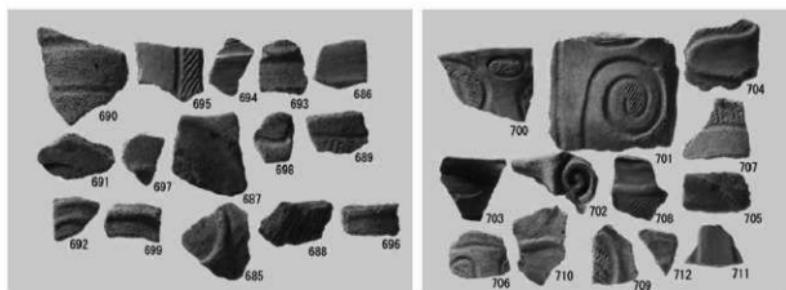
出土遺物(30)



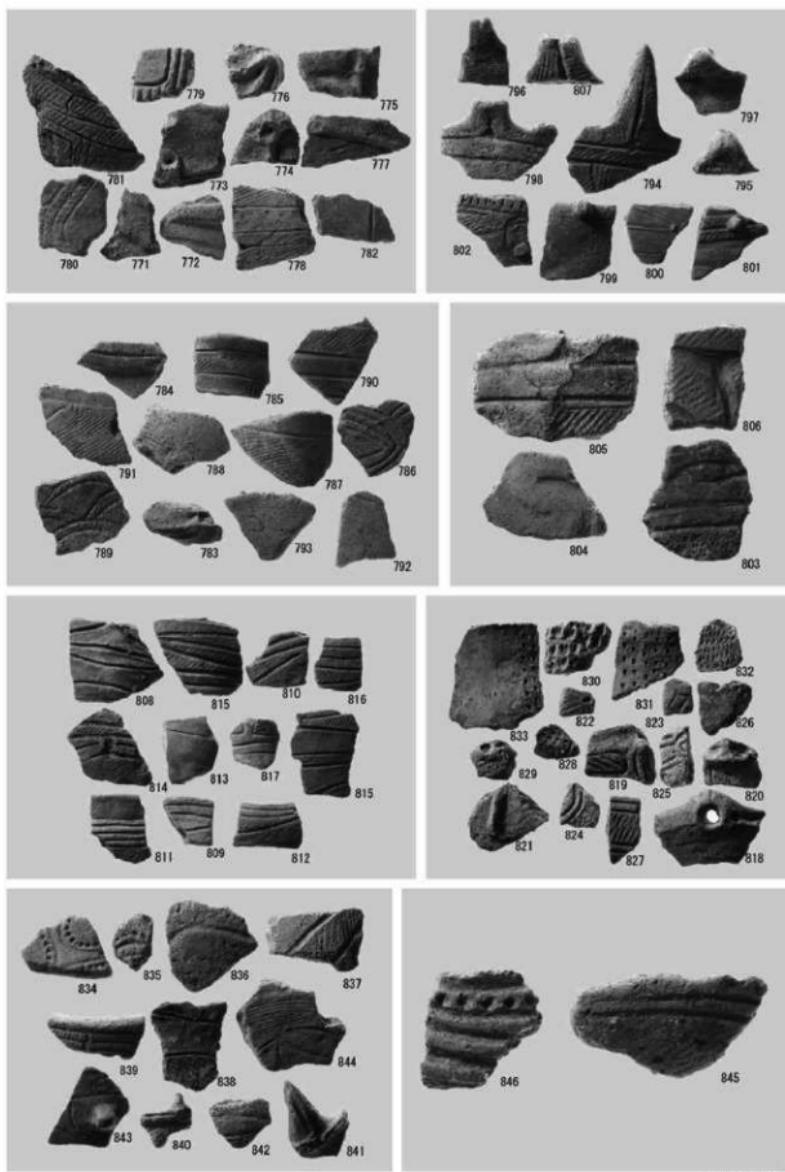
出土遺物(31)



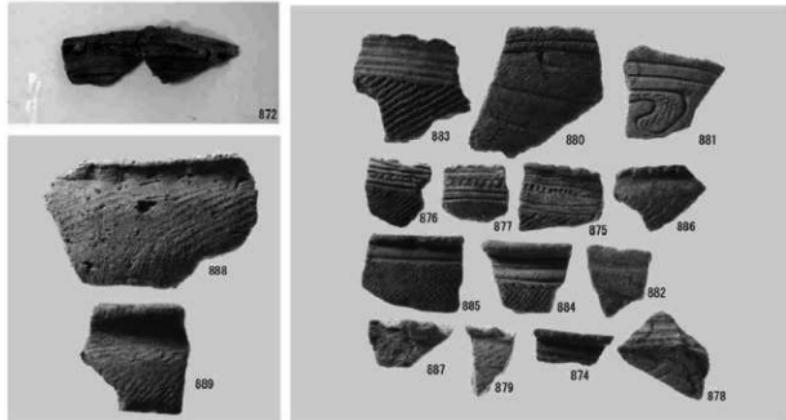
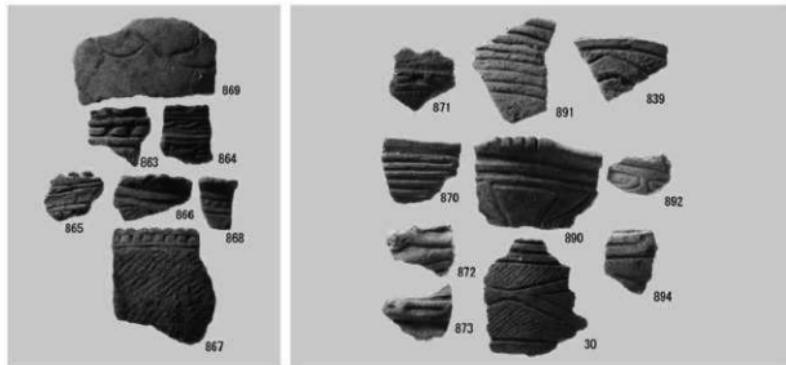
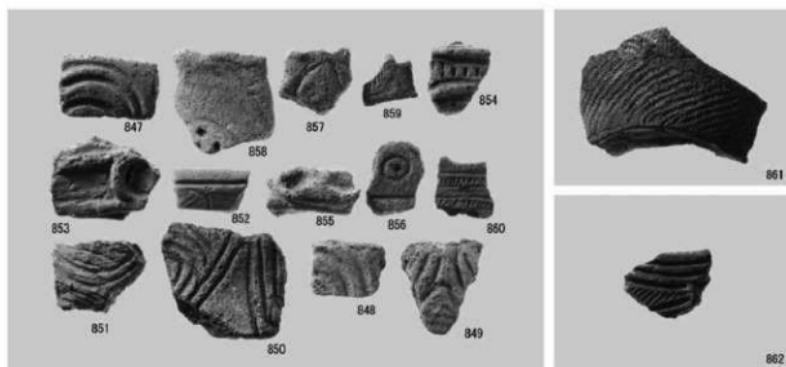
出土遺物(32)



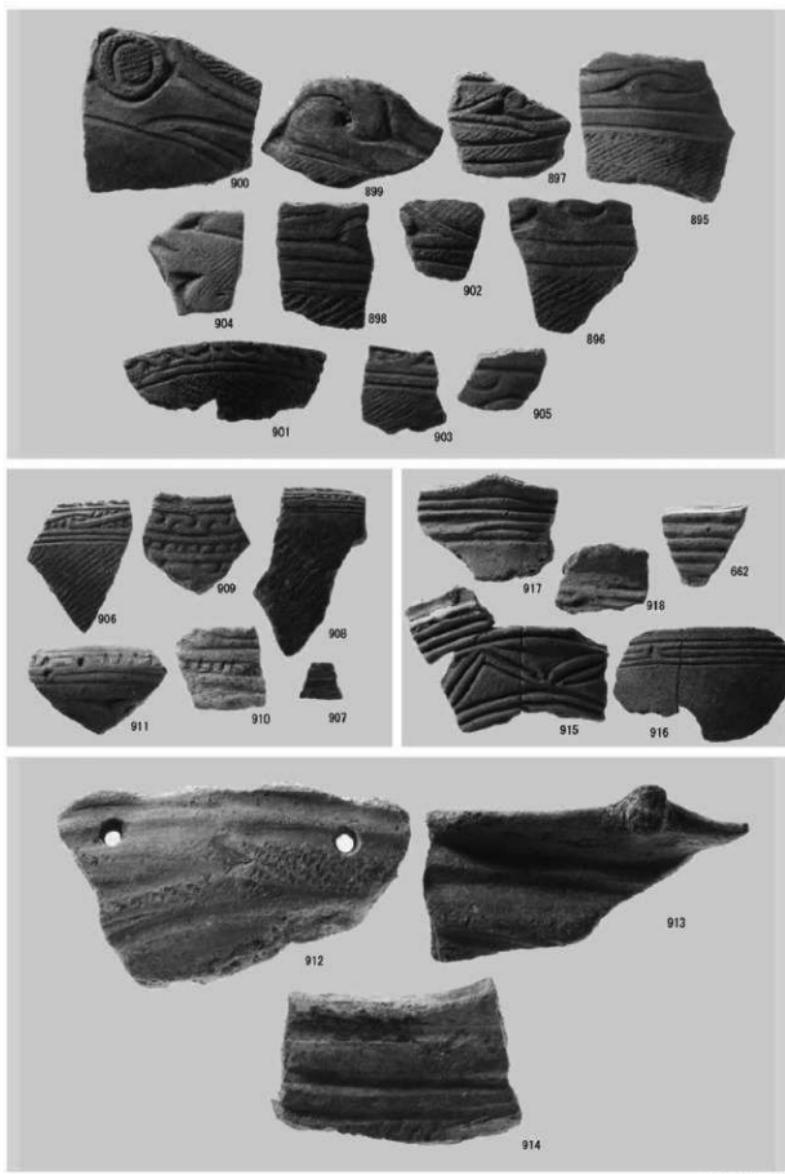
出土遺物(33)



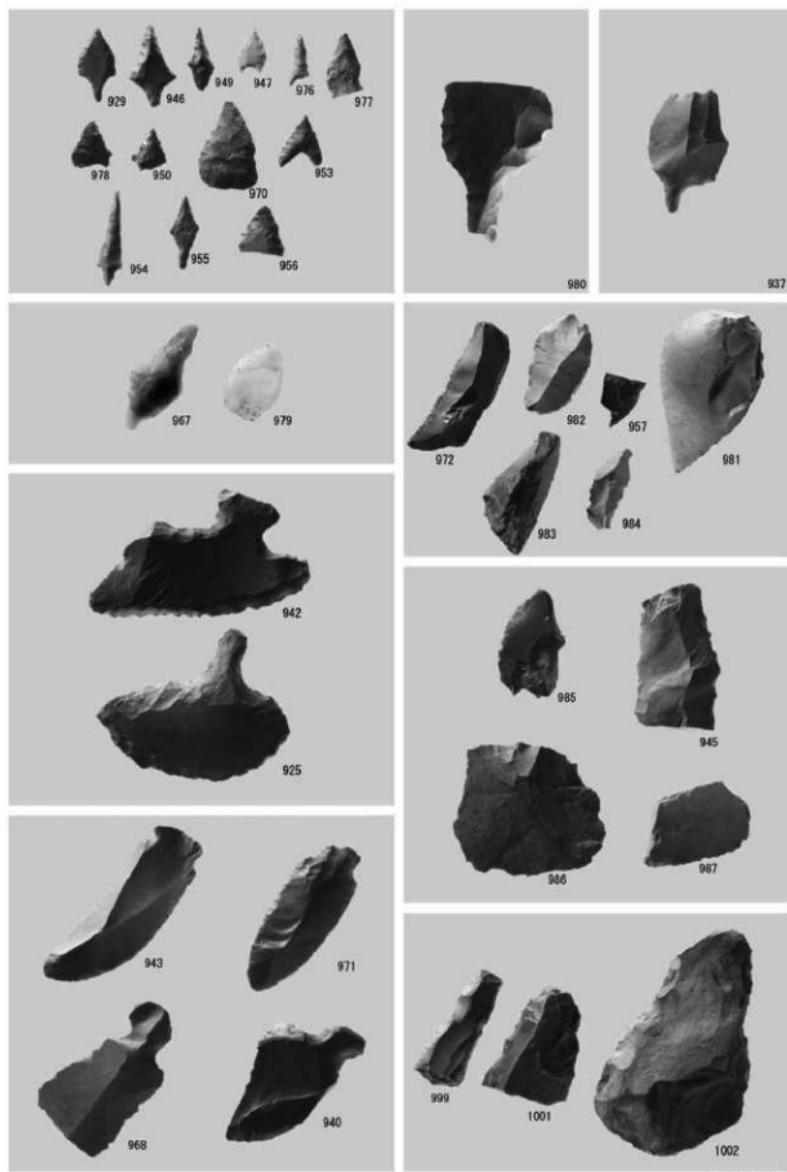
出土遺物(34)



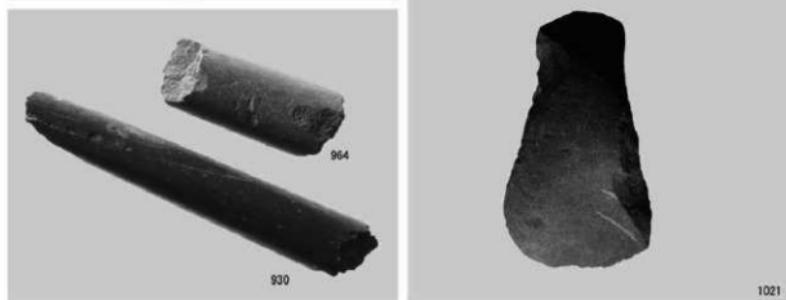
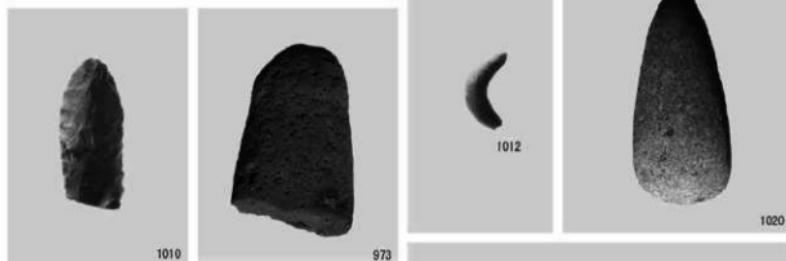
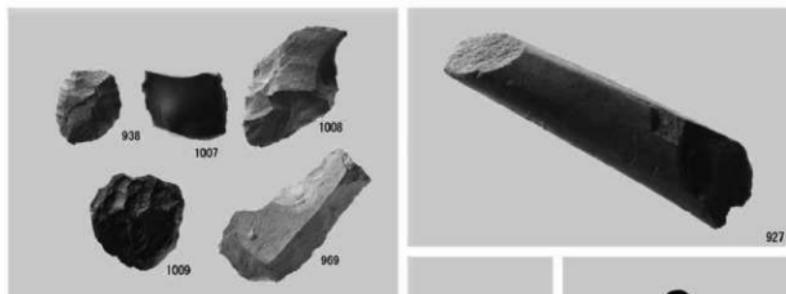
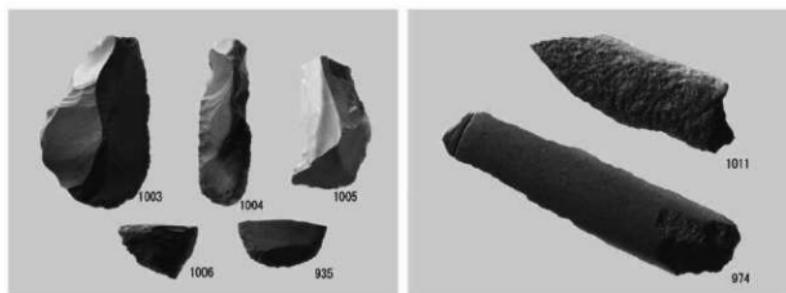
出土遺物(35)



出土遺物(36)



出土遺物(37)



出土遺物(38)



961



961



928



1017



926



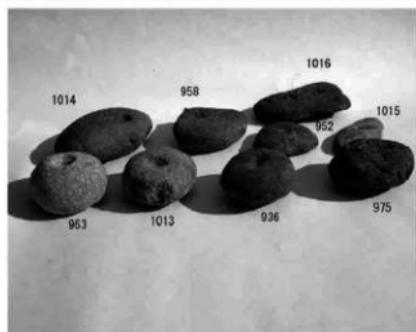
959



1018



939



1016

1014

958

963

1013

936

952

1015

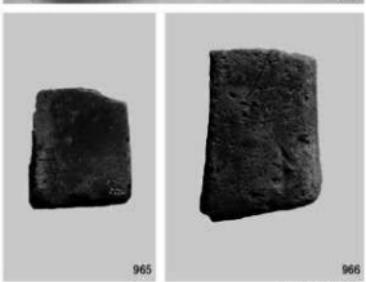
975



1019



948

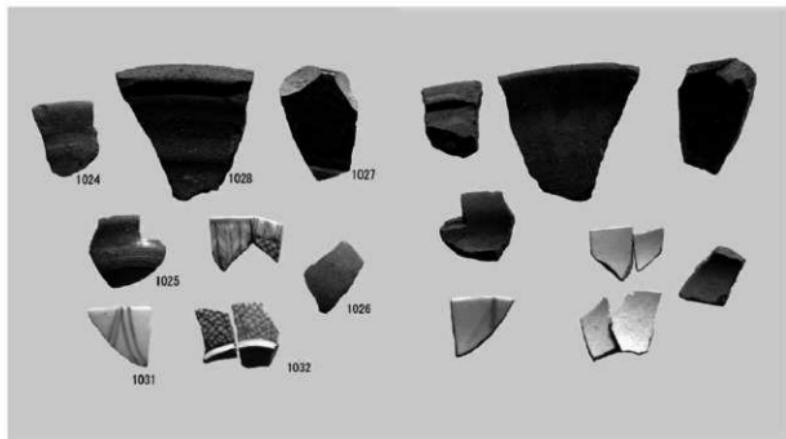
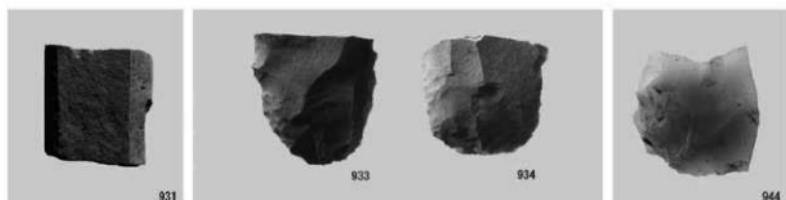


965



966

出土遺物(39)



出土遺物(40)



1029



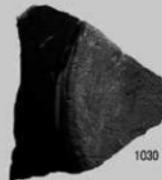
1033



1034



1035



1030



貝の化石



1036

1037

1038



出土遺物(41)

報告書抄録

ふりがな	いしばたけいせきはくつちょうさほうこくしょ						
書名	石畳遺跡発掘調査報告書						
副書名							
巻次							
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号	第164集						
編著者名	渡辺 淳一・押切 智紀						
編集機関	財団法人山形県埋蔵文化財センター						
所在地	〒999-3161 山形県上山市弁天二丁目15番1号 TEL 023-672-5301						
発行年月日	平成19年3月28日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
いしいだいせき 石畳遺跡	山形県 南陽市 金山川西 字石畳	6213	南陽市 M-1	38度 10分 76秒	140度 15分 90秒	20060515 — 20060810	2,000 主要地方道 山形南陽線 改良工事
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
集落跡	縄文時代	土坑 柱穴 溝跡 河川跡	1	縄文土器 石器・石製品	縄文時代中期末～晩期までの土坑などが検出された。縄文土器や石器などが、主に調査区北側から出土した。また、弥生時代の土器も少量出土した。近世の井戸跡が検出され、陶磁器も出土している。 (文化財認定数：60箱)		
	弥生時代			弥生土器			
	近世	井戸跡	1	陶磁器・錢貨			

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第164集

石畳遺跡発掘調査報告書

2007年3月28日発行

発行 財団法人 山形県埋蔵文化財センター
〒999-3161 山形県上山市弁天二丁目15番1号

電話 023-672-5301

印刷 山形印刷株式会社
〒990-2327 山形県山形市桜田東3丁目7番31号
電話 023-622-6291